

設 計 書

工事名称 松戸駅西口駅前広場ペデストリアンデッキ
接続工事

工事場所 松戸市本町24番地先

工 期 自 令和 6年 7月 日
至 令和 7年 3月 14日

設計年月日 令和 6年 3月 日

金 円
(工事価格 金 円)

前払金及工事出来高の内払回数については松戸市財務規則による。

部長	課長	補佐	担当	設計者

照査	検算

西口工事					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
直接仮設		1	式		
計					
防水改修	撤去	1	式		
防水改修	改修	1	式		
計					
外壁改修	撤去	1	式		
計					
躯体改修	撤去	1	式		
躯体改修	改修	1	式		
計					
外構改修	撤去	1	式		
外構改修	改修	1	式		
計					
発生材処理	運搬	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

西口工事		躯体改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(鉄筋)						
異形鉄筋	SD295 D10	0.4	t			
異形鉄筋	SD295 D13	0.1	t			
鉄筋スクラップ [※] 控除		1	式			
鉄筋加工組立		0.5	t			
鉄筋運搬費		0.5	t			
鉄筋溶接費	D10 フレア溶接 片面10d以上	220	か所			
溶接金網	φ6-100×100 材工共	28.2	m ²			
(コンクリート)						
普通コンクリート	Fc=21N/mm2 S=15cm	0.3	m ³			
普通コンクリート	Fc=21N/mm2 S=15cm	4.9	m ³			
普通コンクリート	Fc=18N/mm2 S=15cm	3.6	m ³			
コンクリート打設手間		1	式			
構造体強度補正		1	式			
目荒し	コンクリート面 床	3.4	m ²			
(型枠)						
型枠	普通合板型枠 地上部	4.5	m ²			
型枠運搬費		4.5	m ²			
床型枠用鋼製デッキ プレート	QL99-75-12 Z12 材工共	32	m ²			
コンクリート流れ止め	PL-2.3 H=195 W=295 曲げ加工 材工共	20	m			

西口工事		躯体改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(鉄骨)						
鋼板	SS400 PL-1.6	1	式			
鋼板	SS400 PL-9	0.1	t			
鋼板	SN400B PL-6	1	式			
鋼板	SN400B PL-9	1	式			
H形鋼	SN400B H-250×125×6×9	0.6	t			
H形鋼	SN400B H-350×175×7×11	0.5	t			
等辺山形鋼	SS400 L-90×90×7	0.2	t			
等辺山形鋼	SS400 L-100×100×7	1.1	t			
トルシア形高力ボルト	S10T M16 L=40	57	本			
トルシア形高力ボルト	S10T M20 L=55	65	本			
鉄骨スクラップ 控除		1	式			
鉄骨工場加工組立		2.8	t			
鉄骨工場溶接	半自動(すみ肉6mm換算)	16.2	m			
鉄骨工場錆止め塗装	JIS K 5674 工場2回塗り 素地C種共	80.6	m ²			
鉄骨建方		2.8	t			
鉄骨現場溶接	半自動(すみ肉6mm換算)	42.1	m			
超音波探傷試験	現場 100%	42	か所			
トルシア形高力ボルト締付け	トルシア形 高力ボルト締付け 1,000本未満 施工手間	116	本			
鉄骨運搬	11t車	2.8	t			

西口工事		躯体改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
鉄筋スクラップ 控除		1	式			
鉄筋スクラップ 控除		1	式			
計						
コンクリート打設手間		1	式			
コンクリート打設手間	手摺コンクリート 人力打設	0.3	m3			
コンクリート打設手間	デッキ床版コンクリート 人力打設	4.9	m3			
コンクリート打設手間	防水押えコンクリート 人力打設	3.6	m3			
計						
構造体強度補正		1	式			
構造体強度補正	Fc=21+3N/mm2 S=15cm 手摺	0.3	m3			
構造体強度補正	Fc=21+3N/mm2 S=15cm スラブ 床版	4.9	m3			
計						
鉄骨スクラップ 控除		1	式			
鉄骨スクラップ 控除		0.1	t			
計						

名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
仮設事務所	組立ハウス 2K×3K 7.0ヶ月	1	か所			
デッキ階仮囲い	H=2000 鋼板 3.0ヶ月	35.4	m			
キャスターゲート	W=3.6m 3.0ヶ月	1	か所			
1階仮囲い	H=2000 鋼板 3.0ヶ月	39	m			
落下防止手摺	単管2段+垂直ネット 3.0ヶ月	25.6	m			
1階事務所仮囲い	H=2000 鋼板 7.0ヶ月	35	m			
枠組本足場 (手すり先行方式) (夜間)	建枠 1200×1700 2.0ヶ月 12m未満	95	m ²			
枠組天井棚足場 (夜間)	H=3.0m 3.0ヶ月	81	m ²			
ローリングタワー(夜間)	H=3.0m 1.0ヶ月	1	台			
カニクレーン(夜間)	1.0ヶ月 12日使用	1	台			
同上回送(夜間)	4tユニット	2	台			
クレーン揚重用ラフテレン クレーン運転(油圧伸 縮ジブ型)(夜間)	25t吊り ホール付き 賃料 標準	2	台			
仮設用ラフテレンクレーン 運転(油圧伸縮ジブ 型)(夜間)	25t吊り ホール付き 賃料 標準	2	台			
鉄骨用ラフテレンクレーン 運転(油圧伸縮ジブ 型)(夜間)	25t吊り ホール付き 賃料 標準	2	台			
アスベスト含有試験費	定性分析	3	か所			
保安要員		1	式			
計						

躯体改修(材料)								
名 称	摘 要	単 位	数 量	単 価	金 額	丸 め	備 考	
異形鉄筋	SD295 D10	t	1					
異形鉄筋	SD295 D13	t	1					
鉄筋スクラップ 控除		式	1					
鉄筋スクラップ 控除		t	1					
普通コンクリート	Fc=18N/mm ² S=15cm	m ³	1					
普通コンクリート	Fc=21N/mm ² S=15cm	m ³	1					
普通コンクリート	Fc=21N/mm ² S=15cm	m ³	1					
構造体強度補正	Fc=21+3N/mm ² S=15cm 手摺	m ³	1					
構造体強度補正	Fc=21+3N/mm ² S=15cm スラブ床版	m ³	1					
鋼板	SS400 PL-1.6	式	1					
鋼板	SS400 PL-1.6	t	1					
鋼板	SS400 PL-9	t	1					
鋼板	SN400B PL-6	式	1					
鋼板	SN400B PL-6	t	1					
鋼板	SN400B PL-9	式	1					
鋼板	SN400B PL-9	t	1					
H形鋼	SN400B H-250×125×6×9	t	1					
H形鋼	SN400B H-350×175×7×11	t	1					
等辺山形鋼	SS400 L-90×90×7	t	1					
等辺山形鋼	SS400 L-100×100×7	t	1					

躯体改修							
名称	摘要	単位	数量	単価	金額	丸め	備考
鉄筋加工組立		t	1				
鉄筋運搬費		t	1				
鉄筋溶接費	D10 フラグ溶接 片面10d以上	か所	1				
溶接金網	φ6-100×100 材工共	m ²	1				
コンクリート打設手間	手摺コンクリート 人力打設	m ³	1				
コンクリート打設手間	デッキ床版コンクリート 人力打設	m ³	1				
コンクリート打設手間	防水押えコンクリート 人力打設	m ³	1				
型枠	普通合板型枠 地上部	m ²	1				
型枠運搬費		m ²	1				
床型枠用鋼製デッキプレート	QL99-75-12 Z12 材工共	m ²	1				
コンクリート流れ止め	PL-2.3 H=195 W=295 曲げ加工 材工共	m	1				
鉄骨工場加工組立		t	1				
鉄骨工場溶接	半自動(すみ肉6mm換算)	m	1				
鉄骨工場錆止め塗装	JIS K 5674 工場2回塗り 素地C種共	m ²	1				
鉄骨建方		t	1				
鉄骨現場溶接	半自動(すみ肉6mm換算)	m	1				
超音波探傷試験	現場 100%	か所	1				
トルシア形高力ボルト締付け	トルシア形鉄骨 1,000本未満 施工手間	本	1				
鉄骨運搬	11t車	t	1				
スタットボルト	梁 φ16 H=150 現場施工 材工共	本	1				

工 事 概 要

1. 工事名称 松戸駅西口駅前広場ペDESTロリアンデッキ接続工事
2. 工事場所 松戸市本町24番地先
3. 工事概要 松戸駅西口駅前広場ペDESTロリアンデッキについて以下の工事を行う。
松戸駅西口駅前広場のペDESTロリアンデッキ一部床 (32㎡) を増床する。
(1) 鉄骨工事 一式
(2) 鉄筋コンクリート工事 一式
(3) その他取り合い部撤去、補修、仕上げ工事 一式

4. 工 期 自

至 令和7年3月14日

現場説明書

1. 工事名称 松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事

2. 工事場所 松戸市本町24番地先及び

3. 説明事項

<一般事項>

- ・本工事は、内容により道路（ペDESTリアンデッキ含む）上での作業や夜間作業となるため、工事に先立ち関係官公署等への事前協議や申請等手続きを確実に行うこと。
- ・騒音、振動が発生する作業は、関係官公署等への届出を行い、周辺への配慮を怠らないこと。
- ・監理技術者にあつては、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者であること。また、工事における安全対策、工務をそれぞれ管理できるよう体制を整えること。
- ・契約後、各施工計画書等は遅滞なく作成し承諾を得ること。
- ・設計書と異なる内容が生じた場合については、協議のうえ、必要に応じて契約変更を行う。
- ・新設床部分の床タイルについては、市の所持する材料を使用し、工事を行うこと。

<安全対策等>

- ・仮囲いの設置にあつては、駅前広場利用者動線に配慮した配置とすること。
- ・上記仮囲いの設置については、松戸まつりなどのイベントに配慮すること。
- ・工事期間中は、常に駅利用者、バス、タクシーの動線に配慮し、第三者災害及び交通事故防止の対策を怠らないこと。バス、タクシー事業者に対しては、状況に応じた臨機の協議を行うなど、連携した施工を行うこと。
- ・近隣住民等より、特定建設作業・作業時間等に係る要望・相談等があつた場合は、誠意をもって対応し、監督職員と協議のうえ対策を講じること。

<共通仮設>

- ・工事における仮囲い・事務所・作業員の駐車スペースなどの仮設計画については、別添施工ステップ図（工事内容時系列想定図）を参照の上、各工事の施工時期・内容に応じた計画とすること。当該仮設計画については、総合施工計画書に仮設計画図として添付すること。（仮囲い設置範囲の道路占用許可手続きについては監督職員と協議を行うこと。）
- ・JRが実施している松戸駅駅舎改良工事において、工事範囲内への搬入に伴う立入が発生するため、配慮した仮設計画とすること。
- ・工事期間中は、準備期間を含めて有能な交通誘導員を配置し、現場内における安全確保に努めなければならない。なお、必要となる交通誘導員の人数については、作業形態に応じた配置計画等とともに、あらかじめ監督職員と協議すること。

<週休2日制適用工事>

- ・本工事は、週休2日工事（発注者指定方式）である。
- ・受注者は、現場閉所（休息）による週休2日工事として取り組むこと。なお、予定価格算定にあつては、4週8休達成相当の経費を補正している。
- ・週休2日制の実施にあつては、「松戸市営繕工事週休2日工事試行実施要領」に基づき行うこと。
- ・週休2日制適用の工事工程については、別添概略工程表を参照の上、計画すること。

<その他>

- ・本工事は、ワンデーレスポンス対象工事である。
「ワンデーレスポンス」とは、受注者からの質問、協議への回答は、基本的に閉庁日を除く24時間以内（以下「その日のうちに」という。）に回答するよう対応することである。ただし、即日回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを受注者に確認の上、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうちに」することとする。
 - 1) 受注者は、施工計画に基づいて適正な計画工程を作成し、工事の先々を予見しながら施工すること。
 - 2) 受注者は、工事施工中において、問題が発生した場合及び計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じる恐れがある場合は、原因を究明するとともに速やかに文書にて監督職員へ報告すること。

<注意事項>

提出書類は松戸市建築工事提出書類等一覧表による。

検査・立会は松戸市建築工事検査・立会一覧表による。

落札者は契約締結後、書式データ・図面データ等をお渡しするのでCD-R等を街づくり課へ持参してください。

《 松戸市建築工事提出書類等一覧表 》

1. 工事名称 松戸駅西口駅前広場ペDESTロリアンデッキ接続工事
2. 工事場所 松戸市本町24番地先
3. 工期 自 令和 6 年 月 日
至 令和 7 年 3 月 14 日
4. CADデータの貸与 有 無

	摘 要	様式	部数	基準等	提出責任者 ※記入無は 現場代理人
工 事 着 工 前 に 提 出	<ul style="list-style-type: none"> ■現場代理人及び主任技術者又は、監理技術者選任届出書（経歴書・写真貼付） ※監理技術者にあつては、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証の写しを添付 	報告	1	請負契約11条	代表者
	<ul style="list-style-type: none"> □電気保安技術者通知書 （経歴書・資格者証の写し） 	報告	1	標仕1.3.3	
	<ul style="list-style-type: none"> ■技能士通知書（資格者証の写し） 	報告	1	標仕1.5.2	
	<ul style="list-style-type: none"> ■工事实績情報（工事カルテ）の登録 （受注登録工事カルテ受領書、受注登録データ） ※500万以上 	報告	1	標仕1.1.4	
	<ul style="list-style-type: none"> ■実施工程表（中身に社印捺印） ※建築・電気・機械などの関連工事工程も記載 	承諾	2	標仕1.2.1	代表者
	<ul style="list-style-type: none"> ■総合施工計画書 <ul style="list-style-type: none"> ■1 組織表、緊急連絡体制、仮設計画図 ■2 工事概要、建物概要、予想される災害・公害対策、出入口の管理、危険箇所の点検方法、火災予防、養生・片付け、品質管理など 	報告	1	標仕1.2.2	
	<ul style="list-style-type: none"> ■火災保険、建設工事保険、その他の保険の写し （原本照合の上、原本還付） ※新築・大規模など 	報告	1	請負契約53条	
	<ul style="list-style-type: none"> ■敷地周辺状況調査報告書（写真貼付） （しゅん工時も提出のこと） 	報告	1		
	<ul style="list-style-type: none"> ■設計図書の照査に関する確認報告書 	報告	1	請負契約19条	代表者

	摘 要	様式	部数	基準等	提出責任者 ※記入無は 現場代理人
工 事 着 工 前 に 提 出	■ 施工体制台帳・施工体系図 (請負金額に係わらず全ての建設工事で提出。施工体制台帳は現場に備付け、施工体系図は見易い場所に掲示) ※長期の場合、下請業者決定後随時提出。手引参照。	報告	2	標仕1.1.5 松戸市規定	代表者
	■ 下請業者選定通知書 ※長期の場合、下請業者決定後随時提出。手引参照	報告	2	請負契約7条	代表者
	■ 再資源利用(促進)計画書 ※100万以上	電子データ	1	標仕1.3.11	
	■ 関係官公署その他の関係機関への届出等	報告	1	標仕1.1.3	
工 事 中 に 提 出	■ 詳細工程表(月間工程表)	報告	1	標仕1.2.1	
	■ 月報(出来高・進捗表・日報・写真) ※作成基準例:新築・大規模や工期が長い工事	報告	1		
	<input type="checkbox"/> 定例打合せ記録	報告	1		
	<input type="checkbox"/> 地業(既製コンクリート杭等)工事結果報告書	報告	1	標仕4.2.5	主任・現場
	■ 使用材料品質証明書	報告	1	標仕1.4.2	
	■ 各種の試験結果報告書	報告	1	標仕1.4.5	主任・現場
	■ 発生材処理報告書 産廃業者と契約書の写し(単価記載) 産廃業者の許可書の写し(運搬・処分共) 産廃業者処分状況写真 産廃業者マニフェストの写し ※A票に各票の受理印を押し、全ての写しを提出	報告	1	標仕1.3.11	
	<input type="checkbox"/> 発生土処理報告書	報告	1		
	■ 工種別施工計画書 ※ 要技能資格作業は資格者名簿・資格者証を添付 ※ 主要材料・機器の仕様・数量等明記	承諾	2	標仕1.2.2 標仕1.5.3	主任・現場
	■ 施工図等(施工図、製作図、カタログ等) ※施工図、製作図などは主任・現場が全ての図面に捺印	承諾	2	標仕1.2.3	主任・現場
	<input type="checkbox"/> 出来高検査 1 出来高検査願 2 出来高報告書	市様式 報告	1 1	請負契約38条	
	■ 現場休止届(年末年始・GW・夏季等) ※安全管理措置、警備体制、緊急連絡先を記載	市様式	1		

	摘 要	様式	部数	基準等	提出責任者 ※記入無は 現場代理人
工 事 完 成 後 に 提 出	■しゅん工届	市様式	1	標仕1.6.1	代表者
	■自主検査記録（現場代理人以外の検査とする）	報告	1	標仕1.2.4	代表者
	■工事写真（建築工事写真撮影基準に準拠）				
	1 完成写真（着工前と完成を見開きで対比できること 完成は看板を入れない）	写真帳	2	一部合本	
	2 工事記録写真（巻末に立会検査実施記録表をつけて立会写真を綴る）	写真帳	1		
	□キャビネ版 完成写真		1		
	■完成図			標仕1.7.2	
	□ 1 黒 金文字製本	A4折	1		
	■ 2 現場製本図	2折	4		
	■電子納品				
	■ 電子媒体	CD-R	3		
	■ 電子納品納付書		1		
	■工事实績情報（工事カルテ）の登録 （竣工登録工事カルテ受領書、竣工登録データ） ※2500万以上	報告	1	標仕1.1.4	
	■再資源利用（促進）実施書 ※100万以上	電子データ	1	標仕1.3.11	
	■防水工事に関する保証書 各種防水仕様による保証書（特記仕様による） 元請業者、製造業者、及び防水施工業者の連名	保証書	3		
■引き渡し関係					
■ 1 予備品等引渡通知書（リスト共）		3			
□ 2 キーボックス					
■保全に関する資料			標仕1.7.3		
■ 1 建物などの保守に関する説明書		2			
■ 2 機器取扱い説明書		2			
■ 3 機器性能試験成績書		1			
■ 4 官公署届出書類		1			
■ 5 主要材料・機器一覧表	報告	1			

《 松戸市建築工事検査・立会い一覧表 》 建築工事編

1. 工事名称 松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事

2. 工事場所 松戸市本町24番地先

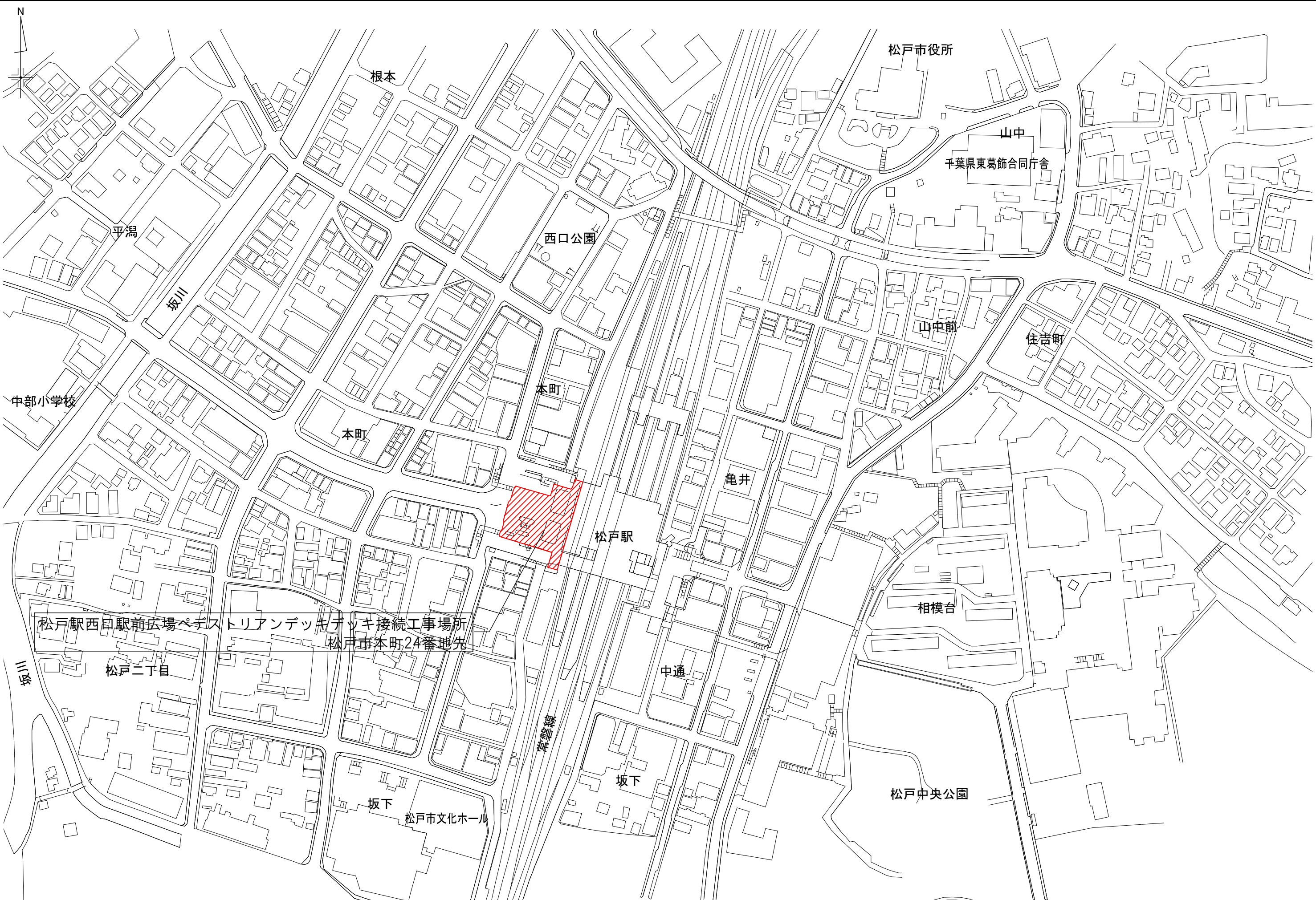
3. 工期 自 令和 6 年 月 日

至 令和 7 年 3 月 14 日

標 仕：公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和4年版

改標仕：公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)令和4年版

No	検査・立会い項目	基準等	備考
1	検査		
	■ 1 品質管理検査(必要に応じて)	標 仕 1.3.6 改標仕 1.3.6	
	■ 2 材料の検査(承諾済は除く)	標 仕 1.4.4 改標仕 1.4.4	
	■ 3 一工程の施工の確認及び報告による検査	標 仕 1.5.5 改標仕 1.6.5	
	■ 4 監督職員の指示による検査	標 仕 1.5.5 改標仕 1.6.5	
	□ 5 敷地の状況確認及び縄張り	標 仕 2.2.1	
	□ 6 ベンチマーク	標 仕 2.2.2	
	□ 7 遣方	標 仕 2.2.3	
	□ 8 根切り	標 仕 3.2.1	
	□ 9 試験杭	標 仕 4.5.5	
	■ 10 配筋検査	標 仕 5.1.3 改標仕 8.3.1	
	■ 11 コンクリート打ち込み後補修	標 仕 6.9.6 改標仕 8.8.6	
	■ 12 高力ボルト締付確認の記録	標 仕 7.4.8 改標仕 8.14.8	
	■ 13 鉄骨建方	標 仕 7.10.5	
	■ 14 鉄骨現場組立て	改標仕 8.19.3	
	□ 15 鋼板巻組立て	改標仕 8.23.6	
	■ 16 防水層の施工	標 仕 9.1.3 改標仕 3.1.3	
	□ 17 タイル張施工後の接着試験不合格の場合	標 仕 11.1.5	
	■ 18 部分使用		
	□ 19 出来高		
2	立会い		
	■ 1 材料の検査に伴う試験	標 仕 1.4.5 改標仕 1.4.5	
	■ 2 監督職員の指示による立会い	標 仕 1.5.7 改標仕 1.6.7	
	□ 3 コンクリートの製造(試し練り)		
	□ 4 吹付けアスベストの除去	改標仕 9.1.2	
	□ 5 アスベスト成型板の処理	改標仕 9.1.5	



松戸駅西口駅前広場ペデストリアンデッキデッキ接続工事場所
松戸市本町24番地先

松戸駅西口駅前広場ペデストリアンデッキ接続工事

令和6年 3月

- A 建築意匠図
- S 建築構造図
- P 給排水衛生設備図
- M 空調・機械設備図
- E 電気設備図

松 戸 市

図面番号	図面名	縮尺	
		A 1	A 3
A000	図面リスト	-	-
A001	建築工事特記仕様書 (1)	-	-
A002	建築工事特記仕様書 (2)	-	-
A003	建築工事特記仕様書 (3)	-	-
A004	建築工事特記仕様書 (4)	-	-
A005	建築工事特記仕様書 (5)	-	-
A006	建築工事特記仕様書 (6)	-	-
A007	建築工事特記仕様書 (7)	-	-
A008	建築工事特記仕様書 (8)	-	-
A009	建築工事特記仕様書 (9)	-	-
A010	建物概要・案内図	-	-
A011	西口デッキ 工事範囲図 (新設)	S=1:300	S=1:600
A012	西口デッキ 工事範囲図 (撤去)	S=1:300	S=1:600
A013	西口デッキ デッキ階平面図	S=1:150	S=1:300
A014	西口デッキ 地上階天井伏図	S=1:150	S=1:300
A015	西口デッキ デッキ階各部平面図	S=1:80	S=1:160
A016	西口デッキ 駅舎取合部断面詳細図	S=1:10	S=1:20
A017	西口デッキ 部分詳細図	S=1:4	S=1:8
A018	西口デッキ デッキ階平面図 (撤去図)	S=1:150	S=1:300
A019	西口デッキ 地上階天井伏図 (撤去図)	S=1:150	S=1:300
A020	西口デッキ 4通り立・断面図 (撤去図)	S=1:150	S=1:300
A021	西口デッキ デッキ塞ぎ部断面詳細図	S=1:10	S=1:20
S01	建築工事特記仕様書 (構造関係)	-	-
S02	構造関係共通事項	-	-
S03	R C配筋容量図 (1)	-	-
S04	R C配筋容量図 (2)	-	-
S05	R C配筋容量図 (3)	-	-
S06	S要領図 (1)	-	-
S07	S要領図 (2)	-	-
S08	溶接基準図	-	-
S09	デッキ階 改修伏図	S=1:100	S=1:200
S10	デッキ階 撤去伏図	S=1:100	S=1:200
S11	部分詳細図	S=1:20, 30, 100	S=1:40, 60, 200
S12	部材リスト	S=1:30, 20	S=1:60, 40

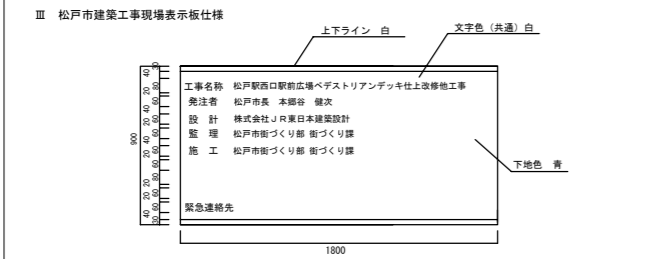
工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事		
図面名	図面リスト		
作成日	令和 6年 3月		
縮尺	A1 (A3)	図面番号	A-000 S-00
会社名	株式会社JR東日本建築設計		
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課		

Project information table including project name (松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続他工事), design type (工事設計図), and date (令和 6年 3月).

- 特記仕様書 (Special Specifications)
1. 工事概要 (Project Overview)
2. 工事場所 (Work Location)
3. 敷地面積 (Site Area)
4. 工事種目 (Work Item)
5. 工事概要 (Project Overview)
6. 工事種目 (Work Item)

Table with 2 columns: 工事種目 (Work Item) and 工事範囲 (Work Scope). Lists items like 仮設工事, 土工, 地業工事, etc.

- Ⅱ 建築工事仕様 (Construction Specifications)
1. 共通仕様 (General Specifications)
2. 電気設備工事及び機械設備工事 (Electrical and Mechanical Equipment Work)
3. 特記仕様 (Special Specifications)
4. 特記事項 (Special Notes)
5. 特記事項 (Special Notes)
6. 特記事項 (Special Notes)



- Ⅲ 松戸市建築工事現場表示板仕様 (Matsudo City Construction Site Signage Specifications)
(1) 材料 (Materials)
(2) 種及び仕様 (Types and Specifications)
(3) 注意事項 (Notes)

Main specification table with columns for 項目 (Item), 特記事項 (Special Notes), and ① 技能士 (Skill Level). Contains detailed technical requirements for various construction items.

Table for ② 技能士 (Skill Level) and ③ 仮設工事 (Temporary Work). Lists specific tasks and required skill levels for different types of work.

Table for ④ 地業工事 (Groundwork) and ⑤ 既製コンクリート杭 (Pre-cast Concrete Piles). Includes test results and specifications for pile driving and testing.

Summary table with project name, drawing name (建築工事特記仕様書), date (令和 6年 3月), scale (縮尺), company name (会社名), and contractor name (事業者名).

4 地業工事 続き	3 鋼杭地業	杭の種類(材料)、寸法、継手等 (4.2.2)(4.4.3)(4.4.5)	5 砂利地業 (4.6.2)	7 機械式継手 (5.5.3)	5 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地 (6.6.4)
	4 場所打ちコンクリート杭地業	杭の種類(材料)、寸法、継手等 (4.2.2)(4.4.3)(4.4.5)	6 砂地業 (4.6.2)	8 溶接継手 (5.6.3)	6 コンクリートの仕上り (6.2.5)(表6.2.4)
		・特定埋込杭工法 (4.3.5)(4.4.4)	7 捨コンクリート地業 (4.6.4)	⑥ コンクリート工事 ※構造図による	7 打増し厚さ(打放し仕上げ部) (6.8.1)
		・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で $\alpha=250$ を採用できる工法	8 床下防湿層 (4.6.2)	1 コンクリートの類別等 (6.2.1)(表6.2.1)	8 型枠 (6.8.2)
		・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうち α 、 β 、 γ が以下の値を採用できる工法	⑤ 鉄筋工事 ※構造図による	2 セメント (6.3.1)	9 軽量コンクリート (6.10.1)
		$\alpha=()$ 、 $\beta=()$ 、 $\gamma=()$	1 鉄筋 (5.2.1)	3 骨材 (6.3.1)	10 寒中コンクリート (6.11.1)
		工法	2 溶接金網 (5.2.2)	4 混和材料 (6.3.1)	11 暑中コンクリート (6.12.2)
		・中掘り拡大根固め工法	3 鉄筋の継手及び定着 (5.3.4)		12 マスコンクリート (6.13.1)
		・	4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網含む) (5.3.5)		
		杭の継手の工法 (4.4.3)(4.4.5)(7.2.5)	5 各部配筋 (5.3.7)		
		・アーク溶接継手	6 ガス圧完了後の試験 (5.4.10)(5.4.11)		
		・溶接材料			
		・標準仕様書 7.2.5(1)(2)による			
		・機械式継手			
		・			
		杭頭の処理 (4.4.6)			
		・処理しない			
		・処理する			
		・処理方法(切断を伴う補強方法含む)			
		・図示による			
		工法 (4.5.1)(4.5.4~4.5.6)			
		・アースドリル工法			
		・リバース工法			
		・オールケーシング工法			
		・場所打ち鋼管コンクリート杭工法			
		・鋼管の種類			
		・SKK400			
		・SKK490			
		・掘削杭工法			
		寸法等 (4.2.2)(4.5.4)			
		鋼管厚 (mm)			
		鋼管径 (mm)			
		軸径 (mm)			
		底径 (mm)			
		杭長 (mm)			
		φ/数			
		長期設計支持力 (kN/本)			
		備考			
		試験杭			
		本杭			
		・孔壁の確認(超音波測定器による)			
		測定箇所			
		・試験杭()箇所、本杭()箇所			
		杭の支持層への掘入深さ			
		・図示による			
		杭の水平方向の位置ずれ精度			
		・杭径の1/4かつ100mm以下			
		鉄筋の種類 (4.5.4)(5.2.1)			
		種類の記号			
		呼び径 (mm)			
		備考			
		・SD295			
		・SD345			
		・			
		帯筋の加工及び継立 (4.5.4)			
		・図示による			
		鉄筋の最小かぶり厚さ (4.5.4)			
		・100mm			
		鉄筋かごの補強 (4.5.4)			
		・図示による			
		組み立てた鉄筋のかごの継手 (4.5.4)(5.3.4)			
		※重ね継手 重ね継手の長さ ※標準仕様書 表5.3.2による			
		主筋の基礎底盤への定着長さ (4.5.4)(5.3.4)			
		・図示による			
		セメントの種類 (4.5.4)			
		※高炉セメントB種			
		コンクリートの設計基準強度 (4.5.4)			
		・図示による			
		コンクリートの種類 (4.5.4)(表4.5.1)			
		・A種			
		・B種			
		・評定等の内容による			
		スランブ (4.5.4)			
		・18cm			
		・21cm			
		・()cm			
		構造体強度補正係数(S) (4.5.4)			
		※3N/mm ²			
		・図示による()			
		・評定等の内容による			

工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデック接続工事
図面名	建築工事特記仕様書(2)
作成日	令和6年3月
縮尺	A1 (A3) - -) 図面番号 A-002
会社名	株式会社JR東日本建築設計
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課

⑥ コンクリート工事 ※構造図による	13 無筋コンクリート (6.14.1)	コンクリートの種類 ※普通コンクリート 設計基準強度 ※18(N/mm ²) スランプ ※15cm又は18cm 適用箇所 ・標準仕様書 6.14.1(4)による ・図示による ・標準仕様書 表6.2.1以外のコンクリートを用いる場合 ()	① 鉄骨工事 ※構造図による	1 鉄骨製作工場 鉄骨製作工場の加工能力 ・国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 () グレード以上 ・監督職員の承諾する工場 2 施工管理技術者 ※適用する 3 鋼材 材質等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>適用箇所(主要な部分)</th> <th>規格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>・JIS規格による</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・JIS規格による</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・JIS規格による</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・JIS規格による</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・JIS規格による</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・JIS規格による</td> </tr> </tbody> </table> 形状及び寸法 ・図示による 板厚方向に引張力を受ける鋼材の試験 ・行う(適用箇所:) ・行わない 4 高力ボルト 高力ボルトの種類 ・トルシア形高力ボルト ・JIS形高力ボルト ・溶融亜鉛めっき高力ボルト ・建築基準法に基づき認定を受けた高力ボルト ボルトの寸法 ねじの呼び ・図示による ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による 摩擦面の性能及び処理 ・すべり試験 試験の方法等 ・図示による ・溶融亜鉛めっき面の摩擦面の処理方法 ※標準仕様書7.12.5(1)(7)、(4)による JIS 形高力ボルトの締付け(本編め) ナット回転法の場合で、ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量 ・図示による 5 普通ボルト ボルト及びナットの材料 ※標準仕様書 表7.2.31による ボルトの形状及び寸法 ねじの呼び ・図示による ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による 母屋又は鋼線の取付けに使用するボルトの孔径 ※ねじの呼び径+1.0mm 6 アンカーボルト 種類 ・構造用アンカーボルト ・ABR400 ・ABR490 ・建方用アンカーボルト ・SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書表7.2.31による ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による 7 溶接材料 溶接材料 ・標準仕様書 7.2.5(1)(2)による ・図示による 8 ターンバックル 種類 建築用ターンバックルボルト ※羽形板ボルト 建築用ターンバックル鋼 ※割断式 ねじの呼び等 ・図示による 9 床構造用デッキプレート 材質、形状及び寸法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>適用箇所</th> <th>材質・形状・寸法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・デッキプレート単独の構造 ・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構造 ・ 鉄骨部材への溶接方法 ・図示による	種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格			・JIS規格による			・JIS規格による			・JIS規格による			・JIS規格による			・JIS規格による			・JIS規格による	種類の記号	適用箇所	材質・形状・寸法	備考																	10 スタッド 種類等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び名</th> <th>呼び長さ(mm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・16</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・19</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・22</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 11 柱底均しモルタル ・無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料、割合等 ※標準仕様書7.2.9(2)による ・標準仕様書7.2.9(1)によるモルタル ※行う 仮組を行う範囲 ・図示による 12 鉄骨の仮組 試験の要領 ・図示による 13 溶接技術者の技能付加試験 試験の要領 ・図示による 14 溶接溶接 開先の形状 ・図示による 鋼製エンドタブを切断する箇所及び切断範囲 ・図示による 切断面の仕上げ ※標準仕様書7.6.7(1)(b)(c)による スカラップの形状 ・図示による 低応力高サイクル疲労を受ける部位 ・図示による 溶接部の外観試験 平成12年建設省告示第1464号第二号に関する試験 試験の方法 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補修マニュアル(鉄骨製作管理技術者登録機構)」3.5.2 受入検査による。 ・抜き取り検査① ※抜き取り検査② JASS6付則6の付表3「溶接」に関する試験 試験の方法 ・JASS 6 10.4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。 ・完全溶込み部の超音波探傷試験 ・工場溶接の場合 AQL(%) ※4.0 -2.5 <table border="1"> <thead> <tr> <th>節</th> <th>全て</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>検査水準</td> <td>※第6水準</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 16 錆止め塗装 塗料の種類 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・図示による 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ・標準仕様書7.8.2(1)による ・図示による 下記以外の塗料の種類は、18 塗による ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止めの塗料の種類 ※A種 - B種 ・耐火被覆材が接着する面の塗料の種類 種類、材料、工法等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材料・工法</th> <th>耐火性能(時間)</th> <th>適用箇所(部位・部分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・耐火材吹付け</td> <td>・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・耐火材張り</td> <td>・繊維混入けい酸カルシウム板</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・耐火材巻付け</td> <td>・高断熱ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・アス張り ・珪藻土塗り</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐火塗料</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 18 アンカーボルトの設置等 構造用アンカーボルトの形状及び寸法 ・図示による 構造用アンカーフレームの形状及び寸法 ・図示による 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 種類 ・A種 ・B種 柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種類 厚さ ・ mm 種類 ※A種 19 軽量形鋼構造 ボルト接合方法 ・普通ボルト接合	呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所	・16			・19			・22			節	全て				検査水準	※第6水準				種類	材料・工法	耐火性能(時間)	適用箇所(部位・部分)	・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール			・耐火材張り	・繊維混入けい酸カルシウム板			・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール			・アス張り ・珪藻土塗り				耐火塗料				8 コンクリートブロック・ALCパネル及び押出成形セメント板工事 1 補強コンクリートブロック造 材料 <table border="1"> <thead> <tr> <th>断面形状及び圧縮強さによる区分</th> <th>正味厚さ(mm)</th> <th>呼び寸法(mm)</th> <th>化粧の有無</th> <th>適用箇所</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※変質ブロック(B)</td> <td></td> <td>長さ 高さ</td> <td>・無 ・有</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td>・無 ・有</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td>・無 ・有</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> モルタルの割合(容積比) ブロックの区分がA(08)、B(12)、C(16)の場合で、目地幅が10mm程度の場合 ※標準仕様書 表8.2.11による 上記以外の場合 各部の配筋 ・図示による 目地仕上げ ・押し目地仕上げ ・化粧目地仕上げ まぐさを受ける開口部両側のブロックにおいて、モルタル又はコンクリートで充填する ブロックの範囲 ・図示による 2 コンクリートブロック 材料 <table border="1"> <thead> <tr> <th>断面形状及び圧縮強さによる区分</th> <th>正味厚さ(mm)</th> <th>呼び寸法(mm)</th> <th>化粧の有無</th> <th>適用箇所</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※変質ブロック(B)</td> <td></td> <td>長さ 高さ</td> <td>・無 ・有</td> <td>※表8.3.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・120 ・150</td> <td></td> <td>・無 ・有</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td>・無 ・有</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> モルタルの割合(容積比) ブロックの区分がA(08)、B(12)、C(16)の場合で、目地幅が10mm程度の場合 ※標準仕様書 表8.2.11による 上記以外 鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状 ・図示による 各部の配筋 ・図示による 3 ALCパネル 材料、構造 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">パネルの区分</th> <th>単位荷重(N/m²)</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>幅及び長さ(mm)</th> <th>耐火性能(時間)</th> <th>構造の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>用途</td> <td>形状</td> <td>表面加工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・外壁用</td> <td>・一般</td> <td>・平</td> <td>・100</td> <td>・図示</td> <td>・有(1)</td> <td>・A種 ・B種</td> </tr> <tr> <td>・間仕切壁用</td> <td>・一般</td> <td>・平</td> <td>・100</td> <td>・図示</td> <td>・有(1)</td> <td>・C種 ・D種</td> </tr> <tr> <td>・屋根版用</td> <td>・一般</td> <td>・平</td> <td>・100</td> <td>・図示</td> <td>・有(0.5)</td> <td>・E種</td> </tr> <tr> <td>・床版用</td> <td>・一般</td> <td>・平</td> <td>・100</td> <td>・図示</td> <td>・有()</td> <td>・F種</td> </tr> </tbody> </table> パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材 ・図示による ・外壁パネル構造、屋根及び床パネル構造 耐風圧性能 () 耐震性能 () ・間仕切壁パネル構造 耐震性能 () パネル幅の最小限度(mm) ・300未満(・図示) パネルの短辺小口相互の接合部、出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部の伸縮目地の目地幅(mm) ※10~20mm 図示による 伸縮目地への耐火目地材の充填 ・適用する ・適用しない 4 押出成形セメント板(EOP) 材料、工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>パネルの種類</th> <th>形状</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>幅(mm)</th> <th>工法の種類</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・外壁パネル</td> <td>・F(フラットパネル)</td> <td>・50・60</td> <td rowspan="2">600</td> <td rowspan="2">・A種</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>・間仕切壁パネル</td> <td>・D(デザインパネル)</td> <td>・50・60</td> <td>・B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・間仕切壁パネル</td> <td>・T(タイルベースパネル)</td> <td>60</td> <td></td> <td>・B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・外壁パネル</td> <td>・F(フラットパネル)</td> <td>・50・60</td> <td rowspan="2">600</td> <td rowspan="2">・C種</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>・間仕切壁パネル</td> <td>・D(デザインパネル)</td> <td>・50・60</td> <td>・C種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・外壁パネル</td> <td>・T(タイルベースパネル)</td> <td>60</td> <td></td> <td>・C種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・外壁パネル工法 耐風圧性能 () 耐震性能 () ・間仕切壁パネル工法 耐震性能 () 耐火構造以外の目地及び縁部の処理 ※パネルの製造所の仕様による パネル幅の最小限度(mm) ・300未満(・図示) パネルの相互の目地幅(mm) 長辺の目地幅 ・10以上 ・図示による 短辺の目地幅 ・15以上 ・図示による 出隅及び入隅のパネル接合部の伸縮目地の目地幅(mm) ※15程度(シーリング材を充填) ・図示による 溝幅及び開口部の措置 やむを得ず設備開口等がある場合のパネルの開口寸法等の限度 ・図示による	断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	呼び寸法(mm)	化粧の有無	適用箇所	備考	※変質ブロック(B)		長さ 高さ	・無 ・有			・			・無 ・有			・			・無 ・有			断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	呼び寸法(mm)	化粧の有無	適用箇所	備考	※変質ブロック(B)		長さ 高さ	・無 ・有	※表8.3.1		・	・120 ・150		・無 ・有			・			・無 ・有			パネルの区分		単位荷重(N/m ²)	厚さ(mm)	幅及び長さ(mm)	耐火性能(時間)	構造の種類	用途	形状	表面加工					・外壁用	・一般	・平	・100	・図示	・有(1)	・A種 ・B種	・間仕切壁用	・一般	・平	・100	・図示	・有(1)	・C種 ・D種	・屋根版用	・一般	・平	・100	・図示	・有(0.5)	・E種	・床版用	・一般	・平	・100	・図示	・有()	・F種	パネルの種類	形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法の種類	備考	・外壁パネル	・F(フラットパネル)	・50・60	600	・A種		・間仕切壁パネル	・D(デザインパネル)	・50・60	・B種		・間仕切壁パネル	・T(タイルベースパネル)	60		・B種		・外壁パネル	・F(フラットパネル)	・50・60	600	・C種		・間仕切壁パネル	・D(デザインパネル)	・50・60	・C種		・外壁パネル	・T(タイルベースパネル)	60		・C種	
	種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格																																																																																																																																																																																																																												
			・JIS規格による																																																																																																																																																																																																																												
			・JIS規格による																																																																																																																																																																																																																												
			・JIS規格による																																																																																																																																																																																																																												
			・JIS規格による																																																																																																																																																																																																																												
			・JIS規格による																																																																																																																																																																																																																												
			・JIS規格による																																																																																																																																																																																																																												
	種類の記号	適用箇所	材質・形状・寸法	備考																																																																																																																																																																																																																											
	呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所																																																																																																																																																																																																																												
・16																																																																																																																																																																																																																															
・19																																																																																																																																																																																																																															
・22																																																																																																																																																																																																																															
節	全て																																																																																																																																																																																																																														
検査水準	※第6水準																																																																																																																																																																																																																														
種類	材料・工法	耐火性能(時間)	適用箇所(部位・部分)																																																																																																																																																																																																																												
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール																																																																																																																																																																																																																														
・耐火材張り	・繊維混入けい酸カルシウム板																																																																																																																																																																																																																														
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール																																																																																																																																																																																																																														
・アス張り ・珪藻土塗り																																																																																																																																																																																																																															
耐火塗料																																																																																																																																																																																																																															
断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	呼び寸法(mm)	化粧の有無	適用箇所	備考																																																																																																																																																																																																																										
※変質ブロック(B)		長さ 高さ	・無 ・有																																																																																																																																																																																																																												
・			・無 ・有																																																																																																																																																																																																																												
・			・無 ・有																																																																																																																																																																																																																												
断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	呼び寸法(mm)	化粧の有無	適用箇所	備考																																																																																																																																																																																																																										
※変質ブロック(B)		長さ 高さ	・無 ・有	※表8.3.1																																																																																																																																																																																																																											
・	・120 ・150		・無 ・有																																																																																																																																																																																																																												
・			・無 ・有																																																																																																																																																																																																																												
パネルの区分		単位荷重(N/m ²)	厚さ(mm)	幅及び長さ(mm)	耐火性能(時間)	構造の種類																																																																																																																																																																																																																									
用途	形状	表面加工																																																																																																																																																																																																																													
・外壁用	・一般	・平	・100	・図示	・有(1)	・A種 ・B種																																																																																																																																																																																																																									
・間仕切壁用	・一般	・平	・100	・図示	・有(1)	・C種 ・D種																																																																																																																																																																																																																									
・屋根版用	・一般	・平	・100	・図示	・有(0.5)	・E種																																																																																																																																																																																																																									
・床版用	・一般	・平	・100	・図示	・有()	・F種																																																																																																																																																																																																																									
パネルの種類	形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法の種類	備考																																																																																																																																																																																																																										
・外壁パネル	・F(フラットパネル)	・50・60	600	・A種																																																																																																																																																																																																																											
・間仕切壁パネル	・D(デザインパネル)	・50・60				・B種																																																																																																																																																																																																																									
・間仕切壁パネル	・T(タイルベースパネル)	60		・B種																																																																																																																																																																																																																											
・外壁パネル	・F(フラットパネル)	・50・60	600	・C種																																																																																																																																																																																																																											
・間仕切壁パネル	・D(デザインパネル)	・50・60				・C種																																																																																																																																																																																																																									
・外壁パネル	・T(タイルベースパネル)	60		・C種																																																																																																																																																																																																																											

工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事
図面名	建築工事特記仕様書(3)
作成日	令和6年3月
縮尺	A1 - -) 図面番号 A-003
会社名	株式会社J R東日本建設設計
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課

⑤ 防水工事	1 アスファルト防水 (9.2.2)(9.2.3)(表9.2.3~表9.2.6)	<p>屋根保護防水 防水層の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>断熱材</th> <th>絶縁用シート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-A-1</td> <td></td> <td></td> <td>※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上又はフラットヤーンクロス70g/m程度</td> </tr> <tr> <td>-A-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-A-3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-B-1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-B-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-A1-1</td> <td></td> <td>(厚さ)</td> <td>※フラットヤーンクロス 70g/m程度</td> </tr> <tr> <td>-A1-2</td> <td></td> <td>mm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>-A1-3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-B1-1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-B1-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9.2.2) ※標準仕様書 表9.2.3及び表9.2.4による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 材料構成による区分 ・R種 ・N種 厚さ ・mm以上</p> <p>部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9.2.2) ※標準仕様書 表9.2.5及び表9.2.6による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 材料構成による区分 ・R種 ・N種 厚さ ・mm以上</p> <p>押え金物の材質及び形状寸法 (9.2.2) ※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度</p> <p>立上り部への断熱材及び絶縁用シートの設置 (表9.2.4)(表9.2.6) ・適用する ・適用しない</p> <p>屋根露出防水 (9.2.2)(9.2.3)(表9.2.7)(表9.2.8)</p> <p>防水層の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">断熱材</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-D-1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※製造所の仕様による</td> </tr> <tr> <td>-D-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-D-3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-D-4</td> <td></td> <td>(種類)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-D1-1</td> <td></td> <td>(厚さ)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-D1-2</td> <td></td> <td>25mm</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9.2.2) ※標準仕様書 表9.2.8による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 材料構成による区分 ・R種 ・N種 厚さ ・mm以上</p> <p>部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9.2.2) ※標準仕様書 表9.2.7及び表9.2.8による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 材料構成による区分 ・R種 ・N種 厚さ ・mm以上</p> <p>押え金物の材質及び形状寸法 (9.2.2) ※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度</p> <p>絶縁工法及び断熱絶縁工法の脱気装置の種類及び設置数量 (9.2.3) 種類 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定 設置数量 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定</p> <p>屋内防水 (9.2.2)(9.2.3)(表9.2.9)</p> <p>防水層の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-E-1</td> <td></td> <td>-E-2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>保護層 (※図示) ・ ・設けない</p> <p>E-1の工程3を行う場合の部位 (表9.2.9) ※貯水槽、浴槽等の常時水に接する部位</p> <p>施工 (9.2.4)</p> <p>防水層の下地のモルタル塗り (9.2.4) ・適用する (施工範囲 図示) ・適用しない</p> <p>防水層の下地、立上りコンクリート打放し仕上げ (9.2.4) ※標準仕様書 表6.2.4のB種</p> <p>絶縁断熱工法のルーフトレンドリ及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 (9.2.4) ・図示による</p> <p>保護層等の施工 (9.2.5)</p> <p>平場の保護コンクリートの厚さ (9.2.5) こて仕上げ ※水下 80mm以上 床タイル張り ※水下 60mm以上</p> <p>立上り部の保護工法 (9.2.5) ・乾式保護材</p> <p>乾式保護材の材料 (9.2.2) ・コンクリート押え ・モルタル押え (屋内等) ・れんが押え (図示) れんがの材料 ・JIS R 1250 (普通れんが及び化粧れんが)</p> <p>屋上排水溝の設置 (9.2.5) ・図示による</p>	種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート	-A-1			※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上又はフラットヤーンクロス70g/m程度	-A-2				-A-3				-B-1				-B-2				-A1-1		(厚さ)	※フラットヤーンクロス 70g/m程度	-A1-2		mm		-A1-3				-B1-1				-B1-2				種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		種類	使用量	-D-1				※製造所の仕様による	-D-2					-D-3					-D-4		(種類)			-D1-1		(厚さ)			-D1-2		25mm			種別	施工箇所	種別	施工箇所	-E-1		-E-2		⑥改質アスファルトシート防水	<p>防水層の種類 (9.3.2)(9.3.3)(表9.3.1)(表9.3.3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">断熱材</th> <th rowspan="2">防湿層</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-AS-T1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※製造所の仕様による</td> </tr> <tr> <td>-AS-T2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-AS-T3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-AS-T4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-AS-J1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-AS1-T1</td> <td></td> <td>(種類)</td> <td>・設ける</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-AS1-J1</td> <td></td> <td>(厚さ)</td> <td>・設けない</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>改質アスファルトシートの種類及び厚さ (9.3.2) ※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による 粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ (9.3.2) ※標準仕様書表9.3.2及び表9.3.3による 部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ (9.3.2) ※標準仕様書表9.3.2及び表9.3.3による 押え金物の材質及び形状寸法 (9.3.2) ※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度</p> <p>屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量 (9.3.3) 種類 ※改質アスファルトシートの製造所の指定 設置数量 ※改質アスファルトシートの製造所の指定</p> <p>田島ルーフィング アスレイVC 保護コンクリート仕上・断熱材なし 同等品以上</p> <p>3 合成高分子系ルーフィングシート防水</p> <p>防水層の種類 (9.4.2~9.4.4)(表9.4.1~表9.4.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">可塑剤移行防止シートの材質</th> <th rowspan="2">断熱材</th> <th rowspan="2">歩行の仕様</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-S-F1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※非歩行用 ・軽歩行用</td> <td></td> <td>※製造所の仕様による</td> </tr> <tr> <td>-S-F2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-S-M1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※製造所の仕様による</td> </tr> <tr> <td>-S-M2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-S1-F1</td> <td></td> <td></td> <td>(種類)</td> <td></td> <td></td> <td>※製造所の仕様による</td> </tr> <tr> <td>-S1-F2</td> <td></td> <td></td> <td>(厚さ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-S1-M1</td> <td></td> <td></td> <td>(種類)</td> <td></td> <td></td> <td>※製造所の仕様による</td> </tr> <tr> <td>-S1-M2</td> <td></td> <td>※発泡ポリエチレンシート</td> <td>(厚さ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>屋内防水層の種類 (9.4.2~9.4.4)(表9.4.1~表9.4.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">保護層</th> <th rowspan="2">立上り部の保護</th> </tr> <tr> <th>平場のモルタル塗り</th> <th>工法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-S-C1</td> <td></td> <td></td> <td>・床塗り ・下地砂塗り</td> <td>※7mm以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーフィングシートの種類及び厚さ (9.4.2) ※標準仕様書表9.4.1から表9.4.3による</p> <p>固定金具の材質及び形状 (9.4.2) 材質 ※防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はこれらの鋼板の片面及び両面に樹脂を積層加工したもの 厚さ(mm) ※0.4以上</p> <p>接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量 (9.4.3) 種類 ※ルーフィングシートの製造所の仕様 設置数量 ※ルーフィングシートの製造所の仕様</p> <p>断熱工法 (S1-M1, S1-M2の場合)の防湿用フィルム (表9.4.2) ・設置する ・設置しない</p> <p>接着工法の場合のPCコンクリート部材防水下地の目地処理 (9.4.4) ・行う (図示) ・行わない</p> <p>PCコンクリート下地の入隅部の増張り (9.4.4) (S-F1, S1-F1の場合) ・行う (図示) ・行わない</p> <p>機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け (9.4.4) 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ・図示による</p> <p>4 塗膜防水 (9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)</p> <p>防水層の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> <th rowspan="2">保護層</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-X-1</td> <td></td> <td></td> <td>※製造所の仕様による</td> <td></td> </tr> <tr> <td>-X-2</td> <td></td> <td></td> <td>※製造所の仕様による</td> <td></td> </tr> <tr> <td>-Y-1</td> <td>・地下外壁防水</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-Y-2</td> <td>・屋内防水</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ウレタンゴム系塗膜防水 X-1 (絶縁工法)の脱気装置の種類及び設置数量 (9.5.3) 種類 ※主材料の製造所の仕様 設置数量 ※主材料の製造所の仕様</p>	種別	施工箇所	断熱材	防湿層	仕上塗料		種類	使用量	-AS-T1					※製造所の仕様による	-AS-T2						-AS-T3						-AS-T4						-AS-J1						-AS1-T1		(種類)	・設ける			-AS1-J1		(厚さ)	・設けない			種別	施工箇所	可塑剤移行防止シートの材質	断熱材	歩行の仕様	仕上塗料		種類	使用量	-S-F1				※非歩行用 ・軽歩行用		※製造所の仕様による	-S-F2							-S-M1						※製造所の仕様による	-S-M2							-S1-F1			(種類)			※製造所の仕様による	-S1-F2			(厚さ)				-S1-M1			(種類)			※製造所の仕様による	-S1-M2		※発泡ポリエチレンシート	(厚さ)				種別	施工箇所	保護層		立上り部の保護	平場のモルタル塗り	工法	-S-C1			・床塗り ・下地砂塗り	※7mm以下	種別	施工箇所	仕上塗料		保護層	種類	使用量	-X-1			※製造所の仕様による		-X-2			※製造所の仕様による		-Y-1	・地下外壁防水				-Y-2	・屋内防水				5 ケイ酸系系塗布膜防水 (9.6.4) <p>防水層の下地 (壁及び天井) ※コンクリート打放し仕上げ (標準仕様書 表6.2.4のB種) ・ 下地処理 (9.6.4) コンクリートの打継箇所の処理 ※標準仕様書9.6.4(2)(7)による 標準仕様書9.6.4(2)(4)及び(7)以外の下地処理 ・図示による</p> <p>材料 (9.7.2) 種類及び施工箇所 ※下表以外は、標準仕様書9.7.11による ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>シーリング材の種類 (記号)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>シーリング材の目地寸法 (9.7.3) ※標準仕様書9.7.3(1)による</p> <p>接着性試験 (9.7.5) ※簡易接着性試験 ・引張接着性試験</p> <p>10 石工事</p> <p>1 施工 (10.1.3)</p> <p>2 石材等 (10.2.1)(表10.2.1)(表10.2.2)</p> <p>天然石 (10.2.1)(表10.2.1)(表10.2.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>岩石の種類</th> <th>形状及び寸法</th> <th>表面仕上げの種類</th> <th>パフ仕上げの有無</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>テラズブロック (10.2.1)(表10.2.1)(表10.2.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種石の種類</th> <th>種石の大きさ(mm)</th> <th>形状による区分</th> <th>仕上げ面による区分</th> <th>寸法(mm)</th> <th>表面仕上げの種類</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>※大理石 ・花こう岩</td> <td>※1.5~12</td> <td>・平もの ・役もの</td> <td>・片面 ・両面</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>テラズタイル</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種石の種類</th> <th>種石の大きさ(mm)</th> <th>寸法による区分</th> <th>表面仕上げの種類</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>※大理石 ・花こう岩</td> <td>※1.5~12</td> <td>・300×300 ・400×400</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>取り付用モルタル、既設合の目地用モルタル、浸透性防水剤、石表面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材料 (10.2.3) ※専門事業者の指定する製品</p> <p>受金物 材質 ※ステンレス (SUS304) 製 (10.2.2) 形状及び寸法 ※ L-75×75×6 (mm) (・長さ=100mm ・長さ=150mm)</p> <p>アンカーの材質及び寸法 (10.2.2) 材質: ※SS400 寸法: あと施工アンカーの種類、材質及び寸法 種類: 材質: 寸法: 上記以外の金物の材質、形状及び寸法 ・図示による</p> <p>ドレンパイプの材質 (10.2.3) ・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25~35φ</p> <p>石材の厚さ (mm) (10.3.2) 石表面処理 ・適用する ・適用しない 裏打ち処理 ・適用する ・適用しない</p> <p>下地ごしらえ ※あと施工アンカー・横筋流し工法 (10.3.3) ・流し筋工法 ・あと施工アンカー工法</p> <p>目地 一般目地 目地幅 (mm) ※6以上 (10.3.3) シーリング材 ・適用する ・適用しない</p> <p>伸縮調整目地 (10.3.3) 位置 ※標準仕様書 表11.1.11による ・図示による シーリング材の目地寸法 ※幅・深さとも10mm以上 ・図示による</p> <p>受金物 材質 ※ステンレス (SUS304) 製 (10.2.2) 形状及び寸法 ※ L-75×75×6 (mm) (・長さ=100mm ・長さ=150mm)</p> <p>アンカーの材質及び寸法 (10.2.2) 材質: ※SS400 寸法: あと施工アンカーの種類、材質及び寸法 種類: 材質: 寸法: 上記以外の金物の材質、形状及び寸法 ・図示による</p> <p>石材の厚さ (mm) (10.4.2) 石表面処理 ・適用する ・適用しない 裏打ち処理 ・適用する ・適用しない</p> <p>下地ごしらえ ※あと施工アンカー・横筋流し工法 (10.4.3) ・あと施工アンカー工法</p>	施工箇所	シーリング材の種類 (記号)									施工箇所	岩石の種類	形状及び寸法	表面仕上げの種類	パフ仕上げの有無	備考													施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法(mm)	表面仕上げの種類	備考		※大理石 ・花こう岩	※1.5~12	・平もの ・役もの	・片面 ・両面				施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げの種類	備考		※大理石 ・花こう岩	※1.5~12	・300×300 ・400×400			5 外壁乾式工法 (10.2.2) <p>目地 一般目地 目地幅 (mm) ※6以上 (10.4.3) シーリング材 ・適用する ・適用しない</p> <p>伸縮調整目地 (10.2.2) 位置 ※6m程度ごと ・図示による シーリング材の目地寸法 ※幅・深さとも10mm以上 ・図示による</p> <p>アンカーの材質及び寸法 (10.2.2) 材質: ※ステンレス (SUS304) 製 寸法: あと施工アンカーの種類、材質及び寸法 種類: 材質: 寸法: 上記以外の金物の材質、形状及び寸法 ・図示による</p> <p>石材の厚さ (mm) (10.5.2) だば用の穴の位置 (10.5.2) ※標準仕様書10.5.2(2)(7)による ・図示による 裏打ち処理 ・適用する ・適用しない 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ・図示による</p> <p>目地 目地幅 (mm) ※8以上 (10.5.3) シーリング材 (※標準仕様書9.7による ・図示) ・適用しない</p> <p>6 床及び階段の石張り (10.6.2)(10.6.3)</p> <p>石材の厚さ (mm) 床 ()、階段 () (10.6.2)(10.6.3) 床石張り (10.6.2) 浸透性吸水防止剤 ・適用する ・適用しない 石表面処理 ・適用する ・適用しない 裏打ち処理 ・適用する ・適用しない</p> <p>階段張り (10.6.3) 石表面処理 ・適用する ・適用しない</p> <p>目地 一般目地 目地幅 (mm) (10.6.2)(10.6.3) ・図示による シーリング材 ・適用する ・適用しない</p> <p>伸縮調整目地 (10.6.2)(10.6.3) 位置 ※床面積30㎡程度ごと、細長い通路の場合6m程度ごと及び他部材との 取り合い部 ・図示による シーリング材の目地寸法 ※幅・深さとも10mm以上 ・図示による</p> <p>7 笠木、甲板等の石張り (10.7.2)(10.7.2)</p> <p>取付け工法 (10.7.2)(10.7.2) ・湿式工法 ・乾式工法 湿式工法の取付け金物 ・標準仕様書10.2.2(1)による ・図示による 乾式工法の取付け金物 ・標準仕様書10.2.2(2)による ・図示による</p> <p>方式・スライド方式 ・ロッキング方式 特殊部位用金物 ・標準仕様書10.2.2(3)による ・図示による</p> <p>ファスナー (10.2.2) アンカーの材質及び寸法 湿式工法の材質: ※ステンレス (SUS304) 製 寸法: 乾式工法の材質: ※SS400 寸法: あと施工アンカーの種類、材質及び寸法 種類: 材質: 寸法: 上記以外の金物の材質、形状及び寸法 ・図示による</p> <p>石材の厚さ (mm) (10.7.2) 石表面処理 ・適用する ・適用しない 乾式工法の場合の取付け代 ※標準仕様書10.5.3(2)による</p> <p>石裏の補強用モルタル ・適用する ・適用しない (10.7.2)</p> <p>目地 (10.7.2) 湿式工法の場合 一般目地 目地幅 (mm) ※6以上 (10.3.3) シーリング材 ・適用する ・適用しない</p> <p>伸縮調整目地 (10.3.3) 位置 ※標準仕様書 表11.1.11による ・図示による シーリング材の目地寸法 ※幅・深さとも10mm以上 ・図示による</p> <p>乾式工法の場合 (10.5.3) 目地幅 (mm) ※8以上 シーリング材 ・適用する (※標準仕様書9.7による ・図示) ・適用しない</p> <p>8 隔て板 (10.7.3)</p> <p>石材の厚さ (mm) ※40 (10.7.3)</p>
	種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
-A-1			※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上又はフラットヤーンクロス70g/m程度																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
-A-2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
-A-3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
-B-1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
-B-2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
-A1-1		(厚さ)	※フラットヤーンクロス 70g/m程度																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
-A1-2		mm																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
-A1-3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
-B1-1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
-B1-2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
			種類	使用量																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
-D-1				※製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
-D-2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
-D-3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
-D-4		(種類)																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
-D1-1		(厚さ)																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
-D1-2		25mm																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
種別	施工箇所	種別	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
-E-1		-E-2																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
種別	施工箇所	断熱材	防湿層	仕上塗料																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
				種類	使用量																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
-AS-T1					※製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
-AS-T2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
-AS-T3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
-AS-T4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
-AS-J1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
-AS1-T1		(種類)	・設ける																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
-AS1-J1		(厚さ)	・設けない																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
種別	施工箇所	可塑剤移行防止シートの材質	断熱材	歩行の仕様	仕上塗料																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
					種類	使用量																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
-S-F1				※非歩行用 ・軽歩行用		※製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
-S-F2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
-S-M1						※製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
-S-M2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
-S1-F1			(種類)			※製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
-S1-F2			(厚さ)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
-S1-M1			(種類)			※製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
-S1-M2		※発泡ポリエチレンシート	(厚さ)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
種別	施工箇所	保護層		立上り部の保護																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		平場のモルタル塗り	工法																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
-S-C1			・床塗り ・下地砂塗り	※7mm以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
種別	施工箇所	仕上塗料		保護層																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		種類	使用量																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
-X-1			※製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
-X-2			※製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
-Y-1	・地下外壁防水																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
-Y-2	・屋内防水																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
施工箇所	シーリング材の種類 (記号)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
施工箇所	岩石の種類	形状及び寸法	表面仕上げの種類	パフ仕上げの有無	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法(mm)	表面仕上げの種類	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	※大理石 ・花こう岩	※1.5~12	・平もの ・役もの	・片面 ・両面																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げの種類	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	※大理石 ・花こう岩	※1.5~12	・300×300 ・400×400																																																																																																																																																																																																																																																																																																														

工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事
図面名	建築工事特記仕様書 (4)
作成日	令和 6年 3月
縮尺	A1 (A3) 図面番号 A-004
会社名	株式会社 JR 東日本建築設計
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課

16 建具 工事 続き	9 ステンレス製建具	性能値等 (建具符号は建具表による) 耐風圧等級、気密等級、水密等級 ・建具表による 外部に面する建具の耐風圧性 (表16.2.11による) ・S-4 ・S-5 ・S-6 ・耐震ドアとする場合 面内変形追随性の等級 () ・防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級 () ・断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級 ()	(16.6.2)	14 自閉式上り引戸装置	性能 ※標準仕様書表16.10.11による ・図示による	(16.10.3)	19 ガラスブロック積み	材料等 (16.14.5) 表面形状 呼び寸法 厚さ 色調 クリア乳白 目地幅(mm) 伸縮調整目地位置(mm) ・160×160 95 - - ※8~15 外側 ※6m以下ごとに10~25 ・200×200 95 - - ・15~25 ※6以下 ・長方形 - - - 内側 ※6以上 壁用金属枠及び補強材 ・図示 (形状 ※図示) ・図示しない 石膏 材質 ※ステンレス鋼 (SUS 304) 寸法 ※径5.5mm 形状 ※はしり形状補筋及び単筋 化粧目地モルタルの色 () シーリング材の種類 () 金属製化膿カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製 寸法 ・図示による 形状 ・図示による 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ・図示による 木下地の場合の壁用金属枠の取付け間隔 () 目地部の横力骨の納まり ※ガラスブロック製造所の仕様による ・図示による	(17.3.2)	ガラスの取付け材料 ・構造ガasket (材質、形状等) ・図示 () 耐火目地材 () 断熱材 種類 () 厚さ (mm) () 施工箇所 ・図示による 先付けの材料 (17.3.2) ・先付け材料の仕上材 ・石材 (・花こう岩 ・大理石) ・セラミックタイル ・建具枠 ・ゴンドラ用ガイドレール 形状及び仕上げ 製品の見え掛り部の寸法許容差 ※標準仕様書 表17.3.11による ・上記以外 辺長 (mm) ・対角線長の差 (mm) ・版厚 (mm) 開口部内径寸法 (mm) ・ねじれ、そり (mm) ・ 曲がり (mm) ・面の凹凸 (mm) ・先付け金物の位置 (mm) カーテンウォールの仕上げ 構造ガasketを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差 (mm) ・図示による 製作 配筋 ・図示による 取付け 躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差 ※標準仕様書 表17.2.21による ・図示による カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差 ※標準仕様書 表17.3.21による ・図示による ガラスの取付け方法 (17.3.6)																																					
		ステンレス鋼板の種類 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 (16.6.3)	表面仕上げ ※HL (16.6.4)		ステンレス鋼板のつづりの仕上げ ※HL (16.6.4)	ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ (16.6.5)		建具材の加工、組立時の含水率 ※A種 ・B種 (16.7.2)	接着材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ (16.7.2)		枠、つづりの材料 ・建具表による (16.7.2)	・フラッシュ戸 (16.7.2)	表面材の合板の種類	合板の種類 表面材の品質等 備考	・普通合板 接着の程度 板面の品質 ※広葉樹1等 ()	・天然木化粧合板 接着の程度 ※水張り箇所1種、その他2種以上 ()	・特殊加工化粧合板 接着の程度 ※水張り箇所1種、その他2種以上 ()	・メディアムデンシティファイバーボード (MDF) 表面面の状態による区分 () 曲げ強さによる区分 () 接着剤による区分 () 難燃性による区分 ()	表面材の材料のホルムアルデヒド放散量 ※標準仕様書16.7.2.(4)による (16.7.3)	表面板の厚さ ※表16.7.6による (16.7.4)	引戸の定規線 ・引合せかまをいれろう付とする (16.7.4)	・かまち戸 (16.7.2)(16.7.3)(表16.7.7)	かまち樹種 () 鏡板樹種 () 見込み寸法 ※36mm ・建具表による	・ふすま (16.7.2)(表16.7.3)(16.7.3)(表16.7.7)(16.7.4)(表16.7.10)	種類、工法 ・I型 ・II型 上張り ・鳥の子 縁仕上 ・塗り縁 見込み寸法 ※19.5mm	・戸ぶすま (16.7.2)(16.7.3)(表16.7.7)(16.7.4)	表面材の種類、品質等 () 見込み寸法 ※30mm ・建具表による	・紙張り障子 (16.7.3)(表16.7.7)	見込み寸法 ※30mm ・建具表による	11 建具用金物	金物の種類、見え掛り部の材質等 (16.8.2) ※標準仕様書表16.8.1及び適用 (備考欄の特記事項も含め) は建具表による 金属製建具に使用する下番の枚数及び大きさ ※標準仕様書表16.8.2による 樹脂製建具に使用する下番の枚数及び大きさ ※標準仕様書表16.8.3による 木製建具に使用する下番の枚数及び大きさ ※標準仕様書表16.8.4による 木製建具に使用する戸車及びレール ※標準仕様書表16.8.5による 振り玉、レバーハンドル、押板、クレーセントの取付け位置 ・建具表による (16.8.3)	12 鍵	マスターキー ・製作する ・製作しない (16.8.4) 鍵の製作本数 ※各室3本組	13 自動ドア開閉装置	戸の開閉方式 ・図示による (16.9.2) 自動ドア開閉装置の性能値 (16.9.2) 駆動装置の性能 ※引き戸用駆動装置の場合、標準仕様書 表16.9.11による 防錆の適用 ・適用する ・適用しない 車椅子使用者用便所出入口の引き戸用駆動装置の性能 ※標準仕様書 表16.9.2による 防錆の適用 ・適用する ・適用しない 検出装置の性能 ※引き戸用検出装置の性能は標準仕様書 表16.9.3による 防錆の適用 ・適用する ・適用しない 引き戸用検出装置の種類は標準仕様書 表16.9.4による 種類 ・光線 (反射) センサー ・熱線センサー ・音波センサー ・光電センサー ・電波センサー ・タッチスイッチ (・無線式タッチスイッチ ・光電式タッチスイッチ) ・押しボタンスイッチ ・車椅子使用者用便所スイッチ (・大形 (開・閉) 押しボタンスイッチ ・非接触スイッチ) 凍結防止措置 (16.9.2) ・適用する ・適用しない	14 自閉式上り引戸装置	性能 ※標準仕様書表16.10.11による ・図示による	15 重量シャッター	シャッターの種類 ・管理用シャッター (16.11.2) ・外壁用防火シャッター ・屋内用防火シャッター ・防塵シャッター 外壁開口部に設ける重量シャッター 耐風圧強度 () pa 開閉方式の種類 (標準仕様書 表16.11.1) ※電動式 (手動併用) ・手動式 安全装置の設置箇所 急降下制御装置又は急降下停止装置の設置箇所 ・図示による 障害物感知装置の設置箇所 ・図示による 危害防止機構の設置箇所 ・図示による 管理用シャッターのシャッターケース ・図示による ・図示しない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※Z12又はF12 ステンレス鋼板の種類 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 (16.11.3)(16.6.3)	16 軽量シャッター	開閉形式 ※手動式 ・電動式 (手動併用) (16.12.2)(表16.12.1) 耐風圧強度 () pa 電動式の場合の安全装置 障害物感知装置の設置箇所 ・図示による スラットの材質の種類 ・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z06又はF06 ・JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※AZ90 スラットの形状 ・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形 (16.12.4)	17 カーテンウォール工事	1 取付方法、性能等 (17.1.3) 性能 耐風圧性 耐震性 水密性 気密性 耐火性 耐温度差性 遮音性 断熱性 水平方向 (kN) 垂直方向 (kV) 1時間 ・1.0 ・0.5 ・80分 ・70 ・60 性能の確認方法及び判定方法 (17.1.3) ※性能の確認方法及び判定方法が確認できる適切な資料 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による 金属材料の種類 ・アルミニウム材 ・鋼材 ・ステンレス鋼材 (アルミニウム材の場合) 規格等 標準仕様書16.2.31による 種類 (表14.2.1) 着色 ・標準色 ・特注色 シーリング材 (ガラスの取付けは除く) (17.2.2) 下表以外は標準仕様書 表9.7.11による	2 17カーテンウォール	金属材料の種類 (アルミニウム材の場合) (表14.2.1) 規格等 標準仕様書16.2.31による 種類 (表14.2.1) 着色 ・標準色 ・特注色 シーリング材 (ガラスの取付けは除く) (17.2.2) 下表以外は標準仕様書 表9.7.11による	3 PCカーテンウォール	適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 () シーリング材 (17.3.2) 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³

19 内装工事	1 接着剤	接着剤のホルムアルデヒド放散量 (19.2.2)(19.3.2)(19.5.4)(19.5.5)(19.7.2)(19.9.3) ※F☆☆☆☆ 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合のゴム床タイル用接着剤の主成分による区分 図示による 下地の施工 標準仕様書19.2.3(1)(7)から(9)以外の下地の工法 図示による	8 フローリング張り	フローリングのホルムアルデヒド放散量 (19.5.2) ※標準仕様書19.5.2(2)による 単層フローリング (19.5.2~19.5.5) 種類 工法 樹種 厚さ及び大きさ ・フローリングボード1等 ・釘留め工法 (横太張り) ※標準仕様書19.5.11による ・釘留め工法 (直張り) ※標準仕様書19.5.6による ・接着工法 ※標準仕様書19.5.5による ・フローリングブロック1等 ・接着工法	11 壁紙張り	材料 (19.7.2) 種類 規格 防虫処理 ・普通合板 表板の樹種() 板面の品質() 厚さ(mm)() ・天然木化粧合板 化粧板の樹種() 厚さ(mm)() ・特殊加工化粧合板 化粧加工の方法 ・オーバレイ ・プリント ・塗装 表面性能() 厚さ(mm)() 防虫処理 ・行う ・行わない ・行う ・行わない ・行う ・行わない	5 手すり	材料の種類 仕上げ	
	2 ビニル床シート	材料 (19.2.2) 種類の記号 色柄 厚さ(mm) 備考 ※FS(複層ビニル床シート) ※2.0	9 畳敷き	種類 (19.6.2)(表19.6.1) ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 (畳床: ・KT-I ・KT-II ・KT-III ・KT-K ・KT-N)		11 壁紙張り	合板のホルムアルデヒド放散量 ※標準仕様書19.7.2(2)(4)のいずれかによる 合板の張付け ・A種 ・B種 (19.7.3)(表19.7.3)	6 階段滑り止め	材料等 (20.2.7) 材種 形状 寸法(mm) 取付け工法 ・ステンレス製(SUS 304) ・ひも型 ※接着工法 ・黄銅製押出型材 ・タイプライター型 ・アルミニウム製押出型材
	3 ビニル床タイル	材料 (19.2.2) 種類の記号 色柄 寸法(mm) 厚さ(mm) 備考 ※KT(コンポジションビニル床タイル) ・無地 ・300×300 ※2.0 ・TT(単層ビニル床タイル) ・450×450 ・FT(複層ビニル床タイル) ・500×500 ・FOA(置敷きビニル床タイル) ・FOB(薄型置敷きビニル床タイル)	10 せつこうボード、その他ボード及び合板張り	種類 (19.7.2)(表19.7.1) 規格名称 種類 厚さ(mm) 木質系セメント板 ・硬質木セメント板 ・15 ・20 ・25 ・中質木セメント板 ・15 ・20 ・25 ・普通木セメント板 ・15 ・20 ・25 ・硬質木片セメント板 ・12 ・15 ・18 ・21 ・普通木片セメント板 ・30 ・けい酸カルシウム板 1/2(無石綿) ・6 ・8 繊維強化セメント板 火山性ガラス質複層板 ・火山性ガラス質複層板 ・ミディアムデンシティファイバーボード(MDF) ・3 ・7 ・9 ・12 ・無研磨板 (・スタンダード ・テンパード) ・研磨板 (・スタンダード ・テンパード) ・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・内装用 ・外装用 ・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・ハードボード(化粧) ・インシュレーションボード ・単層張りパーティクルボード ・無研磨板 ・研磨板 ・10 ・12 ・15 ・18 ・単層オーバレイ ・化粧パーティクルボード ・プラスチックオーバレイ ・塗装 ・10 ・12 ・フラットタイプ (・9 (不燃) ・12 (不燃)) ・凹凸タイプ (・9 (不燃) ・12 (不燃)) ・ロックウール化粧吸音板 ・ロックウール吸音ボード1号 ・25 ・グラスウール吸音ボード32K ・25 (ガラスクロス包) ・せつこうボード ・12.5 (不燃) ・15 (不燃) ・不燃積層せつこうボード ・化粧無(下地張り用) ・化粧有(トラバーチン模様) ・9.5 (不燃) ・シーリングせつこうボード ・12.5 (不燃) ・強化せつこうボード ・12.5 (不燃) ・15 (不燃) ・せつこうラスボード ・9.5 ・化粧せつこうボード(木目) 模様(・柾目 ・板目) 専用下地材有り ・12.5 (不燃) 幅40mm程度 ・化粧せつこうボード(トラバーチン模様) ・9.5 (不燃)		12 断熱材	断熱材打込み工法 (19.9.3) 種類 種類 厚さ(mm) 施工箇所 断熱材名 種類(記号) ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ・押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし) ・複質ウレタンフォーム断熱材 ・フェノールフォーム断熱材 フェノールフォームを使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 断熱材現場発泡工法 (19.9.4) 断熱材の種類 ※A種1 ・A種1H 吹付け厚さ(mm) ・25 ・30 施工箇所 図示による	7 カーペット敷き	・織じゅうたん (19.3.2)(表19.3.1) 織り方 バイル形状 帯電性 備考 ・ウィルトンカーペット ・カットバイル ・適用する ・ダブルフェースカーペット ・ループバイル ・適用しない ・アキスミンスターカーペット ・カット・ループ併用 色柄、バイル系の種類等 ※色柄は模様のない無地のもの 種類 ・A種 ・B種 ・C種 (表19.3.1) 下敷き材 ※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種1号 呼び厚さ8mm 見切り、押え金物 ・適用する(材質、形状等) 図示 ・適用しない 織じゅうたんの接合方法 ※ヒートボンド工法 (19.3.3) ・タフテッドカーペット (19.3.2)(19.3.3)(表19.3.2) バイル形状 バイル長(mm) 工法 帯電性 備考 ・カットバイル ・グリッパー工法 ・適用する ・ループバイル ・全面接着工法 ・適用しない ・カット、ループ併用 下敷き材(グリッパー工法の場合) ※JIS L 3204(反毛フェルト)の第2種1号 呼び厚さ8mm 見切り、押え金物 ・適用する(材質、形状等) 図示 ・適用しない ・タイルカーペット (19.3.2)(19.3.3) 種類 バイル形状 寸法(mm) 総厚さ(mm) 施工箇所 備考 ※第一種 ※ループバイル ※500×500 ※6.5 ※第二種 ・ ※500×500 ※6.5 第一種 ・カットバイル 第二種 ・ ※500×500 ※6.5 第一種 ・カット、ループ併用 第二種 ・
	4 特殊機能床	材料 (19.2.2) シート・タイル種別 種類 性能 厚さ、寸法、形状(mm) ・帯電防止床シート 厚さ: 寸法: 厚さ: ・帯電防止床タイル 形状: ・視覚障害者用床タイル ・耐動重性床シート 厚さ: ・防滑性床シート 厚さ: ・防滑性床タイル 寸法: 厚さ:	12 断熱材	繊維板 ・ハードボード(素地) ・ハードボード(化粧) ・インシュレーションボード ・単層張りパーティクルボード ・無研磨板 ・研磨板 ・10 ・12 ・15 ・18 ・単層オーバレイ ・化粧パーティクルボード ・プラスチックオーバレイ ・塗装 ・10 ・12 ・フラットタイプ (・9 (不燃) ・12 (不燃)) ・凹凸タイプ (・9 (不燃) ・12 (不燃)) ・ロックウール化粧吸音板 ・ロックウール吸音ボード1号 ・25 ・グラスウール吸音ボード32K ・25 (ガラスクロス包) ・せつこうボード ・12.5 (不燃) ・15 (不燃) ・不燃積層せつこうボード ・化粧無(下地張り用) ・化粧有(トラバーチン模様) ・9.5 (不燃) ・シーリングせつこうボード ・12.5 (不燃) ・強化せつこうボード ・12.5 (不燃) ・15 (不燃) ・せつこうラスボード ・9.5 ・化粧せつこうボード(木目) 模様(・柾目 ・板目) 専用下地材有り ・12.5 (不燃) 幅40mm程度 ・化粧せつこうボード(トラバーチン模様) ・9.5 (不燃)		20 ユニット及びその他の工事	1 フリーアクセスフロア (20.2.4) 材料等 施工箇所 構造 寸法(mm) 高さ(mm) 耐震性能 所定荷重 表面仕上げ材 備考 ・支柱調整式 ・500×500 ・1.06 ・3,000N ・置敷式 ・0.66 ・5,000N ・タイルカーペット 帯電防止性能 ・U値(クラス1) ・U値(クラス2) 漏えい抵抗 ・R _{eq} ≥1×10 ⁻¹⁰ 耐荷重性能、耐衝撃性能、ローリングロード性能、耐燃焼性能の試験方法 ※標準仕様書20.2.2(2)(4)による 寸法精度 ※標準仕様書20.2.2(2)(4)による	8 鏡	取付箇所 () 寸法(mm) 図示による 厚さ(mm) ※5
	5 ビニル幅木	材質 ・軟質 ・硬質 高さ(mm) ※60 ・70 ・100 厚さ(mm) ※1.5以上	20 ユニット及びその他の工事	2 可動間仕切り (20.2.3) 材料等 構造形式による種類 構成材の種類 バネ表面仕上げ 遮音性能(dB/500Hz) ・スタッド式(内蔵) ・スタッド ・パネル ・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付 ・スタッド式(露出) ・樹脂焼付 ・スタッド/パネル式 ・壁紙張り ・パネル式 パネル内に取付ける建具 ・あり(寸法及び形状) 図示 なし パネルの材料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆		9 表示	・衝突防止表示 形状、寸法(・30φ) 材質(・ステンレス製) ・非常用出入口等の表示等 ・非常用出入口等の表示等 ・非常用出入口等の表示等 ・非常用出入口等の表示等 室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状寸法材質色、書体、印刷等の種別、取付け形式 図示による		
	6 ゴム床タイル	種類 ・単層品 ・複層品 色柄 () 厚さ(mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0 寸法(mm) ()	20 ユニット及びその他の工事	3 移動間仕切り (20.2.4) 材料等 操作方法による種類 圧縮強度の操作方法 バネ表面材 遮音性能(dB/500Hz) ・手動式 ・ブッシュ式 ・鋼板 ・積付塗装 ・電動式 ・ハンドル式 ・壁紙張り ・部分電動式 ハンガーレールの取付け下地の補強 ・標準仕様書20.2.4(3)(9)による 図示による パネルをランナーに取り付ける部品 ・標準仕様書20.2.4(3)(2)による 図示による ハンガーレール ・標準仕様書20.2.4(3)(9)による 図示による ランナー ・標準仕様書20.2.4(3)(9)による 図示による あと施工アンカー ・使用する 種類: 材質: 寸法: ・使用しない		10 タラップ	材料の種類 ※ステンレス製 仕上げ ※研磨等の仕上げを行わない		
	7 合成樹脂床	合成樹脂床材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ (19.4.2)(19.4.3)(表19.4.1~8) 種類 種類 工法 仕上げの種類 施工箇所 ・厚膜型塗床材 (弾性外樹脂系塗床材) ※平滑仕上げ ・厚膜型塗床材 (エポキシ樹脂系塗床材) ・薄膜流しのべ工法 ・平滑仕上げ ・厚膜型塗床材 (エポキシ樹脂系塗床材) ・厚膜流しのべ工法 ・平滑仕上げ ・薄膜型塗床材 (エポキシ樹脂系塗床材) ・樹脂外工法 ※平滑仕上げ	20 ユニット及びその他の工事	4 トイレブース (20.2.5) 材料等 パネル表面材の材質 部材の種類 ドアエッジの材質 ・メラミン樹脂系化粧板 ※幅木タイプ ※製造所の仕様による ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆		11 煙突ライニング	煙突用成形ライニング材 適用安全使用温度 °C 工法 ()		

工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事
図面名	建築工事特記仕様書(8)
作成日	令和6年3月
縮尺	A1 - -) (A3 - -) 図面番号 A-008
会社名	株式会社JR東日本建築設計
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課

1.工事名称	工事名称 松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事	建築主 松戸市 街づくり部 街づくり課
建設地	(地名地番) 千葉県松戸市本町24番地先	住所氏名 千葉県松戸市根本387番地5
主要用途	駅前広場	〒271-8588 電話 047-366-1111 番
工事種別	新築・増築・別棟増築・改築・改築(大規模の修繕)・室内装飾・改修 用途変更(大規模の模様替)・仮設建築・解体・移設・移転	工期 着工 竣工

2.敷地状況	敷地面積 公簿 () m ² (= 坪) 実測 () m ² (= 坪)	建ぺい率 基準建ぺい率 () % 容積率 基準容積率 () %
用途地域	住居専用(第 種 層)・住居(第 種)・準住居・近隣商業・商業・準工業 工業・工業専用・指定無し	日影制限 (なし) m 平均地盤面からの高さ 敷地境界線より5mを超え10m以内の範囲 敷地境界線より10mを超える場合 時間内
防火地域	防火・準防火・指定なし・特定行政庁の指定地域	
その他の地域地区	都市計画区域内・都市計画区域外・市街化区域・市街化調整区域・特別工業地区・特別用途地区・美観地区・再開発事業区域・指定街区・改良地区 文教地区(第 種)・風致地区(第 種)・高度地区(第 種)・駐車場整備地区・電波伝播障害防止地区・多雪地区・災害危険地区・緑地地区 土地面整理事業地区・宅地造成工事規制区域・国立公園・国定公園・河川敷・その他	

3.構造・規模	構造 SRC造・RC造・PC造・鉄骨造・軽量鉄骨造・CB造・木造・その他	階数 (B) (F 2) (P)
構造形式	ラーメン・壁・立体トラス・シェル・その他	最高高さ TP+16.950 m GLより12.400 m
基礎	地盤支持(ベタ・布・独立) その他 杭支持(RC杭・PC杭・アースドリル・ペント・深礎・その他)	最高軒高 TP+17.106 m GLより12.556 m
増築予定	なし	その他

4.面積	申請部分	申請以外の部分	合計	建ぺい率・容積率	備考
建築面積	() m ² (= 坪)	2,699.33 m ² (= 坪)	2,699.33 m ² (= 坪)	% ≦ 許容 %	
延床面積	() m ² (= 坪)	2,699.33 m ² (= 坪)	2,699.33 m ² (= 坪)	対象面積 % ≦ 許容 %	

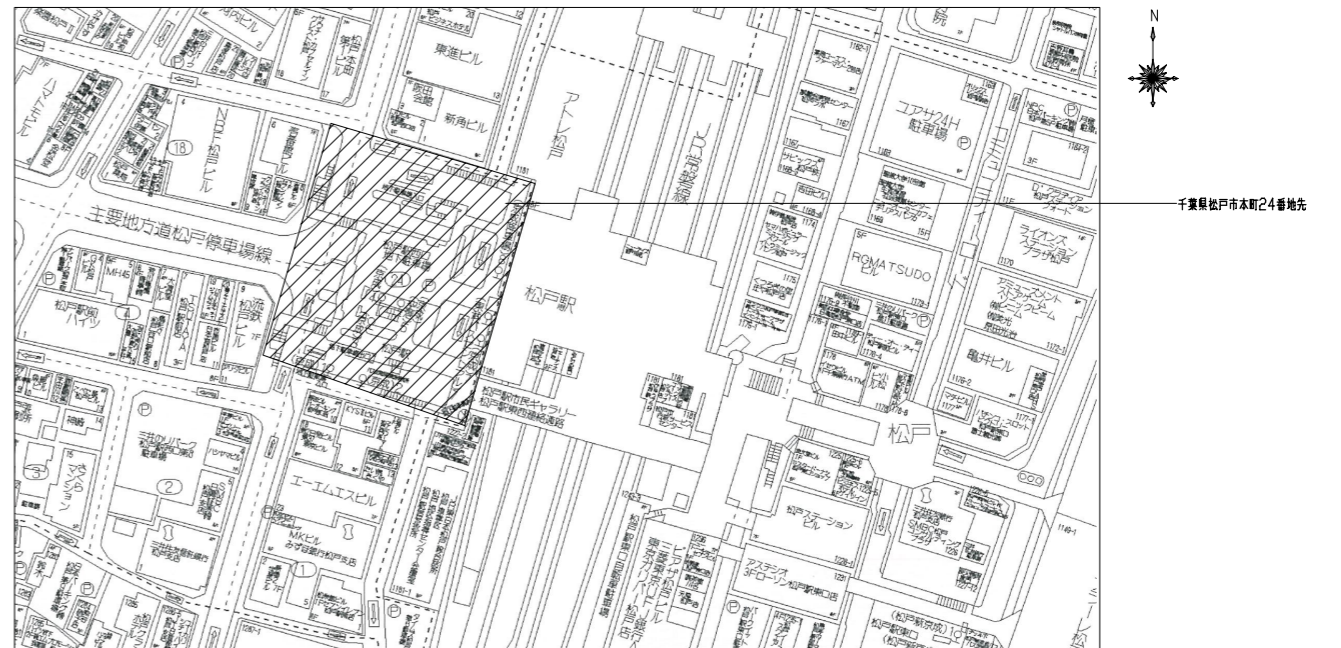
5.床面積	階数	申請部分	申請以外の部分	合計	階高	主要用途
	デッキ階	() m ²	2,699.33 m ²	2,699.33 m ²	() m	デッキ
	1階	() m ²	() m ²	() m ²	() m	
	地下1階	() m ²	() m ²	() m ²	() m	
	地下2階	() m ²	() m ²	() m ²	() m	
	合計	() m ²	2,699.33 m ²	2,699.33 m ²	() m	

6.別途工事	
--------	--

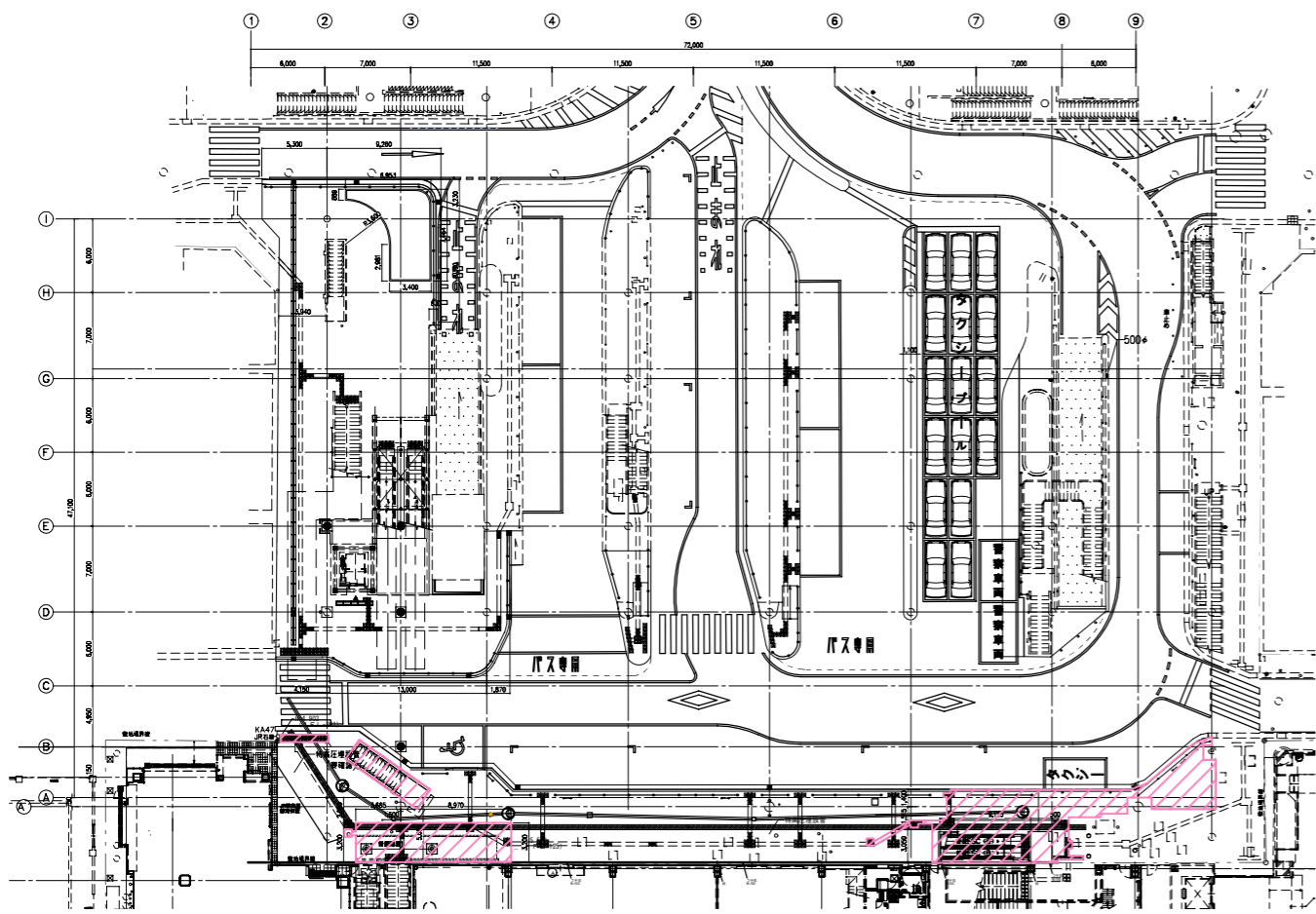
※ A3用紙は表示スケールの倍読みとする (S=1/30→1/60, S=1/50→1/100, S=1/100→1/200)

7.その他の工事範囲

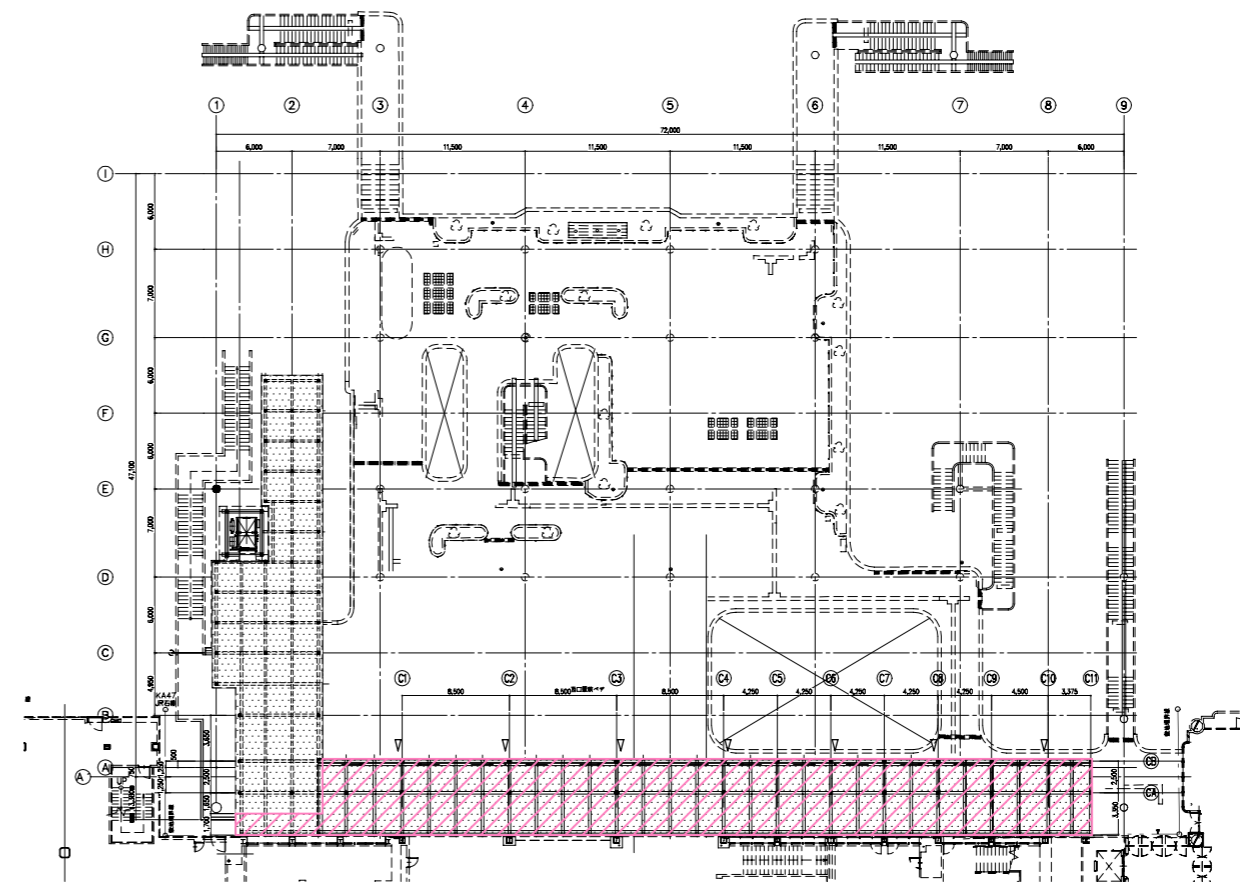
種別	工事由 含む別途	備考	種別	工事由 含む別途	備考	種別	工事由 含む別途	備考	
敷地造成	敷地造成		付属備品	倉庫・物置		昇降機	排煙設備		
	整地			ポンプ室			エレベーター		
	擁壁			ゴミ置場			エスカレーター		
	排水			車庫			ダムウエータ		
	道路			郵便受			カーリフト		
	橋梁			固定家具					
	護岸			什器備品					
	防潮設備			カーテン					
				ブラインド					
				敷物・マット					
解体・撤去	解体	○	補償	日照影響		電気	引込		
	在来基礎撤去			電波障害			変圧器		
	埋設物撤去			騒音			発電機		
移設工事	在来建物移設		給排水衛生	風害			蓄電池		
	工作物移設			近隣工作物			C V C F		
	樹木移設			隣家補償			動力		
外構	植栽造園			空調	給水			電灯コンセント	
	舗装				給湯			監視制御方式	
	路上駐車場				排水		○	電話引込	
	門・塀				衛生器具			電話中継方式	
	盛土				ガス		電話内線容量		
	テラス				消火消火栓等		電話機器		
	パーゴラ				給水処理装置		インターホン		
	外灯		排水処理装置			電気時計			
	工作物	看板			換気	設備架台		テレビ共同監視	
		広告板				SP設備		放送非常放送	
広告鉄塔						非常照明			
ネオン						火災報知			
遊戯施設						煙感知連動			
ゴンドラ						A V 機器			
物干						避雷針			
独立煙突						電気設備架台			
避難器具						煙感知連動			
						ガス漏れ警報設備			
				消火器					
				避難器具					



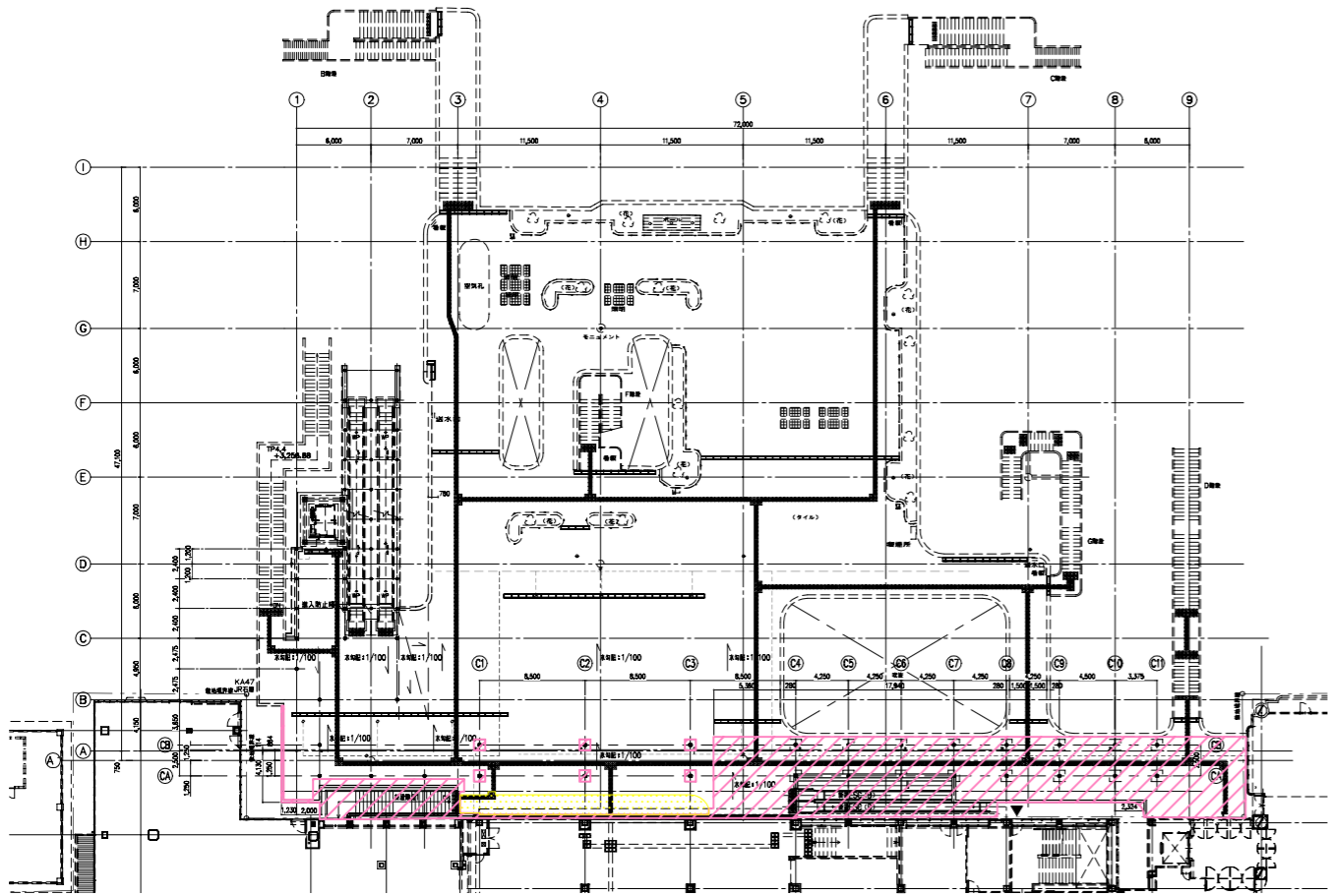
工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事		
図面名	建物概要・案内図		
作成日	令和 6年 3月		
縮尺	A1 (A3)	図面番号	A-010 /
会社名	株式会社 J R 東日本建築設計		
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課		



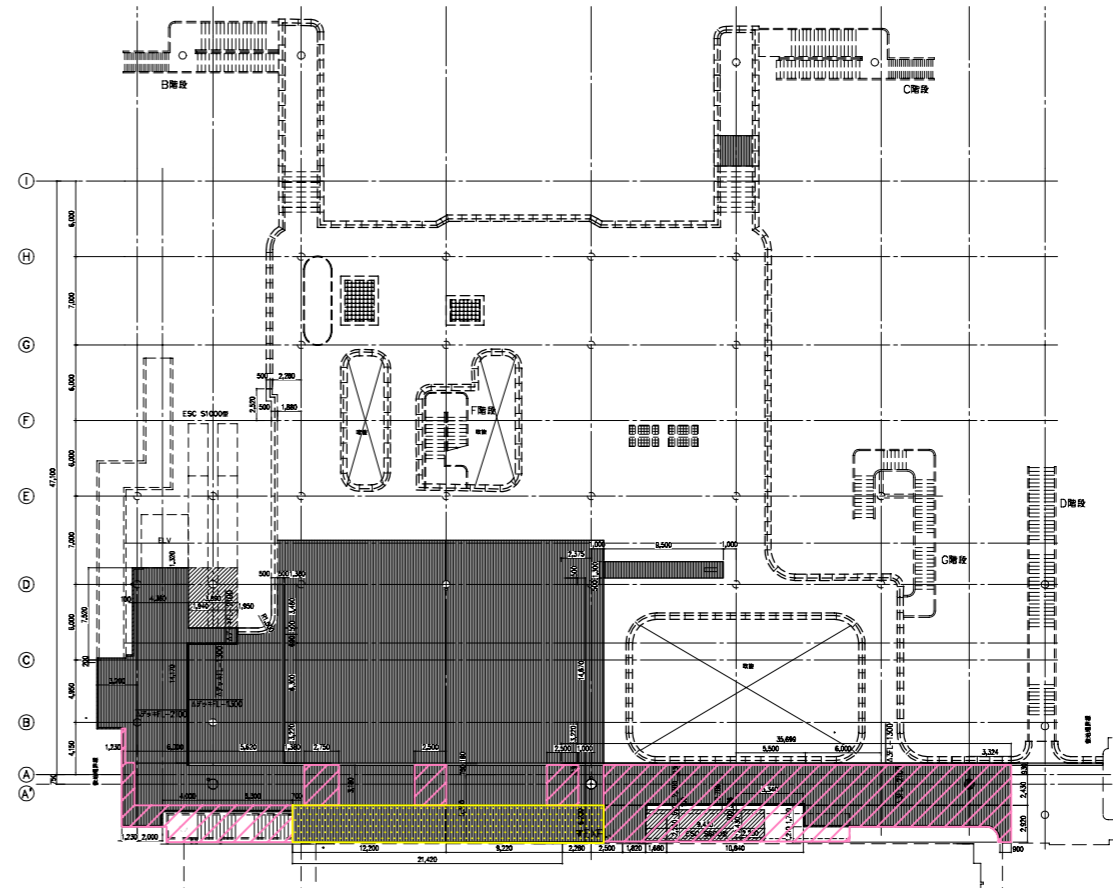
1階平面図



デッキ階上屋伏図



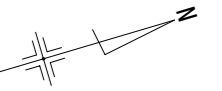
デッキ階平面図



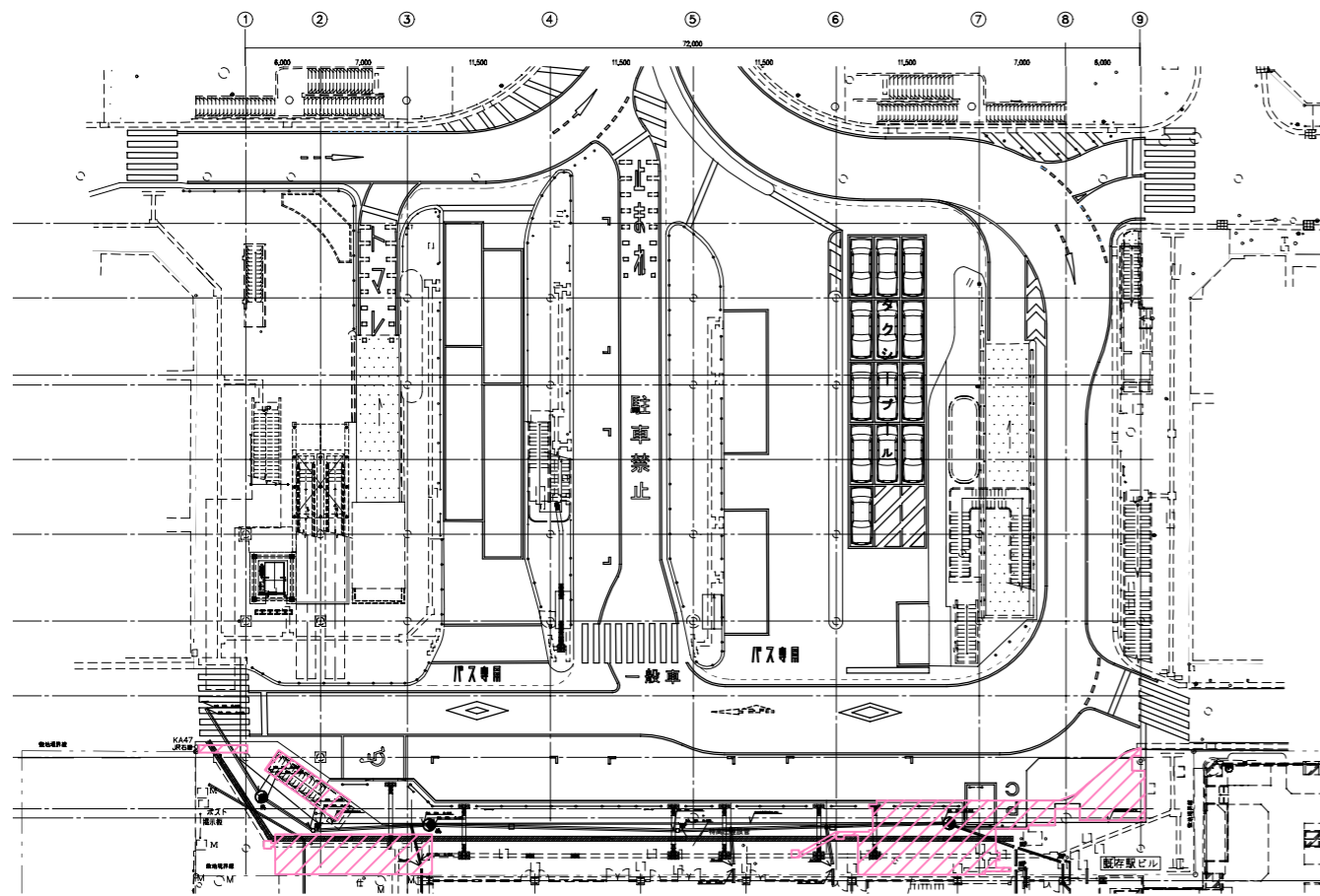
地上階天井伏図

工事区分ハッチ

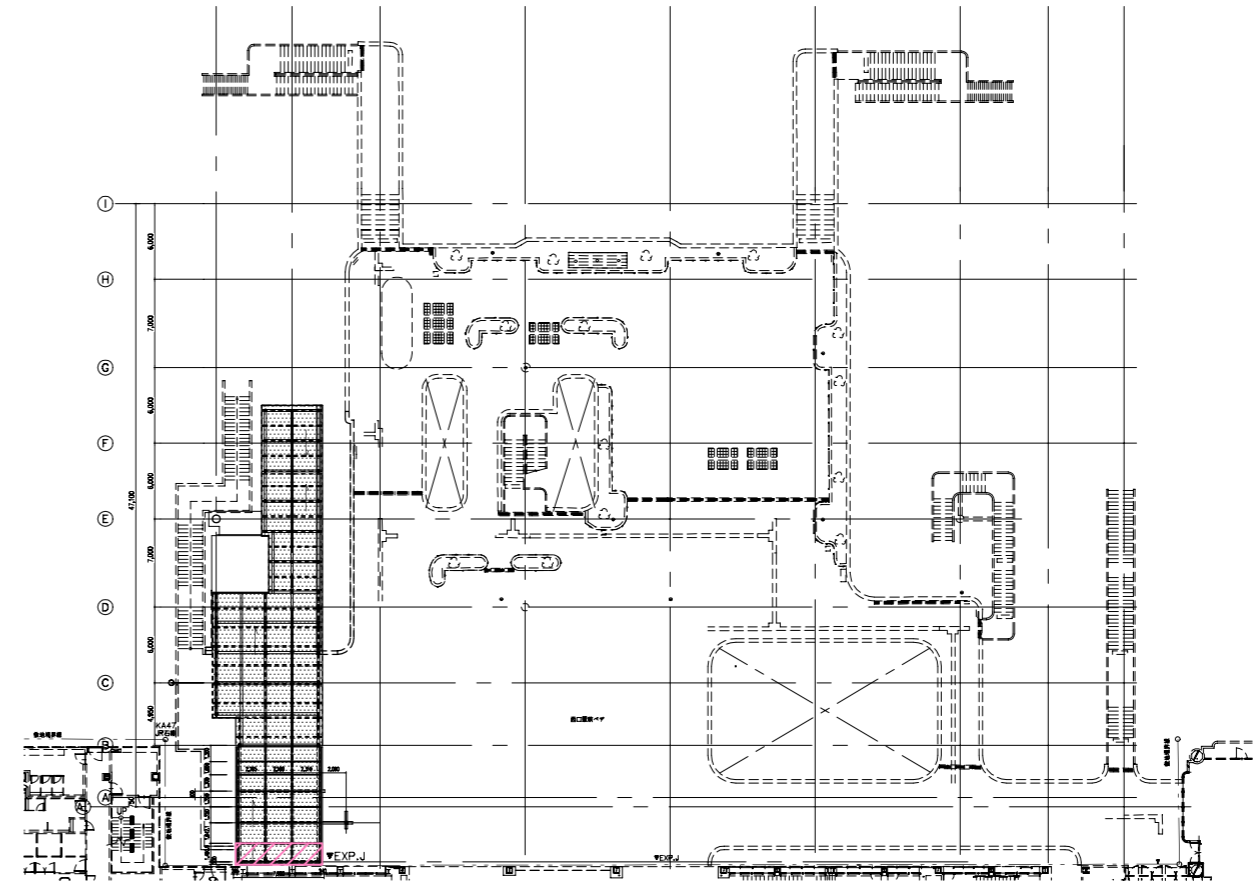
- (仮)松戸駅西口駅前広場
ペDESTリアンデッキ接続工事
- 本工事**
- (仮)松戸駅西口駅前広場
ペDESTリアンデッキ整備工事
- 未発注



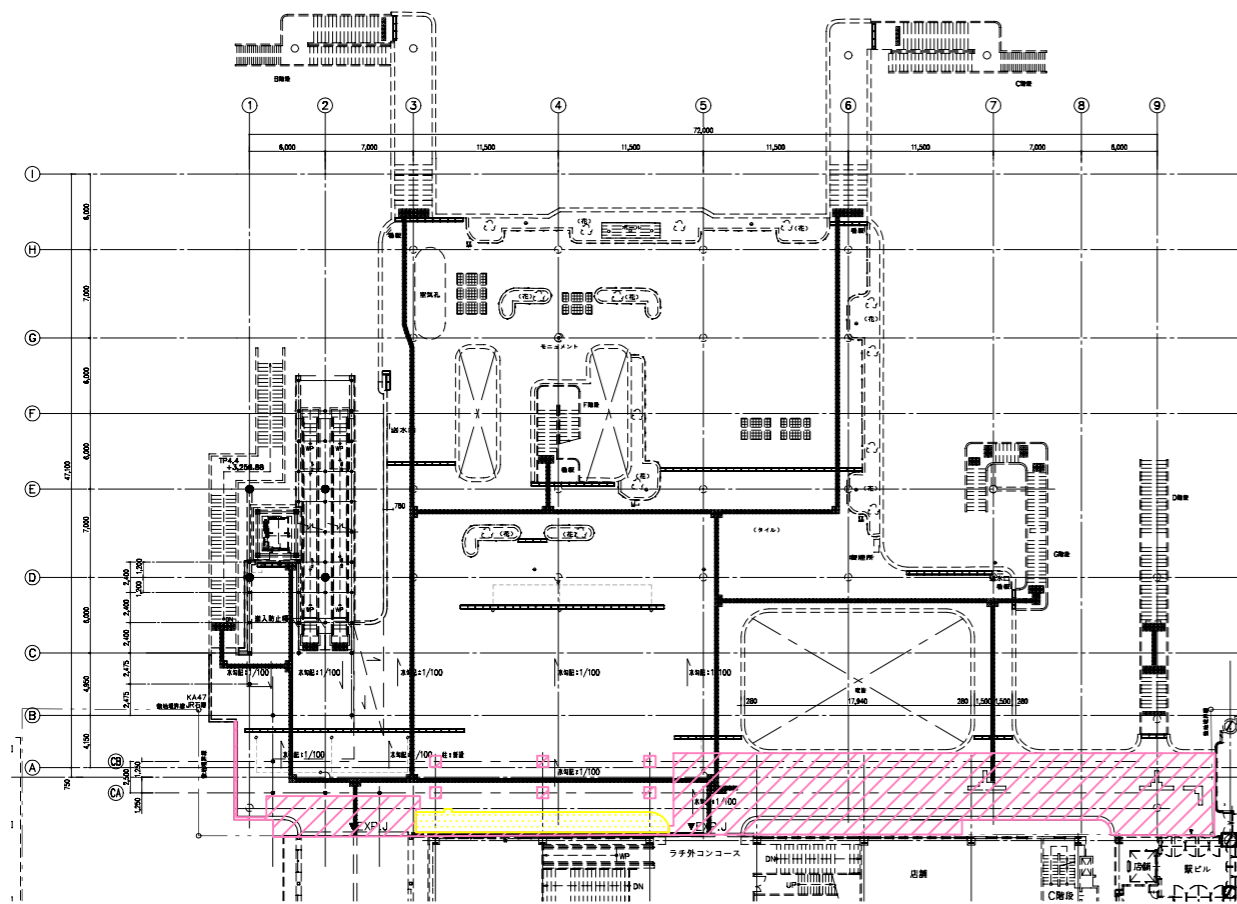
工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事		
図面名	西口デッキ 工事範囲図 (新設)		
作成日	令和 6年 3月		
縮尺	A1 S=1:300 A3 S=1:600	図面番号	A-011 /
会社名	株式会社 J R 東日本建築設計		
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課		



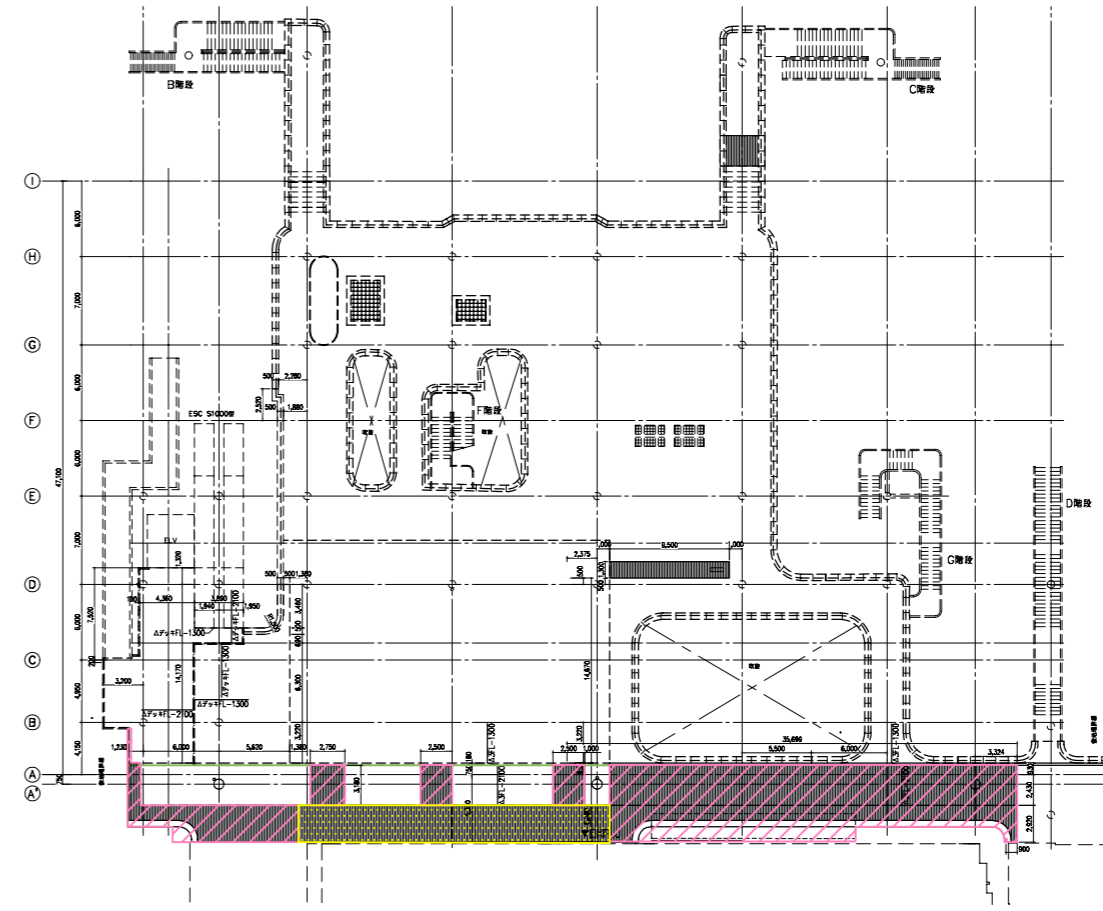
1階平面図



デッキ階上屋伏図



デッキ階平面図



地上階天井伏図

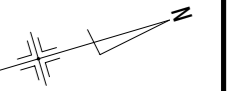
工事区分ハッチ

(仮)松戸駅西口駅前広場
ペDESTリアンデッキ接続工事

本工事




(仮)松戸駅西口駅前広場
ペDESTリアンデッキ整備工事

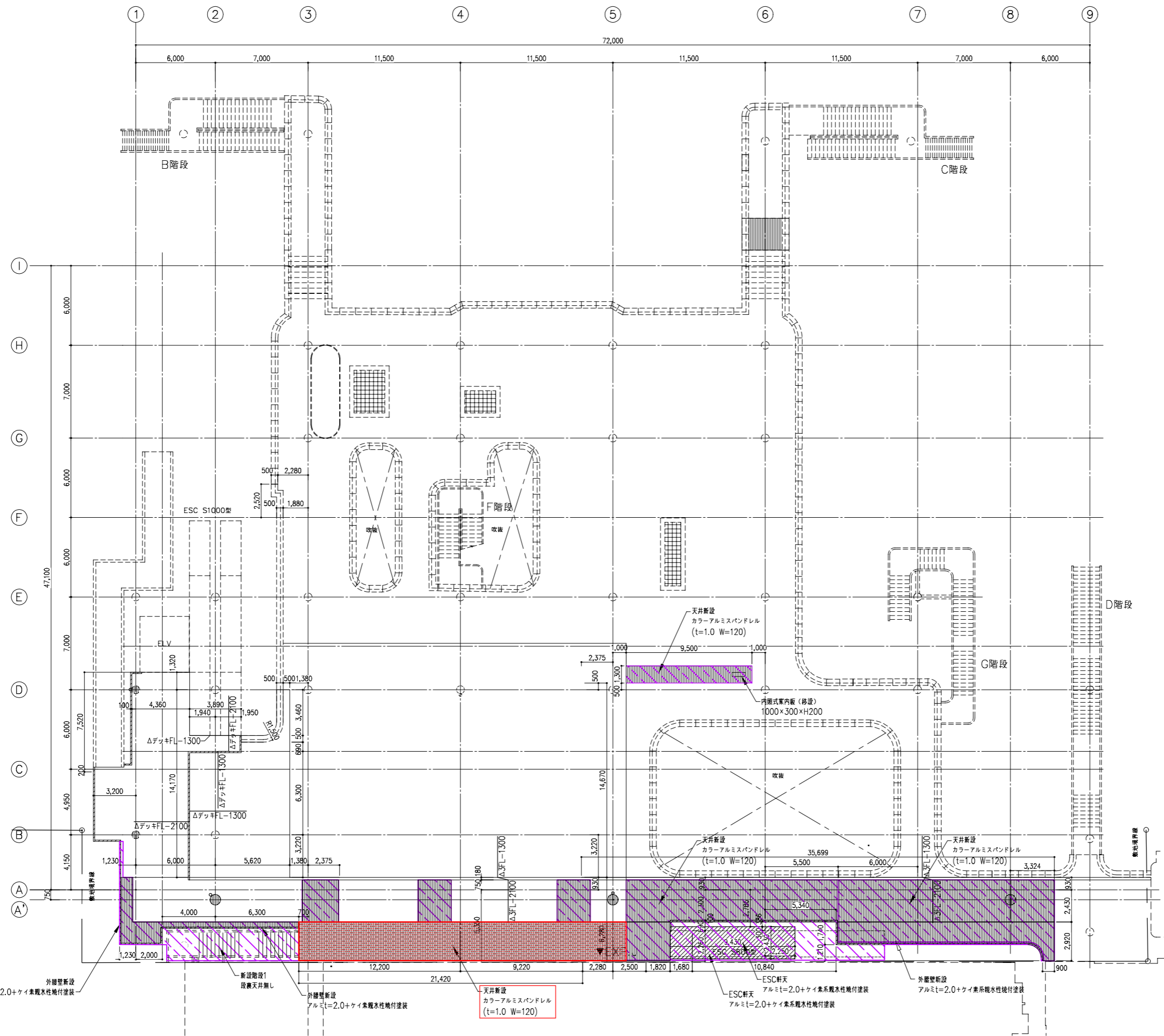
未発注





工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事		
図面名	西口デッキ 工事範囲図(撤去)		
作成日	令和 6年 3月		
縮尺	A1 S=1:150 A3 S=1:300	図面番号	A-012 /
会社名	株式会社 J R 東日本建築設計		
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課		

凡例

- 当該工事 
- 当該工事 (撤去) 
- 未発注 

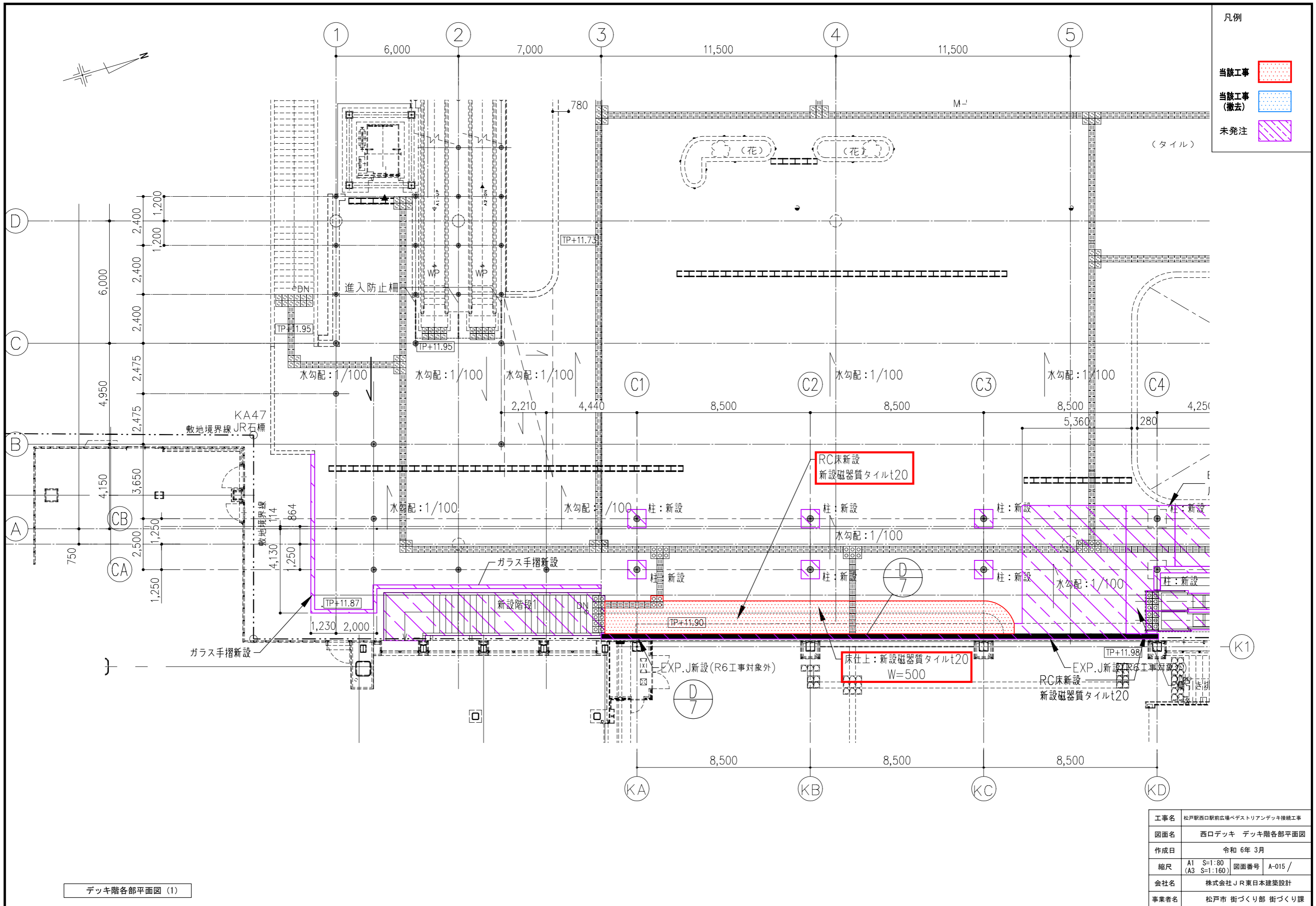


凡例

-  アルミスパンデル範囲
-  アルミパネル範囲

※改修範囲は天井下地も新設

工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事		
図面名	西口デッキ 地上階天井伏図		
作成日	令和 6年 3月		
縮尺	A1 S=1:150 A3 S=1:300	図面番号	A-014 /
会社名	株式会社 J R 東日本建築設計		
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課		

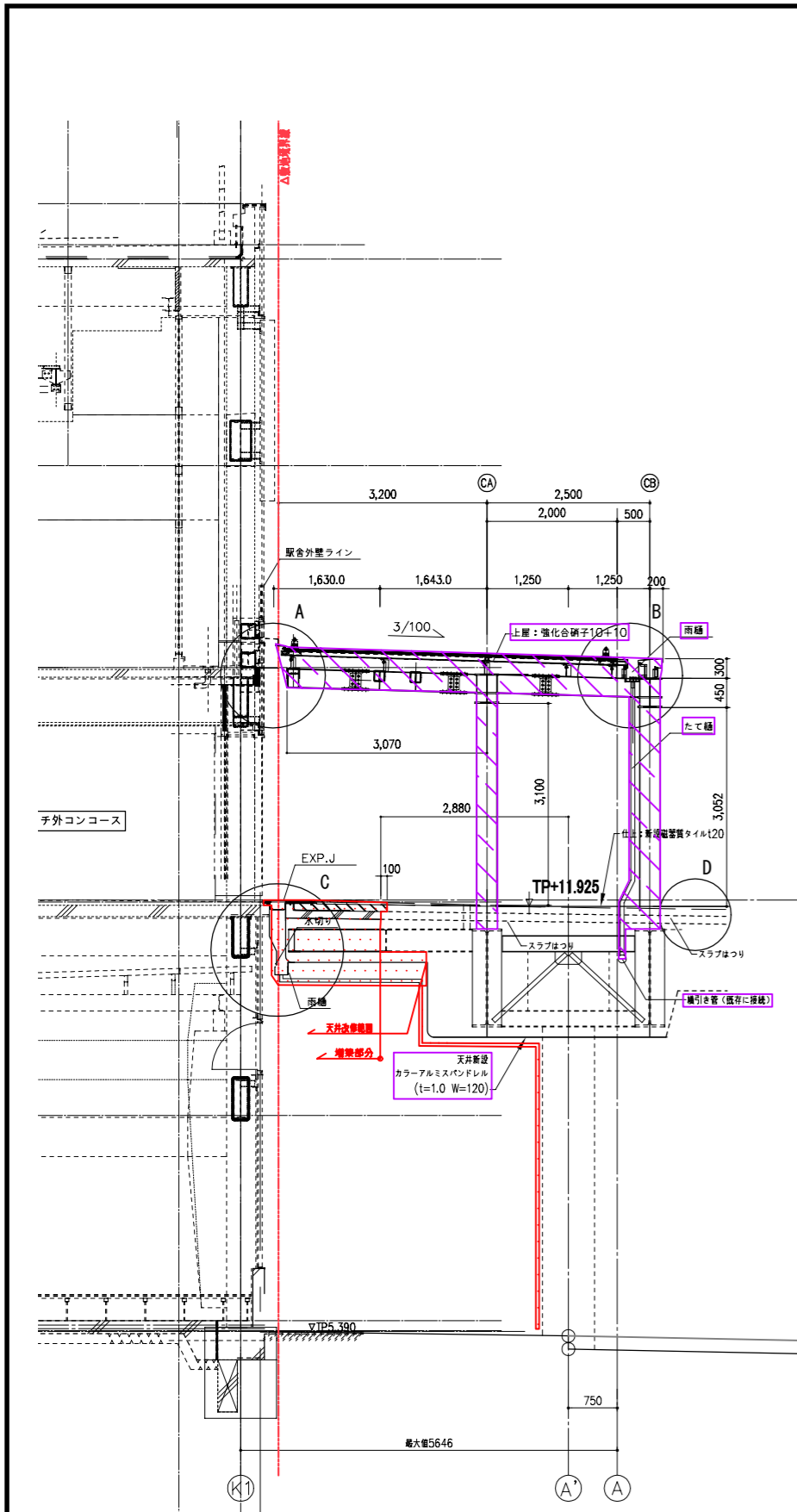


凡例

当該工事	
当該工事 (撤去)	
未発注	

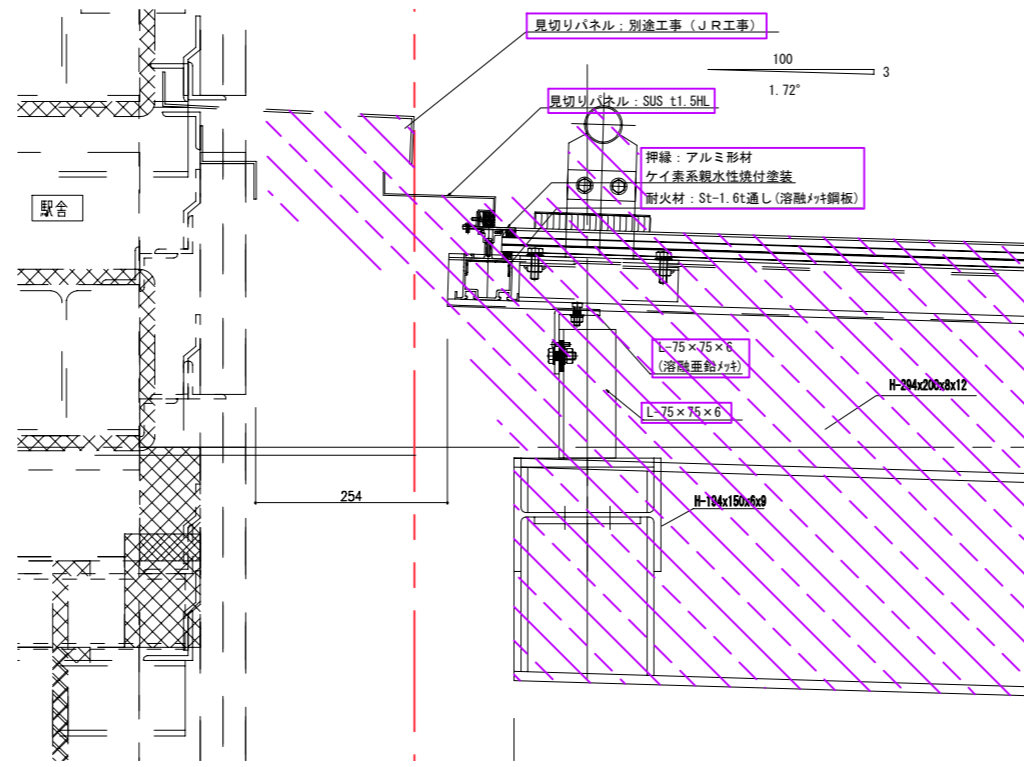
デッキ階各部平面図 (1)

工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTロアンデッキ接続工事		
図面名	西口デッキ デッキ階各部平面図		
作成日	令和 6年 3月		
縮尺	A1 S=1:80 A3 S=1:160	図面番号	A-015 /
会社名	株式会社 J R 東日本建築設計		
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課		

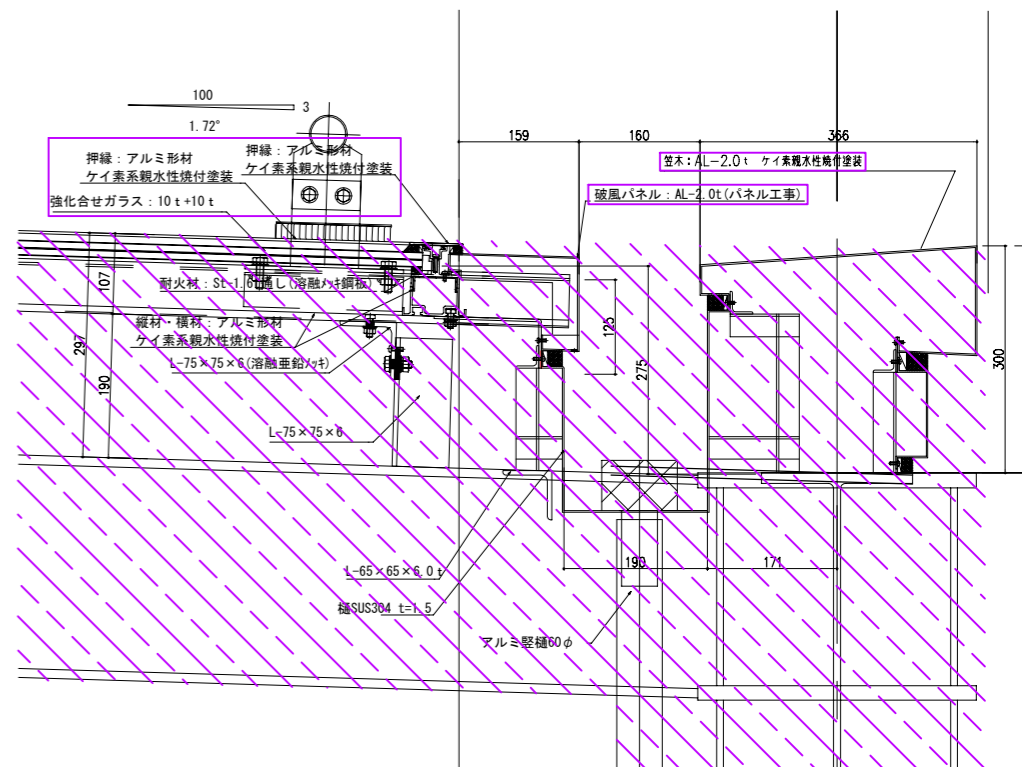


3~4通り断面詳細図 S=1:50

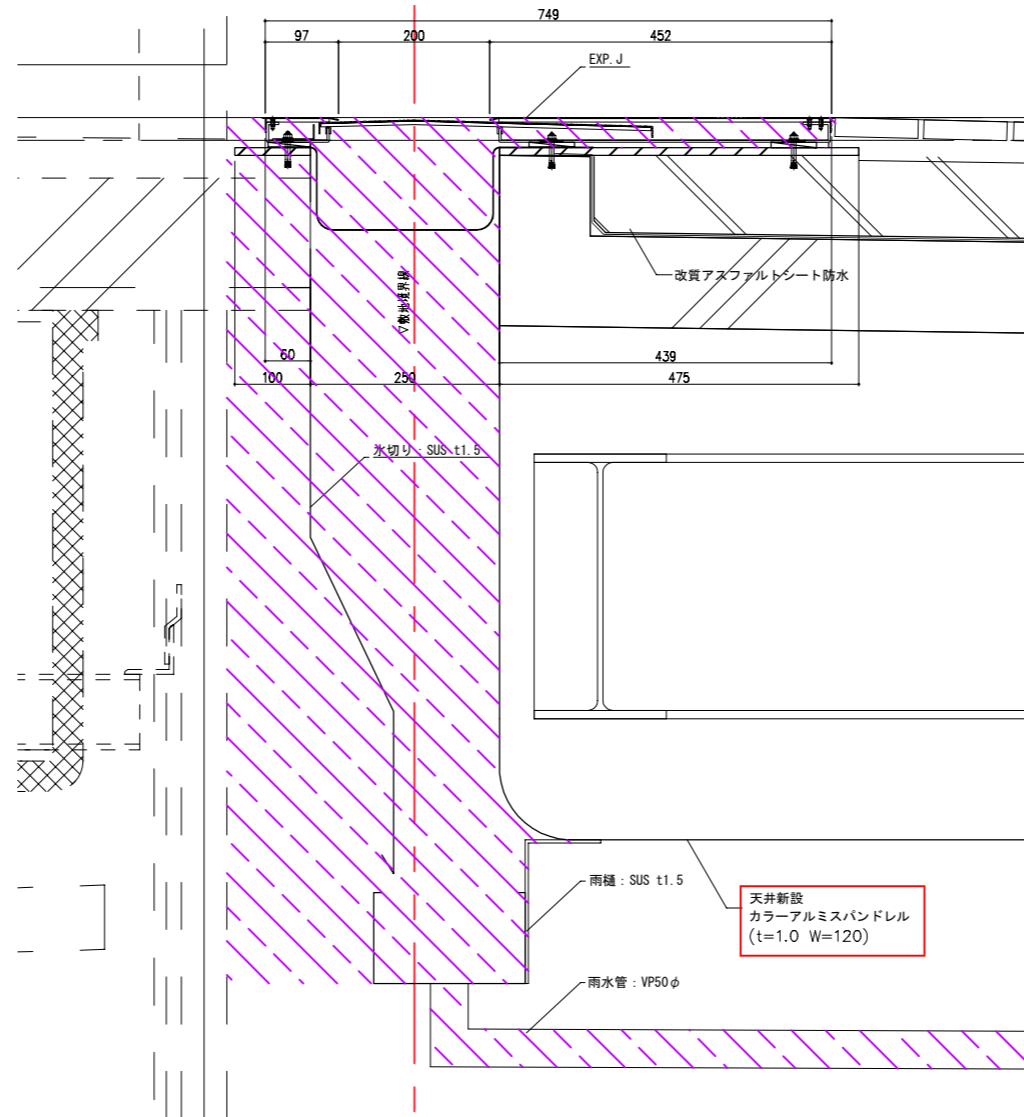
- 凡例
- 当該工事
 - 当該工事 (撤去)
 - 未発注



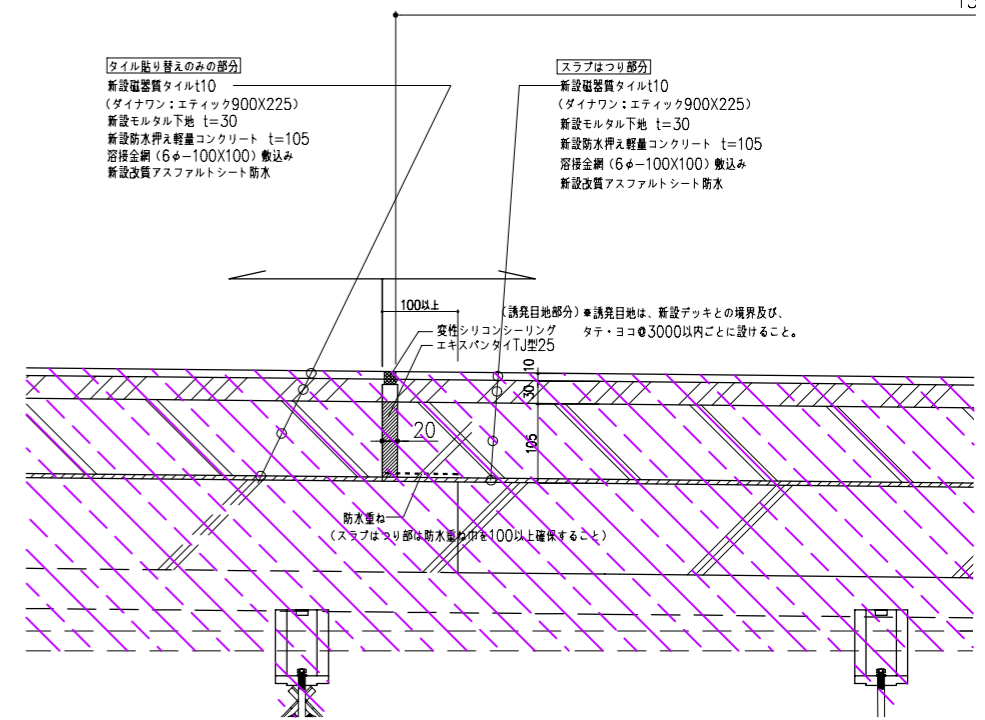
A部詳細図 S=1:10



B部詳細図 S=1:10



C部詳細図 S=1:10

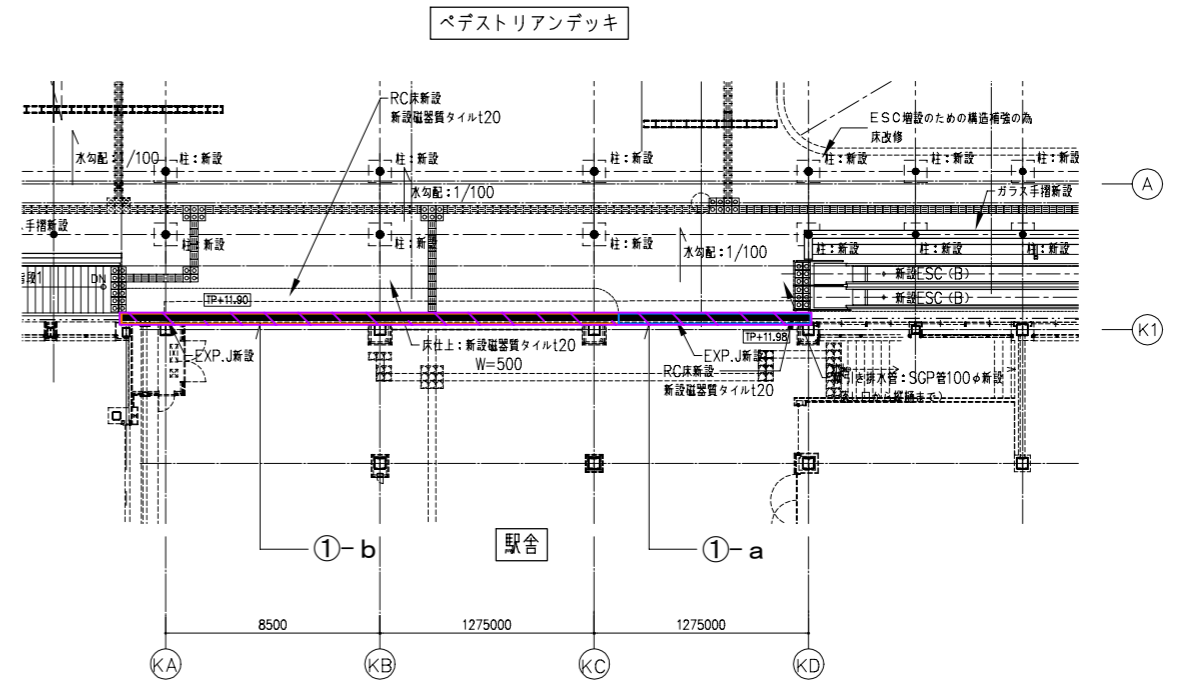
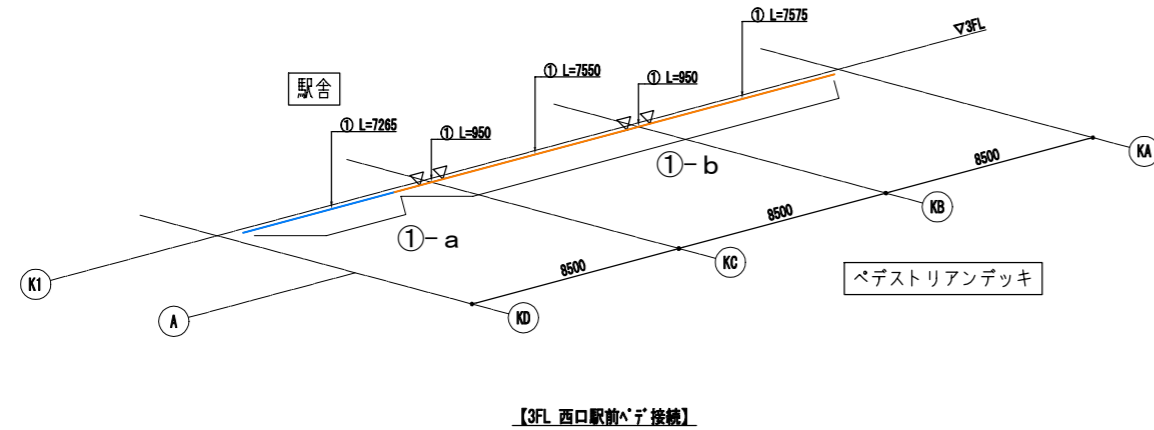
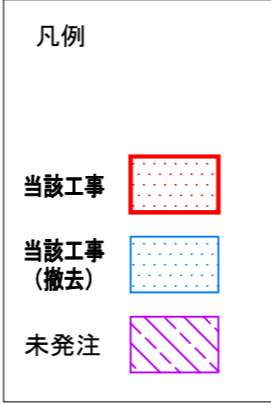


D部詳細図 S=1:10

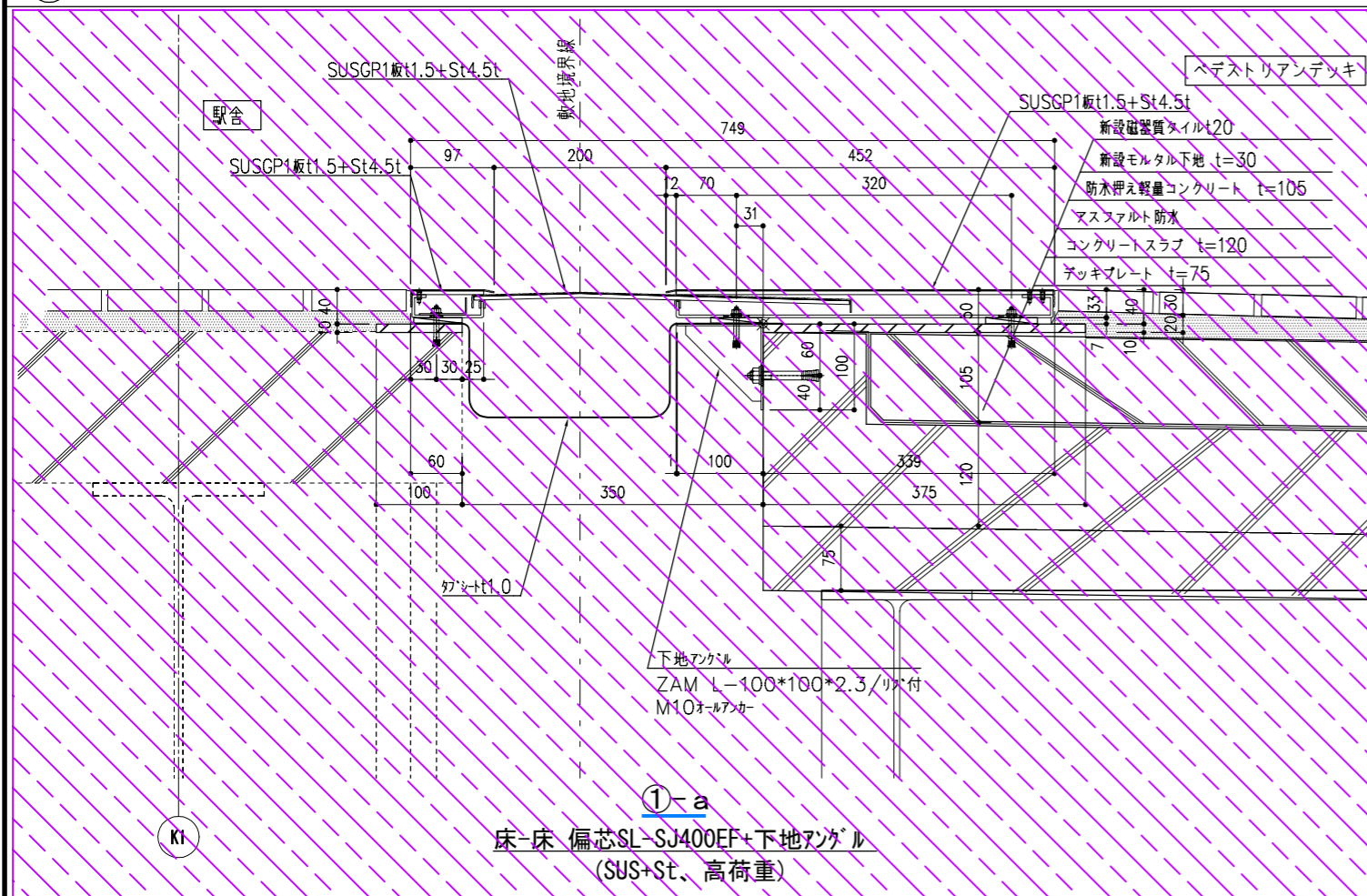
工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事
図面名	改修図 駅舎取合部断面詳細図
作成日	令和 6年 3月
縮尺	A1 S=1:50, 10 A3 S=1:100, 20 図面番号 A-016
会社名	株式会社 J R 東日本建築設計
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課

※ 駅舎との水切り合いについては、監督職員の承諾を得ること。

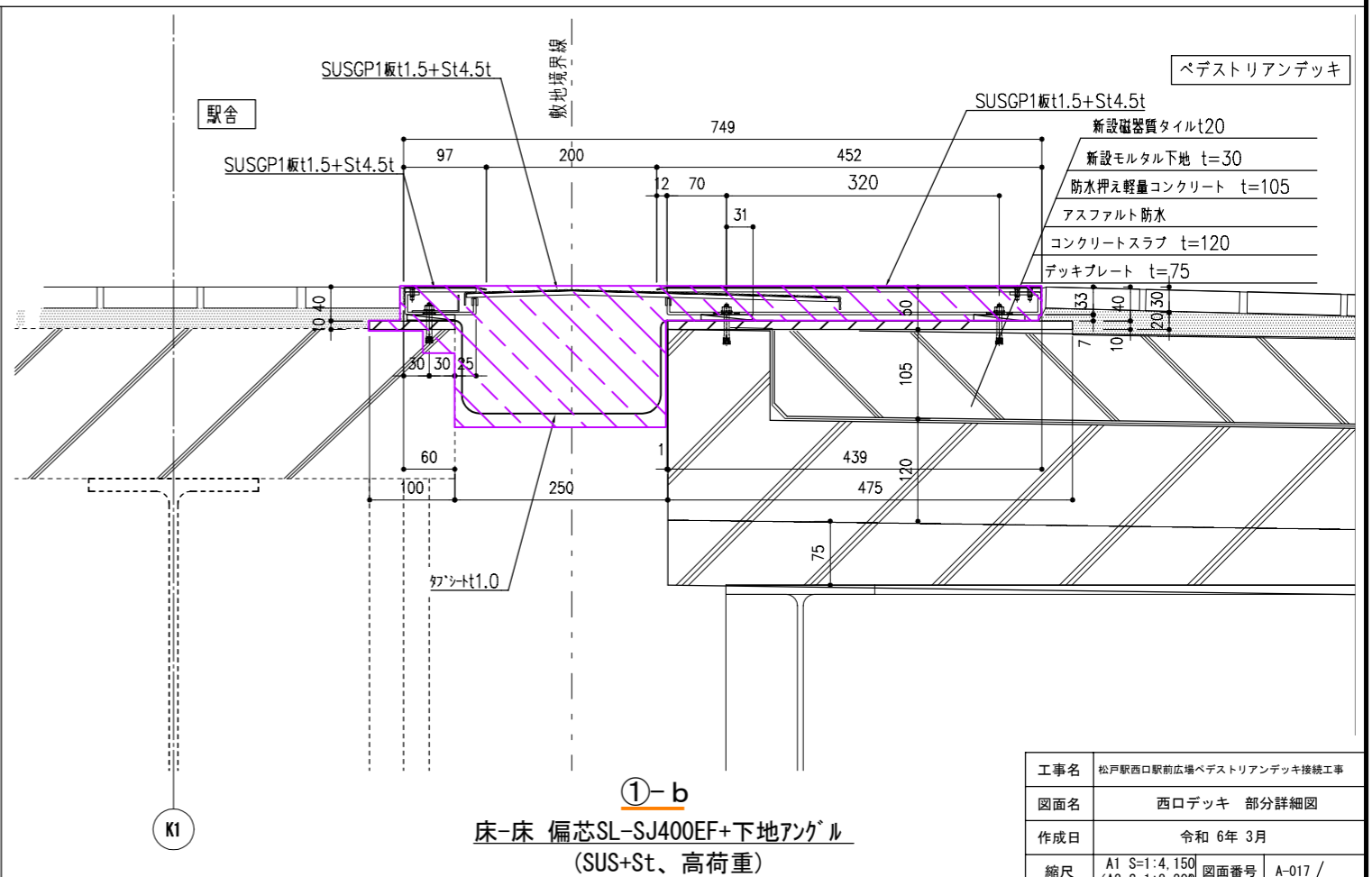
No.	品名	型番	CL	可動量(O)	可動量(Y)	可動量(Z)	製品メーカー	材質/仕上	備考
①	床-床	偏芯SL-SJ400EF	200	±200	±200	±20	井上商事(株)	SUS+St	高荷重仕様
②	床-床	偏芯SL-SJ400EF	200	±200	±200	±20	井上商事(株)	SUS+St	高荷重仕様
③	壁-壁	SL-150BG	150	+68, -89	±60	-	"	AL/タテ	止水シートなし
④	壁-壁	SL-100R6C	100	±55	±55	±50	"	AL/タテ/タテ(ガラス)	"
⑤	床-床	SL-SJ100F	100	+56, -45	-	±20	"	SUS+St	高荷重仕様



平面図

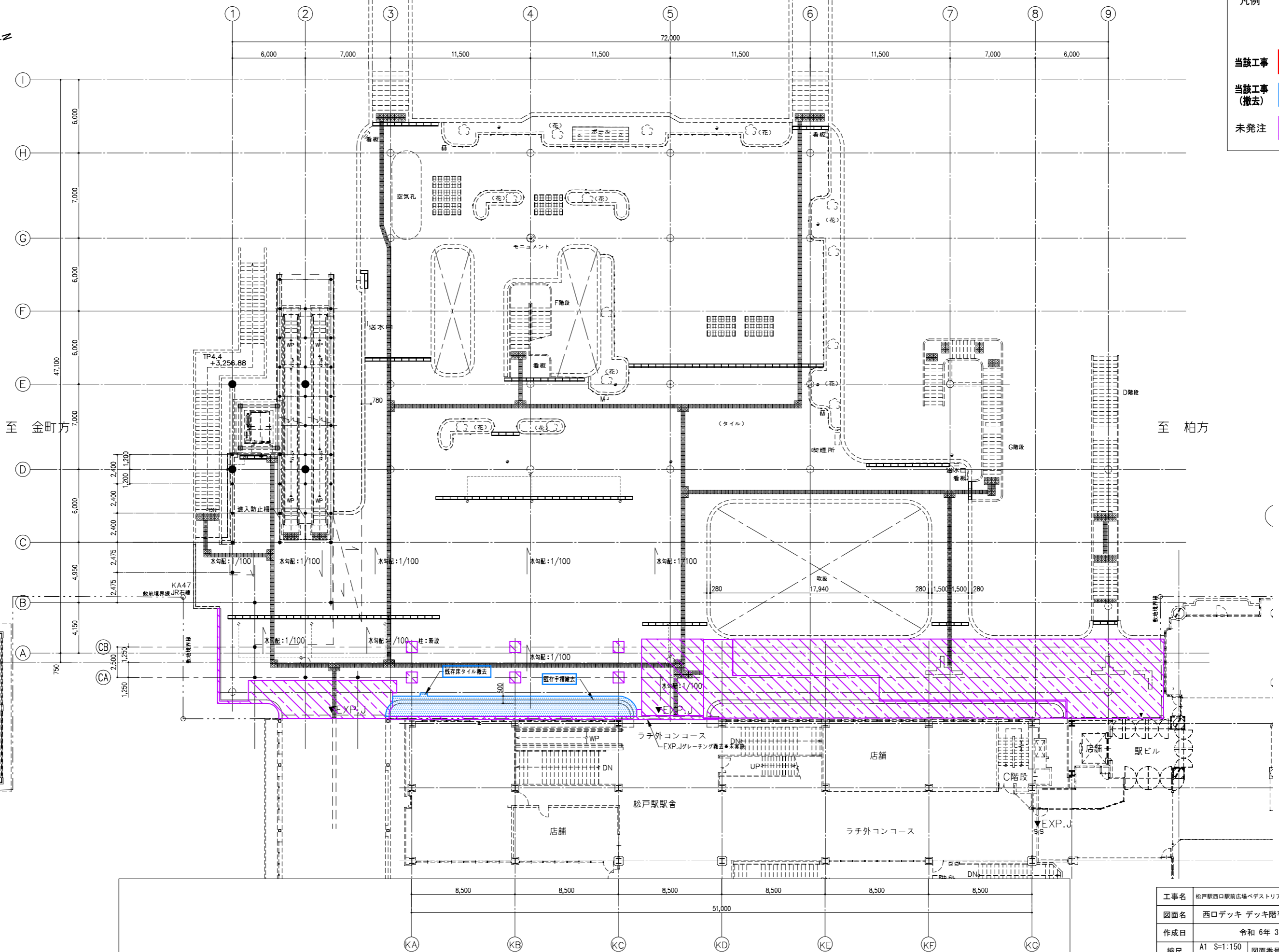
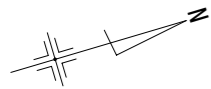


①-a
床-床 偏芯SL-SJ400EF+下地アングル (SUS+St、高荷重)



①-b
床-床 偏芯SL-SJ400EF+下地アングル (SUS+St、高荷重)

工事名	松戸駅西口駅前広場ペデストリアンデッキ接続工事		
図面名	西口デッキ 部分詳細図		
作成日	令和 6年 3月		
縮尺	A1 S=1:4, 150 A3 S=1:8, 300	図面番号	A-017 /
会社名	株式会社 J R 東日本建築設計		
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課		



凡例

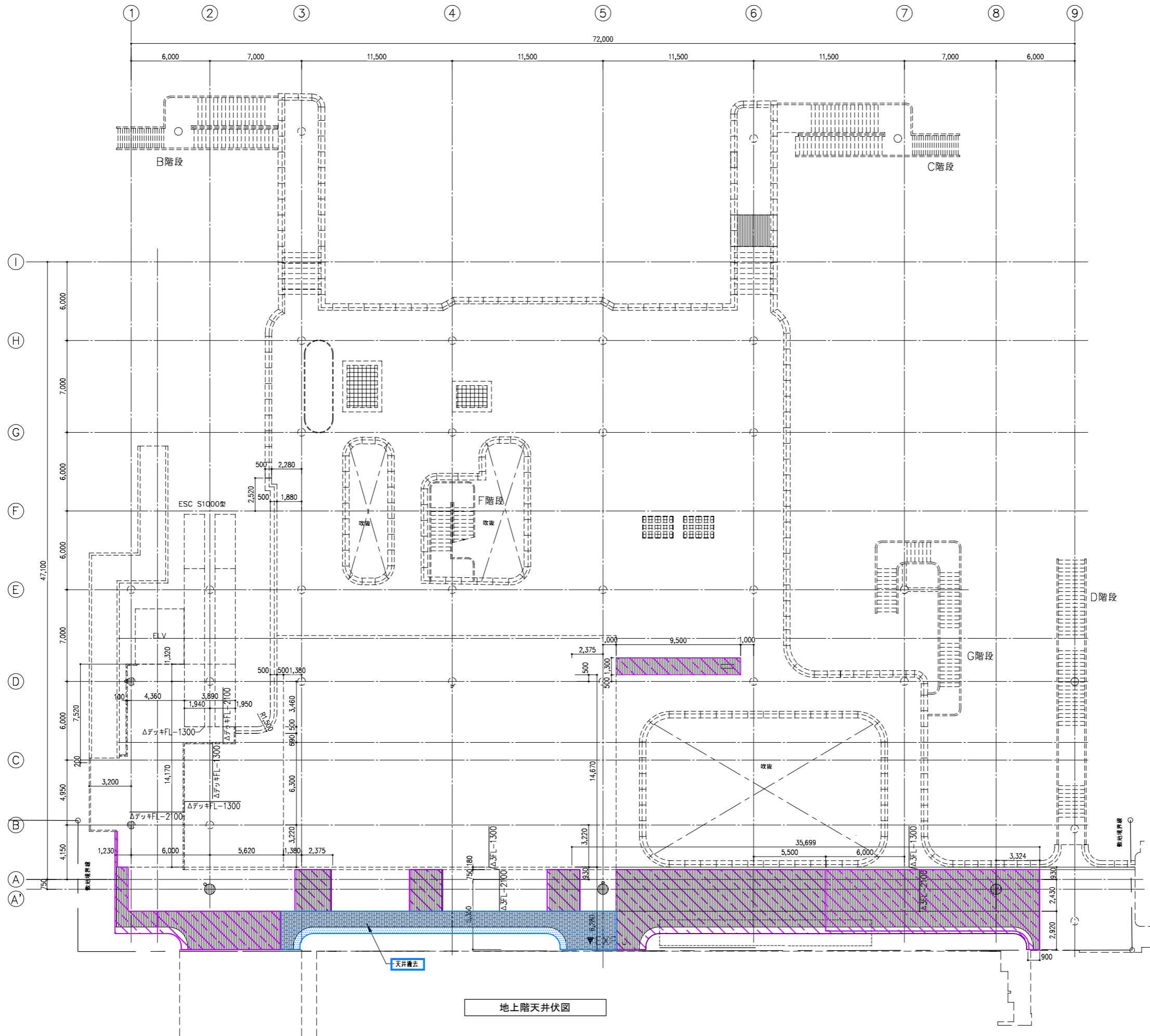
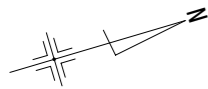
当該工事	
当該工事 (撤去)	
未発注	

至 金町方

至 柏方

デッキ階平面図

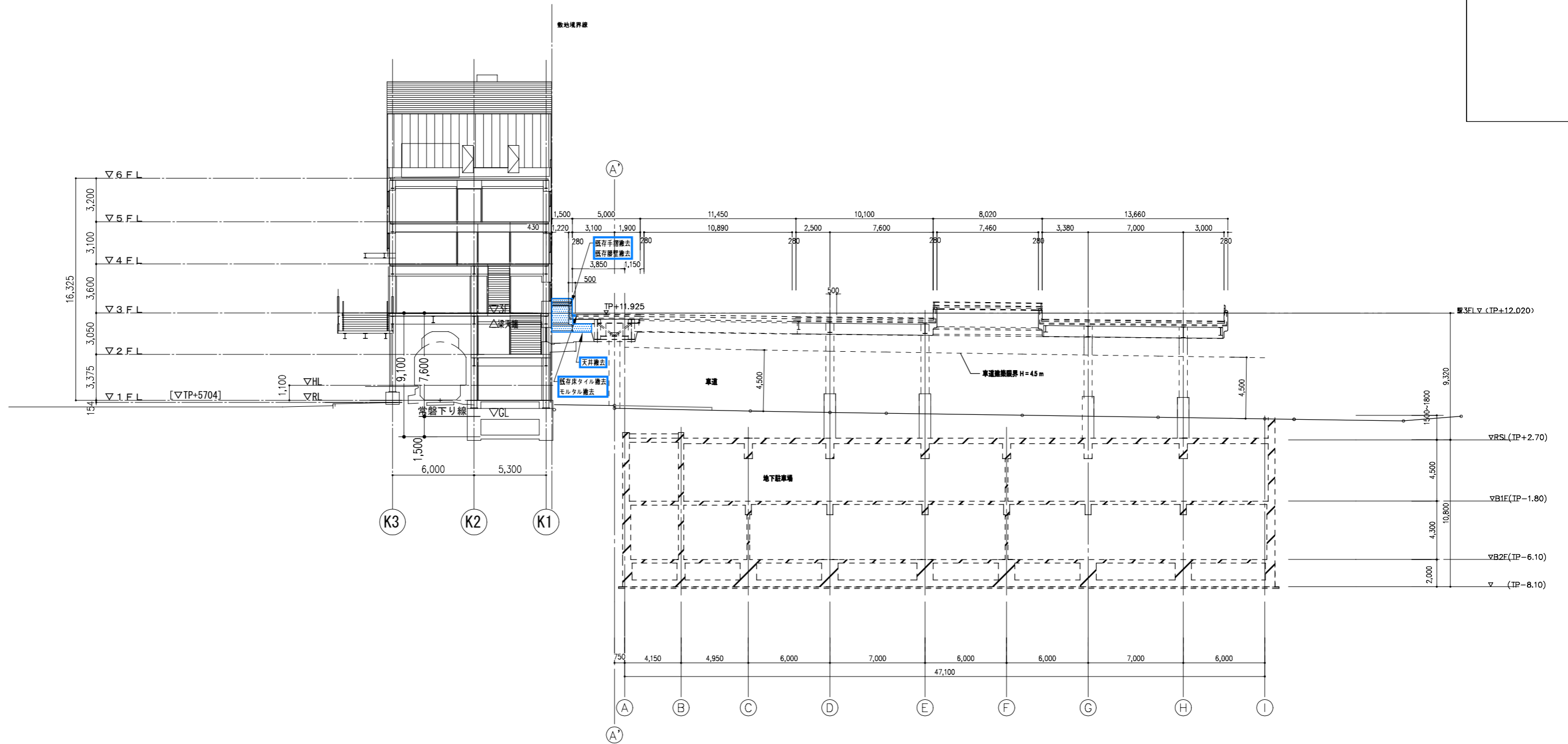
工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事		
図面名	西口デッキ デッキ階平面図 (撤去図)		
作成日	令和 6年 3月		
縮尺	A1 S=1:150 A3 S=1:300	図面番号	A-018 /
会社名	株式会社 J R 東日本建築設計		
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課		



至 柏方

地上階天井伏図

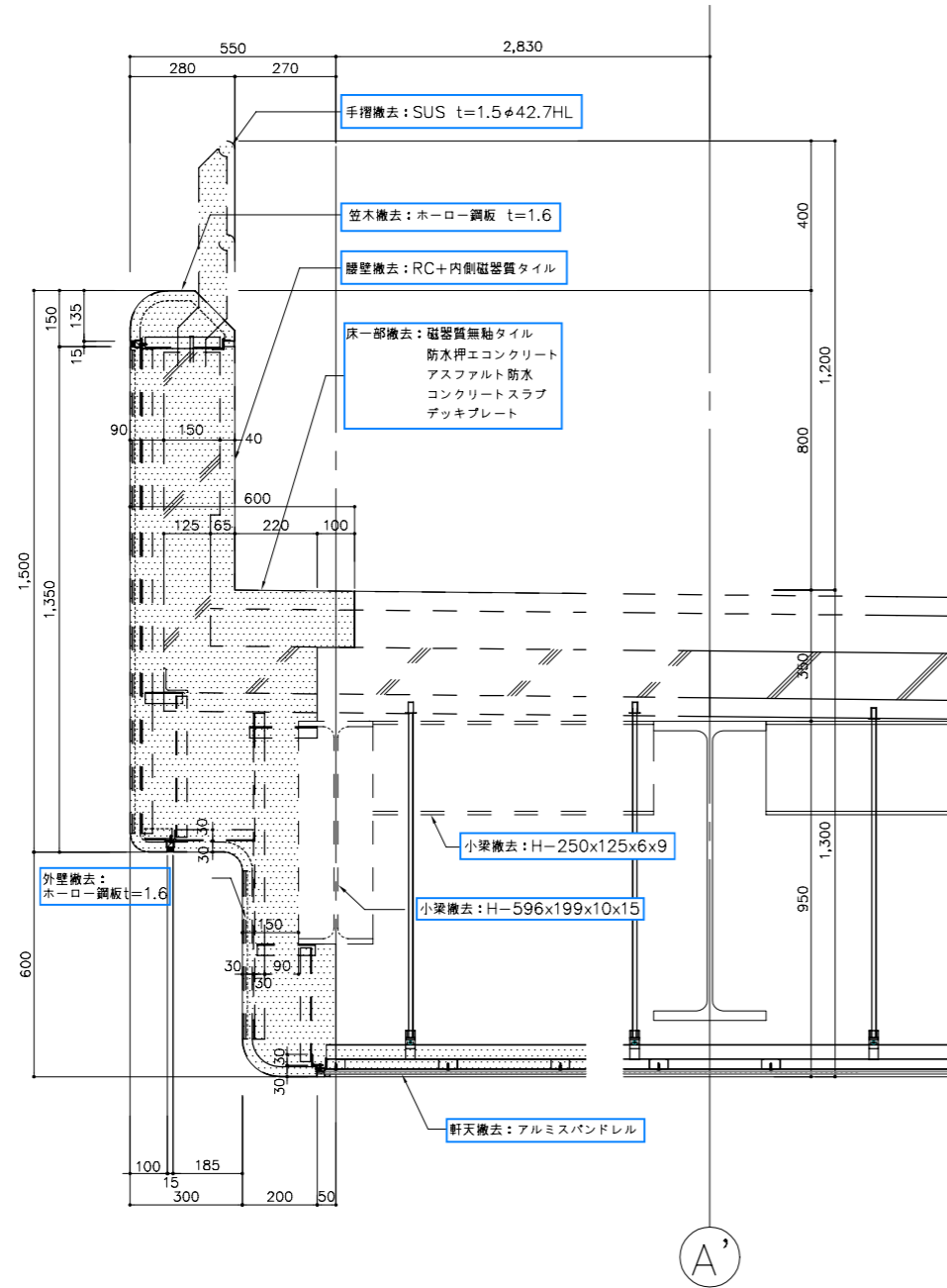
工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事		
図面名	西口デッキ 地上階天井伏図		
作成日	令和 6年 3月		
縮尺	A1 S=1:150 A3 S=1:300	図面番号	A-019 /
会社名	株式会社 J R 東日本建築設計		
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課		



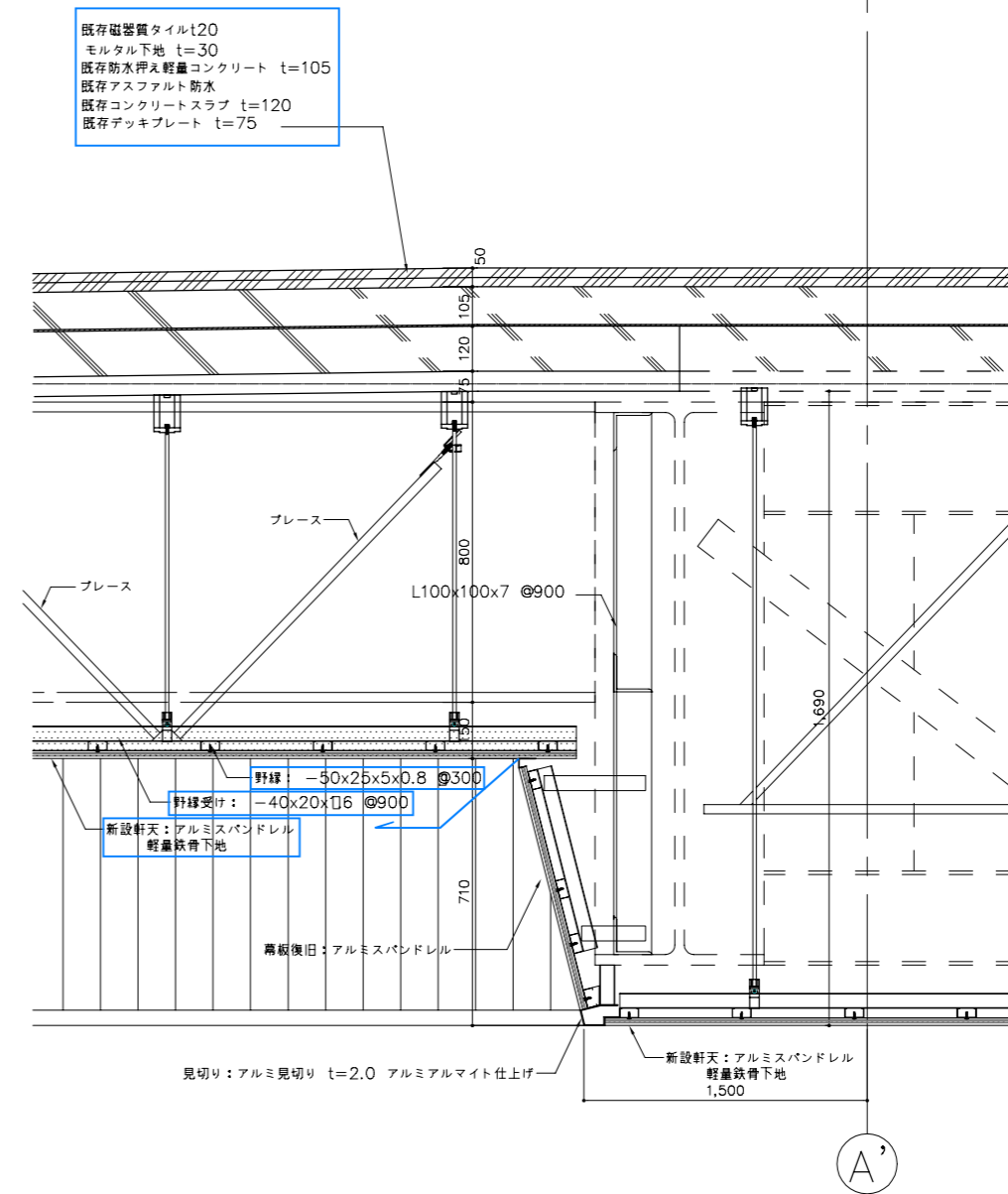
4通り立・断面図

工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTロアンデッキ接続工事		
図面名	西口デッキ 4通り立・断面図 (撤去図)		
作成日	令和 6年 3月		
縮尺	A1 S=1:150 A3 S=1:300	図面番号	A-020 /
会社名	株式会社 J R 東日本建築設計		
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課		

デッキ断面詳細図 S=1:10



デッキ塞ぎ・床改修部断面詳細図 S=1:10



凡例

- 当該工事
- 当該工事(撤去)
- 未発注

工事名	松戸駅西口駅前広場ペデストリアンデッキ接続工事		
図面名	西口デッキ デッキ塞ぎ部断面詳細図		
作成日	令和 6年 3月		
縮尺	A1 1:10 (A3 S=1:20)	図面番号	A-021 /
会社名	株式会社 J R 東日本建築設計		
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課		

建築工事特記仕様書 - 構造

1.共通仕様
この特記仕様書及び図面に記載されていない事項は以下による。
・国土交通省大臣官庁官庁官務部監修
「公共建築工事標準仕様書(建築工編)」(平成31年版)
2.特記仕様
(1)章及び項目は、番号に○印がつけられたものを適用する。
特記事項は、○印を適用する。
○印のない場合は、●印を適用する。
○印と●印がある場合は、両方適用する。
(2)項目の()内の番号は、公共建築工事標準仕様書の当該項目、当該表、及び当該図を示す。
(3)製造所名は、「株式会社」等の記載を省略する。
(4)すべての設計図書は、相互に補充するものとする。ただし、設計図書間に相違がある場合の優先順位は、次の①から⑥までの順番の通りとする。
①現場説明書、内容説明書及び質疑応答書
②特記仕様書(付属書1)
③補足仕様書・追加仕様書
④特記仕様書(設計図添付)
⑤設計図
⑥標準仕様書(「公共建築工事標準仕様書」「JASS最新版」等)

Table with 4 columns: Chapter, Item, Particulars, Remarks. Contains detailed specifications for concrete, reinforcement, and masonry work.

Table with 4 columns: Item, Particulars, Remarks, and a detailed table for reinforcement types and grades.

Table with 4 columns: Item, Particulars, Remarks, and a detailed table for steel materials and welding.

Table with 4 columns: Item, Particulars, Remarks, and a detailed table for fireproofing and other construction details.

Table with 2 columns: Field Name and Value. Contains project information like 'Project Name: Building Work Particular Specifications (Construction Relationship)', 'Completion Date: Heisei 26 Year 3 Month', etc.

コンクリート工事共通事項

- (1) 設計基準強度、スランプ
 ・設計基準強度、スランプは、特記による。
 ・構造体強度補正值(S値)により施工性が低下するなどの場合は、監理者と協議の上、以下の範囲でスランプを修正すること。
 18≦Fc<30 : 18cm以下
 30≦Fc≦36 : 21cm以下
 軽量コンクリート : 21cm以下
 流動化コンクリート : 21cm以下
- (2) コンクリートの種類
 (a) 気乾単位容積質量による種類
 (f) 普通コンクリート
 ・気乾単位容積質量は、2.3t/m³とする。
 ・単位水量の最大値は、185kg/m³とする。
 ・単位セメント量は、270kg/m³以上とする。
 ・水セメント比の最大値は、普通、中熟ポルトランドセメントおよび混合セメントのA種の場合は65%とし、低熱ポルトランドセメントおよび混合セメントのB種の場合は60%とする。
 ・所要空気量は、4.5%とする。
 ・コンクリートの練り混ぜから打込み終了までの時間は、外気温が25℃以下の場合は120分とする。
- (g) 寒中コンクリート
 ・気乾単位容積質量は、1種:1.9t/m³程度、2種:1.7t/m³程度とする。
 ・単位水量の最大値は、185kg/m³とする。
 ・単位セメント量の最小値は、320kg/m³とする。ただし、常時土または水に直接接する部分に用いる場合は、340kg/m³とする。
 ・水セメント比の最大値は、55%とする。
 ・所要空気量は、5.0%とする。
 ・所要スランプは、21cm以上とする。
- (b) 使用材料、施工条件、要求性能等による種類
 (f) 寒中コンクリート
 ・適用期間は特記による。
 ・水セメント比は、60%以下とする。
 ・コンクリートの練り混ぜは、運搬時間、施工条件、気象条件等を考慮して、コンクリートの荷卸し時の温度が、10℃以上、20℃未満となるように定める。
 ・供試体の養生方法、材令、1回の試験の個数及び試験回数下表による。

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築		●	×	○	●	○	◎	⊗	◎

記号	説明	記号	説明
○	スラブの配筋種別	⊕	杭の位置
◇	スラブ厚さ	●	試験杭の位置
○	階段の配筋種別	▨	打増しの範囲
SO	土留コンクリート	⊗	スラブ開口
□	コンクリートブロック壁 (CB壁)	⊕	ポーリング位置
▨	梁・スラブの上り下り及び範囲	(土)	FLからの上り下り
EWO○ EKWO○	耐力壁の種類		

- (3) 材料
 (a) セメント
 ・普通ポルトランドセメントとする。
 ・(b) 監理者と協議の上、中熟ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメントを使用しても良い。
 ・高炉セメントB種は、監理者と協議の上、下記の部位に限り使用しても良い。
 場所打ちコンクリート杭
 地中梁、フーチング、耐圧版、擁壁、土留め壁、削溝、ためます、水路
- (b) 混和剤
 ・所定の割合が得られるように、必要に応じて下記の混和剤を使用すること。
 AE減水剤(標準形、遅延形または促進形)
 高性能AE減水剤(標準形または遅延形)
- (4) 調査管理強度
 ・調査管理強度≧設計基準強度(Fc)+構造体強度補正值(S)
- (5) コンクリートの品質管理
 (a) 試験項目は、スランプ、空気量、単位容積質量(軽量コンクリートの場合)、温度、塩化物量とする。
 ・単位水量試験は、延べ面積1500m²以上の建築物または線路上空建築物の場合に行う。
 ・塩化物量の試験は、(財)国土開発技術研究センターの技術評価を受けた塩化物量測定器によること。
 ・なお、「塩化物量測定計カクタブ」(太平洋メテリアル)は「標準品」のみが技術評価を受けている。
 「低塩品」は技術評価を受けていないため、注意すること。
- (b) 強度試験
 ・供試体の養生方法、材令、1回の試験の個数及び試験回数は下表による。
 ・調査管理強度の管理試験用は、1台の運搬車の試料から同時に3個の供試体を作製し、1回の試験を行う。
 ・その他の試験用は、適切な間隔をあげた3台の運搬車からそれぞれ試料を採取し、必要な数の供試体を作製する。3台の運搬車から作製した供試体からそれぞれ1個ずつ取り出し、3個の供試体で1回の試験を行う。

試験の目的	養生方法	材令	個数/回	試験回数
調査管理強度の管理試験用	標準養生	28日		
構造体コンクリートの圧縮強度推定用	現場	28日及び28日を超え91日以内	3個/回	製造工場及びコンクリートの種類が異なるごとに1日1回以上、かつ、150m ³ ごと及びその隣数につき1回以上
	現場封かん養生	状況に応じて定める		
初期養生打切り時期決定用	現場かん養生	状況に応じて定める		
型枠の取外し時期決定用		必要に応じて定める		

- (c) 構造体コンクリート強度の推定試験の判定
 ・材令28日の圧縮強度試験の1回の試験結果が設計基準強度に0.7を乗じた値以上であり、かつ、材令28日を超え91日以内の圧縮強度試験の1回の試験結果が、設計基準強度に3N/mm²を加えた値以上であれば合格とする。
- (d) 寒中コンクリート
 ・日平均気温の年平均値が25℃を超える期間にコンクリートを打込む場合に適用する。
 ・構造体強度補正值(S)は、6.0N/mm²とする。
 ・有筋時のコンクリート強度は、原則として、35℃以下とする。
 ・コンクリートの練り混ぜから打込み終了までの時間は、90分以内とする。
- (e) マスコンクリート
 ・適用箇所は特記による。
 ・スランプは、15cm以下とする。
 ・荷卸し時のコンクリート温度は、35℃以下とする。
 ・構造体コンクリート強度の推定のための供試体の養生方法は、標準養生とする。
 ・構造体コンクリート強度の推定試験の判定は、材令28日の圧縮強度試験の1回の試験結果が、調査管理強度以上であれば合格とする。
- (f) 無筋コンクリート
 ・捨てコンクリート、機械室等で用いる配管埋設用コンクリートおよび防水層の保護コンクリートに適用する。
 ・設計基準強度は18N/mm²とし、スランプは15cmまたは18cmとする。
- (g) 流動化コンクリート
 ・適用は特記による。
 ・流動化コンクリートの材料、調査、流動化の方法、品質管理の方法等必要な事項を施工計画書に定め、監理者の承認を受けること。
- (h) 国土交通大臣の認定を受けたコンクリート
 ・設計基準強度が36N/mm²を超える高強度コンクリートに適用し、その要領は別途記載の「高強度コンクリート工事共通事項」による。

試験の目的	養生方法	材令	個数/回	試験回数
調査管理強度の管理試験用	標準養生	28日		
構造体コンクリートの圧縮強度推定用	現場	28日を超え91日以内	3個/回	製造工場及びコンクリートの種類が異なるごとに1日1回以上、かつ、150m ³ ごと及びその隣数につき1回以上
	現場かん養生	28日		
型枠の取外し時期決定用	現場かん養生	必要に応じて定める		

- (6) 試し練り
 ・製造工場1類コンクリートの場合には、監理者と協議の上、試し練りの種類を部分的に省略しても良い。
 ・ただし、下記に該当し、かつ、1類コンクリートの場合には、監理者と協議の上、試し練りを省略しても良い。
 ・なお、下記に該当し、かつ、4号建築物(階数1かつ延べ面積200㎡以下)相当規模の建築物の範囲

- (7) 既存コンクリート面の目直し既存部分の処理
 (a) 適用範囲
 ・既存コンクリートとの打継ぎ面
 ・既存コンクリートとモルタル又はグラウト材の充てん部の接合面
- (b) 目直し範囲
 ・柱・梁面・床面 打継ぎ面又は接合面全面の3/4以上
 ・壁面 打継ぎ面又は接合面全面の1/3程度
- (c) 目直しの程度
 ・平均深さ5~10mm(最大深さ10~15mm)程度の凹部を施す

- (8) 既存コンクリート面の目直し既存部分の処理
 (a) 設計図中で使用する記号は、表1.1、表1.2を標準とする。

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築		●	×	○	●	○	◎	⊗	◎

記号	説明	記号	説明
○	スラブの配筋種別	⊕	杭の位置
◇	スラブ厚さ	●	試験杭の位置
○	階段の配筋種別	▨	打増しの範囲
SO	土留コンクリート	⊗	スラブ開口
□	コンクリートブロック壁 (CB壁)	⊕	ポーリング位置
▨	梁・スラブの上り下り及び範囲	(土)	FLからの上り下り
EWO○ EKWO○	耐力壁の種類		

- (9) 型枠工事共通事項
 (1) 型枠材料
 (a) せき板の材料はコンクリート型枠用合板とし、厚さは12mmとする。
 (b) スラブのせき板の材料として床型枠用鋼製デッキプレートを使用する場合、その適用箇所は構造図による。なお、板面に関しての指定は、検討書を提出の上、監理者と協議して変更することができる。
 (c) その他のせき板の材料を使用する場合は、監理者の承認を得ること。
 なお、ラス型枠等、錆を生じる恐れのある材料は、配管ピット等には使用しない。
 (d) コンクリート用型枠を組み立てる時に設けるスリーブ(配管用等)は、次による。
 (i) 普通孔の径は、スリーブを取り外さない場合は、スリーブの内径寸法とする。
 (ii) スリーブに用いる材料(取り外さない場合)は、下記による。
 ・外壁の地中部分等水密を要する部分に用いるスリーブは、つば付き鋼管とする。
 ・つば付き鋼管: JIS G 3452の黒管に厚さ6mm、つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの
 ・地中部分で水密を要しない部分に用いるスリーブは、硬質ポリ塩化ビニル管とする。
 ・硬質ポリ塩化ビニル管: JIS K 6741(硬質ポリ塩化ビニル管)のVJ
 ・上記以外の閉形スリーブは、溶融亜鉛めっき鋼板とし、原則として、機型の両端を外側に折り曲げてつばを設ける。また、必要に応じて、円筒部を両側から差し込む伸縮形とする。
 ・スリーブの径は、径200mm以下 : 厚さ0.4mm以上
 径200mmを超え350mm以下 : 厚さ0.6mm以上
 ・硬質ポリ塩化ビニル管は、防火区画に使用しない。

- (2) 打ち増し、目地
 (a) 外部に面するコンクリート打直し仕上げの打ち増し厚さは20mmを標準とし、監理者と協議の上、施工図を作成して決定すること。
 (b) ひび割れ誘発目地の位置、形状および寸法は以下を標準とし、監理者と協議の上、施工図を作成して決定すること。但し、柱・梁・耐力壁等欠損させはならない。
 (i) 外部に面する壁 : 3.0mピッチ程度に、深さ20mm程度の目地を外側に設ける。
 (ii) 手すり、懸架 : パラペット等 : 3.0mピッチ程度に、深さ20mm程度の目地を高面に設ける。
 (c) 型枠架設時にコンクリートを使用する場合、20mmの打ち増しを標準とする。増し行とする場合は、コンクリートの欠損材料は下記の何れかとし、資料を提出して監理者の承認を得ること。
 (i) 対象部位のコンクリートと同層以上の強度を有するプレミックスタイプの無収縮モルタル
 (ii) 告示1372号第2項第1号に適合するポリマーセメントモルタルまたはエポキシ樹脂モルタル
- (3) 構造完全スリット
 ・スリット幅は、壁厚の1/10以上とする。
 ・構造完全スリットは、耐火性能を有する製品とする。
 ・掘止め筋(D10@400程度)は、防錆処理(錆止めまたはめっき)されたものを用いること。
 ・スリット材と鉄筋(掘止め筋を除く)は、かぶり厚さを確保すること。



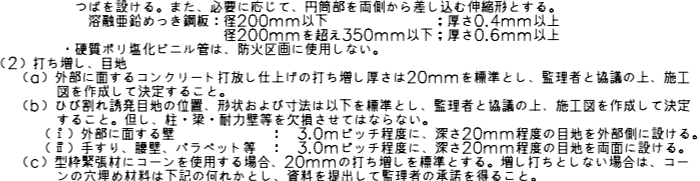
- (4) 型枠養生期間及び取外し
 せき板の最小養生期間
- | 施工箇所 | セメントの種類 | 基礎、梁、柱、壁 | | 中熟ポルトランドセメント/低熱ポルトランドセメント |
|-------------------|---------|----------------------------------|--------------|---------------------------|
| | | 早強ポルトランドセメント | 普通ポルトランドセメント | |
| コンクリートの材令による場合(日) | 15℃以上 | 2 | 3 | 5 |
| | 5℃以上 | 3 | 5 | 7 |
| | 0℃以上 | 5 | 8 | 10 |
| コンクリートの圧縮強度による場合 | | 圧縮強度が5N/mm ² 以上となるまで。 | | |
| 高強度コンクリートの場合 | | 圧縮強度が8N/mm ² 以上となるまで。 | | |



- (5) 型枠の最小養生期間
 ・型枠の取外し後は、型枠の最小養生期間を経た後に行う。
 ・型枠の最小養生期間は、上表よりコンクリートの材令又はコンクリートの圧縮強度により定める。寒冷のため強度の発現遅れると思われる場合は、圧縮強度により定める。
 ・なお、圧縮強度により定める場合は、コンクリートの圧縮強度試験結果(または圧縮強度の計算結果)及び安全を確認するための資料を監理者に提出し、承認を受ける。
 ・片持梁、ひさし、長大スパンの梁、大型スラブ等の型枠を支持する支柱、又は施工荷重が著しく大きい場合の支柱等は、必要に応じて、養生期間を延長する。
 ・スラブ下、梁下のせき板は、原則として、支柱を取り外したのちに取外す。
 ・なお、支柱の盛り替えは行わない。
 ・使用した底チューブは、型枠取り外し後に取り除く。

コンクリートの単位水量試験

- (1) 単位水量試験を行う対象は、延べ面積1500m²以上の建築物とし、部位は基礎(水中コンクリートを除く)、柱、梁、床、壁、階段等の構造耐力上主要な部分とする。
 軽量コンクリートの場合は、実施方法について監理者と協議のこと。
 (2) 試験は、コンクリートの種類ごとに行う。
 ただし、1日に打込むコンクリートが少量(概ね30m³未満)でJIS規格品の場合は、監理者と協議の上、試験を省略することができる。
 (3) 試験は、コンクリート打込み前1回行う。以降、1日の打設量が150m³を超えるごとに1回以上、および荷卸し時に品質の異状が認められた時に実施する。
 (4) 測定した単位水量が、管理目標値の範囲にある場合は、そのまま施工する。
 (5) 測定した単位水量が、管理目標値を超える場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、管理目標値以内で安定するまで、運搬車の3台ごとに1回、単位水量の測定を行う。
 (6) 測定した単位水量が、指示値を超える場合は、生コンを打込み前に持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、必要なら、その後の全運搬車の測定を行い、指示値以内であることを確認する。更に、管理目標値以内で安定するまで、運搬車の3台ごとに1回、単位水量の測定を行う。
 (7) 管理目標値以内で安定するまでとは、2回連続して管理目標値内の値を観測することをいう。
 (8) 管理目標値と指示値は以下による。
 ・管理目標値: 計画調査の設計値 ±15kg/m³
 ・指示値: 計画調査の設計値 ±20kg/m³



- (9) 例
 持ち運ぶ/改善指示 : -20 -15 : 計画調査の設計値 : +15 +20 : 改善指示/持ち運ぶ

- (10) 例
 持ち運ぶ/改善指示 : -20 -15 : 計画調査の設計値 : +15 +20 : 改善指示/持ち運ぶ

- (11) 例
 持ち運ぶ/改善指示 : -20 -15 : 計画調査の設計値 : +15 +20 : 改善指示/持ち運ぶ

- (12) 例
 持ち運ぶ/改善指示 : -20 -15 : 計画調査の設計値 : +15 +20 : 改善指示/持ち運ぶ

- (13) 例
 持ち運ぶ/改善指示 : -20 -15 : 計画調査の設計値 : +15 +20 : 改善指示/持ち運ぶ

- (14) 例
 持ち運ぶ/改善指示 : -20 -15 : 計画調査の設計値 : +15 +20 : 改善指示/持ち運ぶ

- (15) 例
 持ち運ぶ/改善指示 : -20 -15 : 計画調査の設計値 : +15 +20 : 改善指示/持ち運ぶ

- (16) 例
 持ち運ぶ/改善指示 : -20 -15 : 計画調査の設計値 : +15 +20 : 改善指示/持ち運ぶ

- (17) 例
 持ち運ぶ/改善指示 : -20 -15 : 計画調査の設計値 : +15 +20 : 改善指示/持ち運ぶ

あと施工アンカー工事共通事項

- (1) あと施工アンカーは接着系アンカーとし、原則として回転・打撃型のケーブル方式アンカーとする。
 接着系アンカーに使用する接着剤は、セメント系、モルタル系、セメントモルタル系とし、日本建築業と施工アンカー協会において検証された製品とする。ただし、適用範囲を一部超えてもよい。
 あと施工アンカー施工前に鉄筋探査を行い、位置調整を行うこと。
 (2) あと施工アンカーに使用するボルト、鉄筋は以下による。

全ねじボルト	M10	M12	M16	M20	M22	M24	M30	M36
材 質	SS400	SS400	SS400	SS400	SS400	SS400	SS400	SS400
有効断面積	mm ²	59	85	151	236	285	339	530
設計用引張強度	kN	9.22	13.3	23.6	36.9	44.6	53.7	83.0
穿孔径	d1	mm	12	14.5	19	24	32	40
穿孔深さ	L	mm	90	100	130	200	250	300
はしあき	5d1以上	mm	60	73	95	120	140	160
覆層	5d1以上	mm	60	73	95	120	140	160
異形棒鋼	D10	D13	D16	D19	D22	D25		
材 質	SD295A	SD295A	SD295A	SD345	SD345	SD345		
有効断面積	mm ²	71	127	199	287	387	507	
設計用引張強度	kN	13.8	24.8	38.8	61.7	83.2	109	
穿孔径	d1	mm	13	16	20	26	30	
穿孔深さ	L	mm	90	100	130	200	250	
はしあき	5d1以上	mm	65	80	100	130	150	
覆層	5d1以上	mm	65	80	100	130	150	

- ・設計用引張強度は、鋼材の長期許容引張力を示している。
 ・穿孔径以下の項目は、「デンカクイックアップセル」の仕様を元に記載している。実施に当たっては、採用する工法の内容を確認の上、施工すること。
 ・何れの工法を採用する場合も、設計用引張強度が得られるよう、施工試験等により埋込み長さを決定すること。
 (3) 引抜き耐力確認試験
 ・引抜き耐力の確認試験は、引張試験機による引張試験とする。
 ・試験箇所数は、径、施工技術者、施工部位ごとに、同一施工条件のあと施工アンカーを1ロットとし、1ロット当たり5本とする。
 ・引張試験機は、設計用引張強度に等しい荷重を試験荷重とし、過大な変位を起こさずに耐えられるものを合格とし、すべての試験箇所が合格すれば、そのロットを合格とする。
 ・1箇所でも不合格のものがあつた場合には、更に、そのロット全数の20%を抜き取り、試験箇所の全数が合格すれば、ロットを合格とし、1箇所でも不合格のものがあつた場合には、全数について引張試験を行う。
 ・不合格になつたものは、切断等の処置を行って新たに施工し、更に、引張試験を行う。
 (4) あと施工アンカーの施工技術者は、日本建築業と施工アンカー協会に資格保有者とする。

技術者の種類	施工可能範囲		耐力試験	耐力試験報告書	アンカーの選択	母材判定	施工計画施工図作成
	ねじボルト	異形棒鋼					
第2種施工士	M12以下	D13以下	△	×	×	×	×
第2種施工士	M20以下	D19以下	△	×	×	×	×
第1種施工士	制限なし	制限なし	○	○	○	○	○
技術管理士			○	○	○	○	○
主任技士	制限なし	制限なし	○	○	○	○	○

- ・△: 上位資格保有者(1種、技管、主任)の立会い指示の下、耐力試験の支援作業は可能。

屋根ふき材等の緊結および建築設備の構造強度

- 屋根ふき材等の緊結および建築設備の構造強度について、下記事項を確認の上、施工を行うこと。
 (1) 屋根ふき材等の緊結(建築基準法施行令第39条)
 (a) 屋根ふき材
 ・屋根ふき材は、荷重又は外力により、脱落又は浮き上がりを起こさないよう、たるき、梁、けた、野地板その他これらに類する構造材に取り付けること。
 ・屋根ふき材及び緊結金物その他これらに類するものは、腐食又は腐朽するおそれがある場合には、有効なさび止め又は防錆のための措置を講ずること。
 ・腐蝕又は腐蝕及びけずれは、かつ、2枚取りまで1枚ごとに、その他の部分のうちむねむねに於いては1枚おきごとに、鋼線、鉄線、くぎ等で下地に緊結し、又はこれと同層以上の効力を有する方法でがれ落ちないようにふくこと。

- (b) 外装材
 ・建築物の屋外に面する部分に取り付ける飾石、張り石その他これらに類するものは、ボルト、かすがい、鋼線その他金物で転柱、壁、柱又は構造耐力上主要な部分に緊結すること。
 ・建築物の屋外に面する部分に取り付けるタイルその他これらに類するものは、鋼線、くぎその他の金物又はモルタルその他接着剤で下地に緊結すること。
 (c) 地盤を除く階段が3以上である建築物の屋外に面する機壁
 ・機壁及びその支持構造部分は、荷重又は外力により脱落することのないよう構造耐力上主要な部分に取り付けること。
 ・プレキャストコンクリート版を使用する機壁は、その上部又は下部の支持構造部分において可動すること。
 ・鉄網メタルラスのメタルラスは、JIS A5524、JIS A5504又はJIS A5505にそれぞれ適合するか、又はこれらと同層以上の性能を有することとし、かつ、間柱又は間柱その他の下地材に緊結すること。
 ・機壁として窓にガラス入りのはめこり戸(納入ガラス入りのものを除く。)を設ける場合にあつては、硬化性のシーリング材を使用しないこと。ただし、ガラスの落下による危害を防止するための措置が講じられている場合にあつては、この限りでない。
 ・高さ31mを超える建築物(高さ31m以下の部分で高さ31mを超える部分の構造耐力上の影響を受けない部分を除く。)の屋外に面する機壁は、その高さの150分の1の層間変位に対して脱落しないこと。

- (2) 建築設備の構造強度(建築基準法施行令第129条の2の3 第二項及び第三項)
 (a) 建築設備の構造耐力上安全な構造方法
 ・建築設備(昇降機を除く)、建築設備の支持構造及び緊結部分で腐食又は腐朽のおそれがあるものには、有効なさび止め又は防錆のための措置を講ずること。
 ・壁土から突出する水櫃、煙突、冷気格納その他これらに類するものは、支持構造又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部分、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
 ・煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支持を設けたものを除き、900mm以下とすること。
 ・煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを50mm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが250mm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
 ・建築物に設ける給水、排水その他配管設備(建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備を除く)は、次に定める構造とすること。
 ・風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全な支障のない構造とすること。
 ・建築物の部分を通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
 ・煙突その他の管形物より当該管に損傷を生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
 ・管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は摩擦ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
 ・給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全な支障のない構造とすること。

- (b) 壁から突出する水櫃、煙突等の構造計算の基準
 ・建築基準法第20条第一号から第三号までに掲げる建築物に設ける屋上から突出する水櫃、煙突その他これらに類するものにあつては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものであることを確かめること。

工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事		
図面名	構造関係共通事項		
作成日	令和 6年 3月		
縮尺	A1 S= - (A3 S= -)	図面番号	S-02 / 12
会社名	株式会社JR東日本建築設計		
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課		

1. 一般事項

- 適用範囲
本標準配筋要領は、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造等の鉄筋工事に適用する。
- 基本要項
(a) 鉄筋工事に用いる材料は、所定のものであること。
(b) 組み立てられた鉄筋は、所定の形状および寸法を有し、所定の位置に保持されていること。また、鉄筋の表面は、所要の状態であること。
(c) 鉄筋の継手および定着部は、作用する力を伝達できるものであること。
- 配筋検査
主要な配筋は、コンクリート打込み前に先立ち、種類、径、数量、かぶり、間隔、位置等について、監理者の検査を受ける。
- 設計図書の特記事項
設計図書に相違がある場合の特記事項は、特記仕様書による。
特記仕様書に記載されている「設計図」の中での優先順位は、下記による。
1. 設計図：伏図、軸組図、リスト、詳細図、等
2. 設計図：鉄筋コンクリート造標準配筋要領図、鉄骨造標準要領図、等

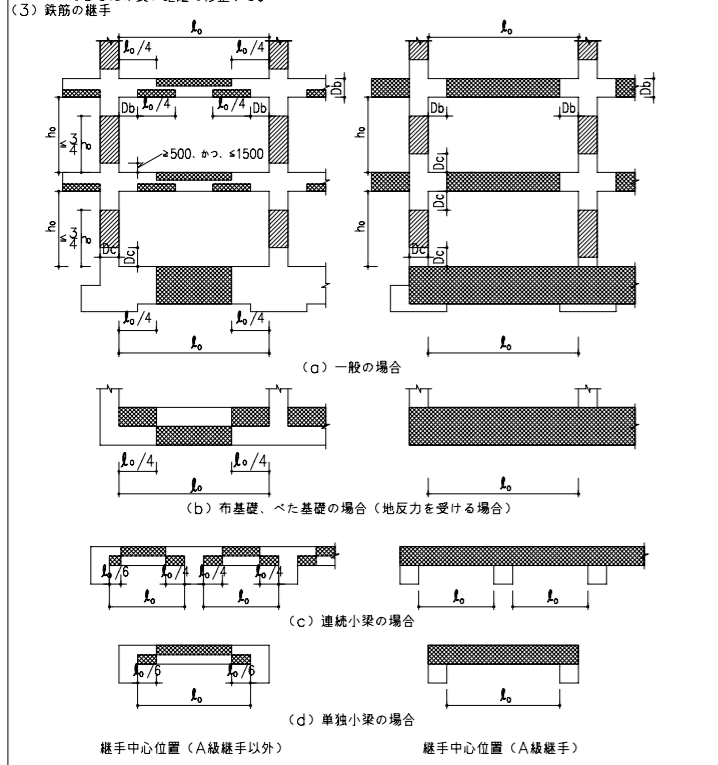
2. 加工および組立

- 加工
(a) 鉄筋の切断は、シャークッター等によって行う。ただし、現場でやむを得ない場合は、ガス切断とすることができる。
(b) 次の部分に使用する異形鉄筋の本端部には、フックを付ける。
・柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合および最上階の柱頭にある場合
・梁主筋の重ね継手が、梁の出隅および下階の両端にある場合（基礎梁を除く。）
・橋脚の鉄筋（壁の一部となる場合を含む。）
・杭基礎のベース筋
・帯筋、あばら筋および幅止め筋
(c) 鉄筋の折曲げ形状および寸法

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径 (D)			
		SD295A、SD295B、SD345 D16以下	SD390 D19~D41	SD490 D19~D41	SD490 D29~D41
180°					
135°		3d以上	4d以上	5d以上	6d以上
90°		3d以上			
135° 及び 90° (幅止め筋)					

- (注) 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は、90°に準じる。

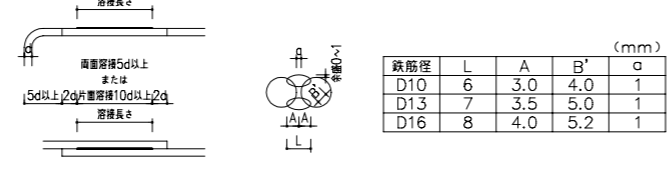
- 組立
(a) 鉄筋の組立は、鉄筋継手部分および交差部の要部を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、吊金物等を使用して行う。
なお、スペーサーは、転倒および作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは、原則として鋼製とする。かぶりコンクリート部分に設置される鋼製スペーサーや段取り筋等は、防錆処理（錆止めまたはめっき）されたものを用いること。
(b) 前に打ち込まれたコンクリートから出ている鉄筋の位置を修正する場合は、鉄筋を急に曲げることなく、できるだけ長い距離で修正する。



- 重ね継手
・D10~D16に適用する。
・耐圧版、地下外壁、耐力壁、フカン筋等で監理者が認めた場合、D19~D25にも適用する。
・重ね継手長さは、L1またはL1hとする。
- ガス圧接継手
・D19~D35に適用する。
・圧接技術者は、JIS Z 3881による有資格者とする。
・鉄筋の切断には、鉄筋冷間直角切断機を使用すること。
・自動ガス圧接とする場合、SD490を圧接する場合、またはA級継手として用いる場合は、施工前試験を行うこと。
・外観検査は、全数検査とする。
・抜取試験は、引張試験（5本/ロット）または超音波探傷試験（30箇所/ロット）とする。
・但し、D29以上またはSD390以上の鉄筋を超音波探傷試験とする場合は、圧接技術者ごとに、最初の3ロットは引張試験（5本/ロット、超音波探傷試験を行った中から抜取り）を併用すること。
- 溶接（フレア溶接）継手
・監理者が認めた場合、D10~D16に適用する。
・溶接は、アーク手溶接または半自動溶接とし、溶接材料は以下による。

鉄筋の種類	被覆アーク溶接棒 JIS Z 3211	ソリッドワイヤ JIS Z 3312
SD295A	E4316、E4916等	YGW11、YGW12、YGW15
SD345	E4916、E5516等	YGW16、YGW18、YGW19等
SD390	E5516、E5716等	YGW18、YGW19等

- ・溶接技術者は、JIS Z 3801またはJIS Z 3841による有資格者とする。
・溶接技術者ごとに、事前にサンプルを作成して溶接条件を定めること。作成したサンプルの監理者による外観検査に合格した場合、採用することができる。



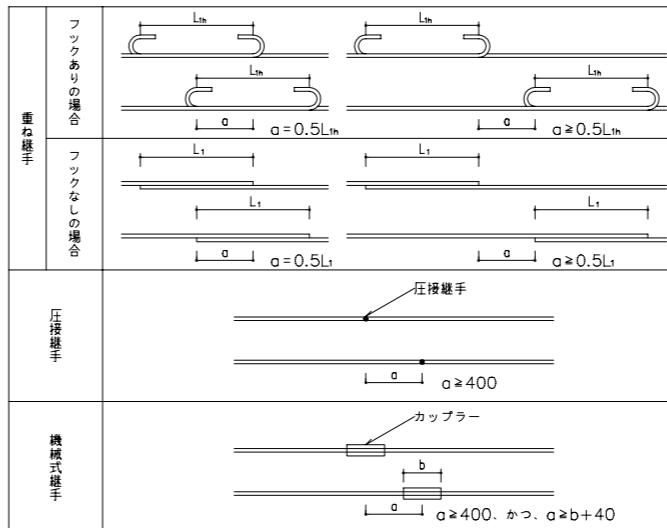
- 溶接（エンクローズ溶接）継手
・監理者が認めた場合、向き溶接のD19~D41に適用する。
・（財）日本建築センターなどにおいて、認定または評定を取得している工法（NKE工法、KEN-SH工法、SB工法、CBI工法、NT工法等）とすること。
・施工前試験を行うこと。
・外観検査は、全数検査とする。
・抜取試験は、超音波探傷試験（30箇所/ロット）とする。
・但し、溶接技術者ごとに、最初の3ロットは引張試験（5本/ロット、超音波探傷試験を行った中から抜取り）を併用すること。
・その他、各工法の施工要領に則ること。
- 機械式継手
・USD590、USD685、および監理者が認めた場合、D10~D41に適用する。
・（財）日本建築センターなどにおいて、A級継手の性能を満足する認定または評定を取得している工法とすること。
・機械式継手作業資格者は、使用する機械式継手メーカーの技術講習を受け、作業資格者として認められた者とする。
・施工前試験を行うこと。
・ただし、機械式継手工法、材料および施工条件などと照らして監理者が不要と判断した場合は、施工前試験を省略することができる。
・外観検査は、全数検査とする。
・ねじ鉄筋継手、モルタル充填継手、鋼管圧着継手の場合は、抜取検査を行う。抜取検査は超音波測定検査（10箇所/ロット）とする。
・その他、各工法の施工要領に則ること。

(4) 鉄筋の重ね継手長さ、定着長さ、投影定着長さ

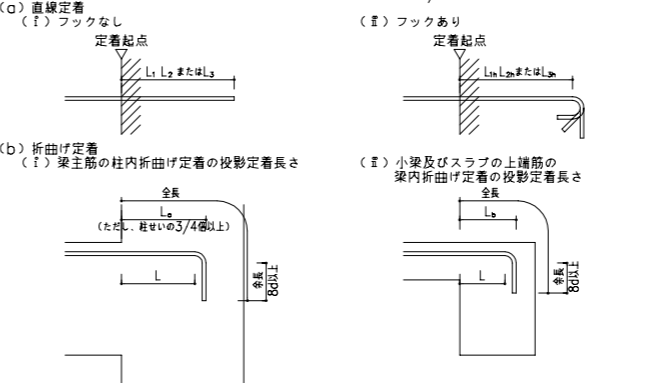
鉄筋の種類	Fc (N/mm ²)	重ね継手の長さ (L1)				フックあり重ね継手の長さ (Ln)				投影定着長さ	
		直線定着の長さ (L1, L2, L3)				フックあり定着の長さ (Ln1, Ln2, Ln3)				Lo	Lb
		L1	L2	小梁 スラブ		Ln	Ln	小梁 スラブ			
SD295A	18	45d	40d		35d	30d			20d	15d	
SD295B	24~27	35d	30d		25d	20d			15d	15d	
SD345	30~36	35d	30d		25d	20d			15d	15d	
SD390	39~45	30d	25d		20d	15d			15d	15d	
SD490	48~60	30d	25d		20d	15d			15d	15d	

- L1, Ln: 重ね継手の長さおよびフックあり重ね継手の長さ
2. L2, Ln: 割れ破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さおよびフックあり定着の長さ
3. L3: 小梁およびスラブの下層筋の直線定着の長さ
ただし、基礎耐圧スラブおよびこれを受ける小梁を除く。
なお、片持ち小梁および片持ちスラブの場合は、20dおよび10dを25d以上とする。
4. Ln: 小梁の下層筋のフックあり定着の長さ
5. Lo: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
6. Lb: 小梁およびスラブの上層筋の梁内折曲げ定着長さの投影定着長さ
7. フックあり重ね継手の場合のLn1, Ln2, Ln3は、フック部分を含まない。
また、中間部での折曲げは行わない。
8. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。
9. 許容応力設計、許容応力低等計算、その他構造計算を要さない小規模建築物の場合は、以下による。（軽量コンクリートの場合は10dを加えたものとする。）
・主筋および耐力壁の鉄筋の重ね継手の最小長さは40dとする。
・柱に取り付ける引張りの鉄筋の定着最小長さは40dとする。
10. 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

- 隣り合う継手の位置は以下による。ただし、壁およびスラブ筋でD16以下の場合を除く。
なお、先組み工法等で柱、梁の主筋の継手を同一箇所には、A級継手とする。

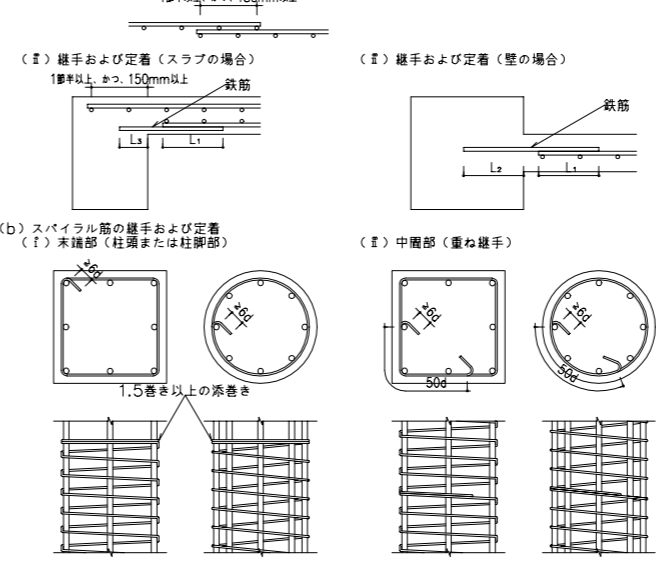


- 定着の方法
仕口内に按に折曲げて定着する鉄筋の定着長さsが(4)のフックあり定着の長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法は、以下をすべて満足する。
・全長は、(4)の直線定着の長さ以上とする。
・余長は8d以上とする。
・仕口から鉄筋外面までの投影定着長さsおよびLbは、(4)に示す長さとする。
ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。



- 機械式定着工法
機械式定着工法は、第三者機関による技術評価等を受けた工法で監理者が認めた場合使用することができる。この場合、適用範囲や定着長さ等は、評価内容によること。

- その他の鉄筋の継手および定着



- 鉄筋および溶接金線のかぶり厚さ
鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

構造部分の種類	かぶり厚さ (mm)			
	最小	設計 (加工)		
土に接しない部分	スラブ	屋内 仕上げあり	20	30
		屋内 仕上げなし	20	30
	耐力壁以外の壁	屋内 仕上げあり	20	30
		屋内 仕上げなし	30	40
	柱	屋内 仕上げあり	30	40
		屋内 仕上げなし	30	40
耐力梁	屋内 仕上げあり	30	40	
	屋内 仕上げなし	40	50	
土に接する部分	擁壁、耐圧スラブ	40	50	
	柱、梁、スラブ、壁	40 (50)	50 (60)	
土に接する部分	基礎、擁壁、耐圧スラブ	60 (70)	70 (80)	
	煙突等高温を受ける部分	60	70	

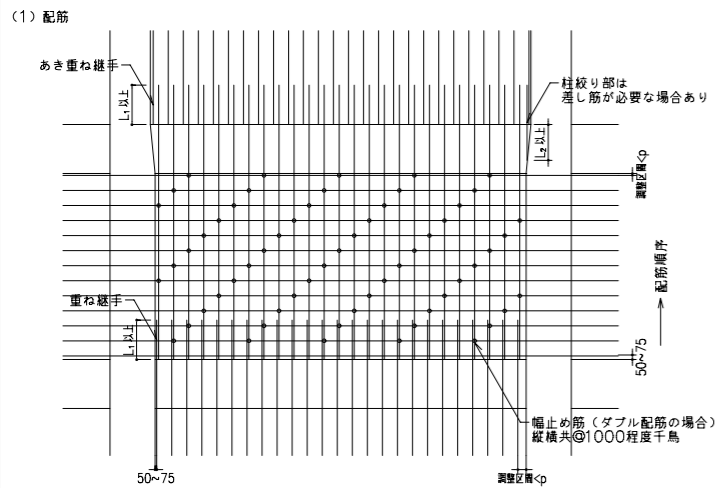
- (注) 1. 柱および梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するよう最小かぶり厚さを定める。
2. () 内の数値は、軽量コンクリートに適用する。
3. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上げ塗料、塗装等）のものを除く。
4. スラブ、梁、基礎および擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、給コンクリートの厚さを含まない。
5. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
6. 塩害を受ける恐れのある部分等、耐久性上不利な箇所は、設計者の指示による。

鉄骨相互のあき	間隔	間隔		
		粗骨材寸法	20mm	25mm
(a) 粗骨材の最大寸法の1.25倍		D10	36	43
(b) 25mm		D13	39	46
(c) 隣り合う鉄筋の平均径の1.5倍		D16	43	50
(d) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(g)による。		D19	50	53
(e) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、(8)による。		D22	58	58
(f) あと施工アンカー		D25	66	66
(g) 構造耐力上主要な部分には使用しない。		D29	77	77
(h) 仮設等で使用するときは、モルタル系アンカー（デンカクイック等）とする。		D32	84	84
(i) 仮設等で使用するときは、モルタル系アンカー（デンカクイック等）とする。		D35	93	93
(j) 仮設等で使用するときは、モルタル系アンカー（デンカクイック等）とする。		D38	100	100
(k) 仮設等で使用するときは、モルタル系アンカー（デンカクイック等）とする。		D41	108	108

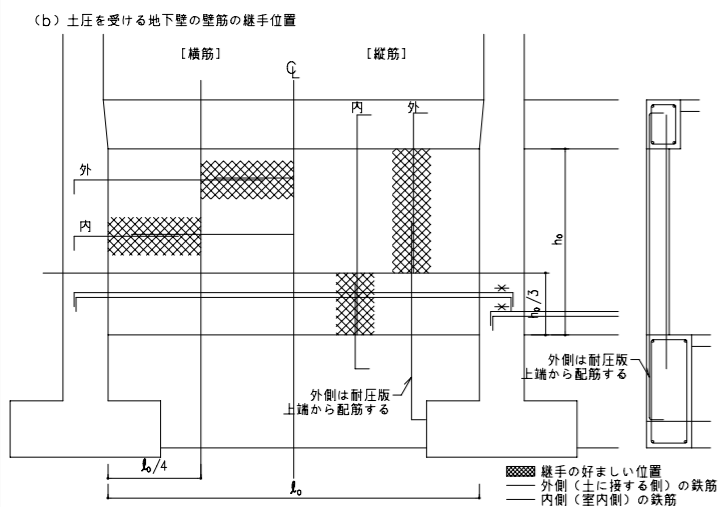
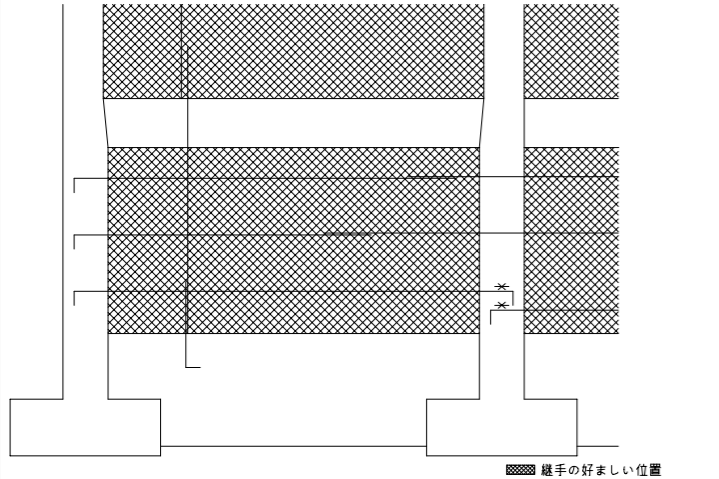
- 避雷針は、構造鉄筋には接続しないこと。

工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事
図面名	RC配筋要領図 (1)
作成日	令和 6年 3月
縮尺	A1 S= - A3 S= -) 図面番号 S-03 / 12
会社名	株式会社JR東日本建築設計
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課

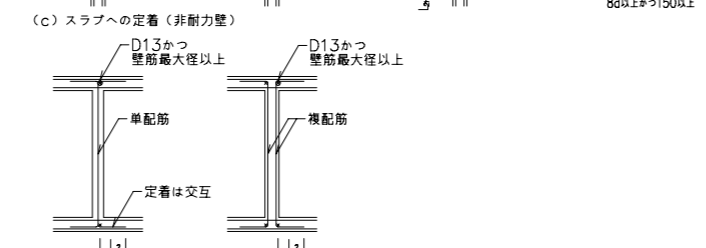
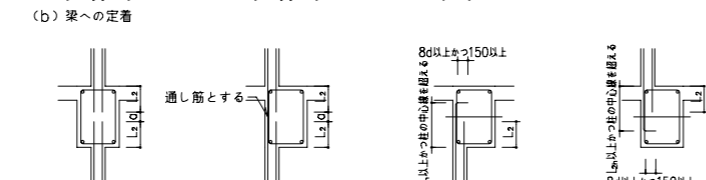
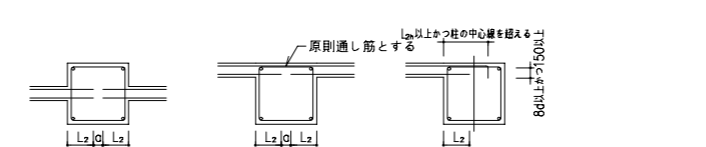
8. 壁



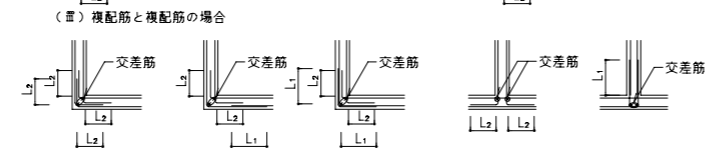
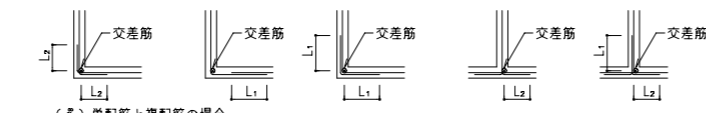
- (2) 壁筋の継手位置
- 原則として、梁、柱の中に壁筋の継手を設けないこと。
 - 横筋を1スパンごとに柱に定着させてもよいが、柱と同一面に壁がある場合には、外側の鉄筋は直線定着長さが確保できる場合でも先端を90°に折り曲げ、150mm以上を柱内に飲み込ませる。(※)
- (c) 壁筋の継手位置



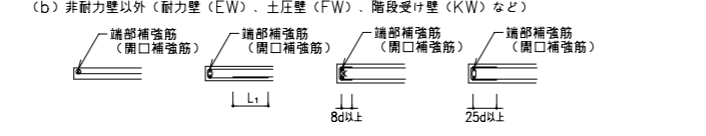
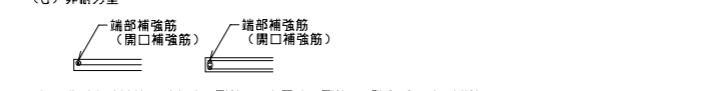
- (3) 定着
- (c) 柱への定着



- (d) 壁交差部の定着
- 交差筋: D13以上かつ壁筋最大径以上
- (f) 単配筋の場合

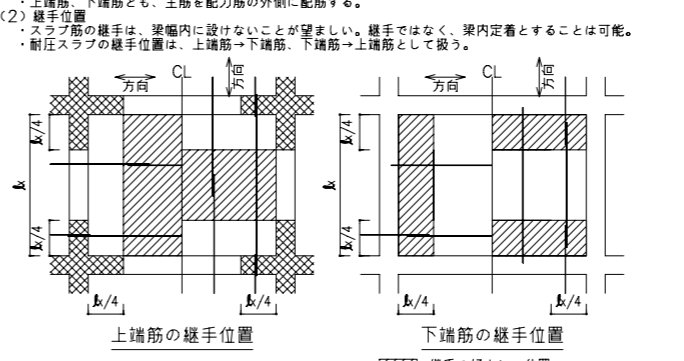


- (4) 壁端部納まり
- 端部補強筋(開口補強筋)の径、本数は設計図による。
- (a) 非耐力壁

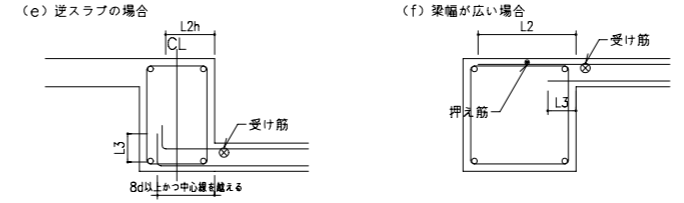
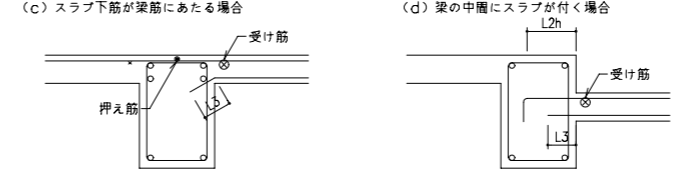
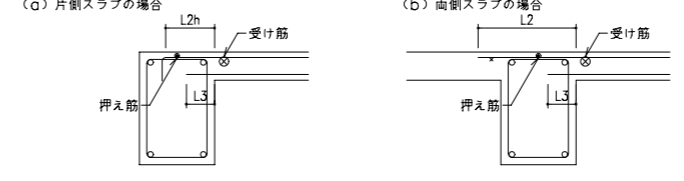


9. スラブ

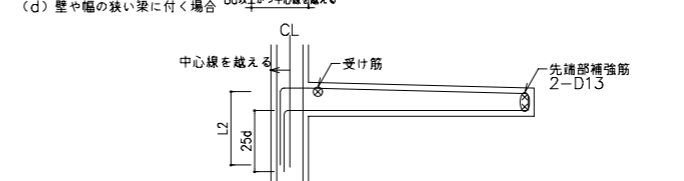
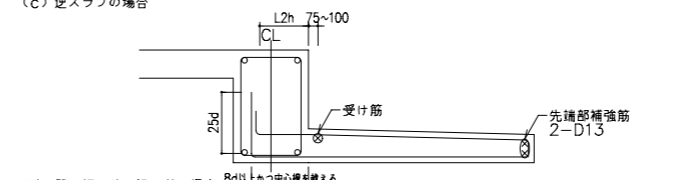
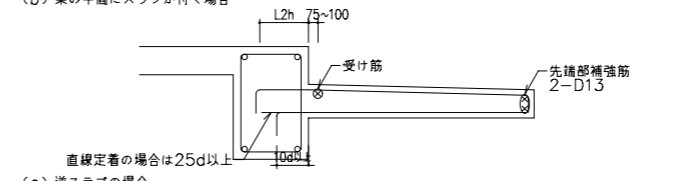
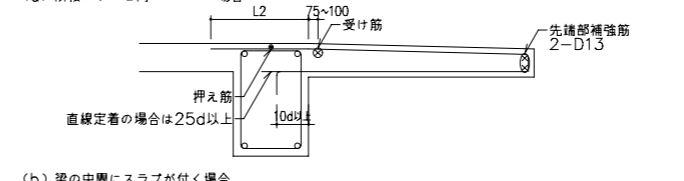
- (1) 配筋
- 配筋の割付は中央から行い、端部は規定の間隔以下とする。
 - 鉄筋の重ね継手長さは、L1とする。
 - 特記なき限り、スラブの主筋方向は個々のスラブの短辺方向とする。
 - 上端筋、下端筋とも、主筋を配筋筋の外側に配筋する。
- (2) 継手位置
- スラブ筋の継手は、梁幅内に設けないことが望ましい。継手ではなく、梁内定着とすることは可能。
 - 耐圧スラブの継手位置は、上端筋→下端筋、下端筋→上端筋として扱う。



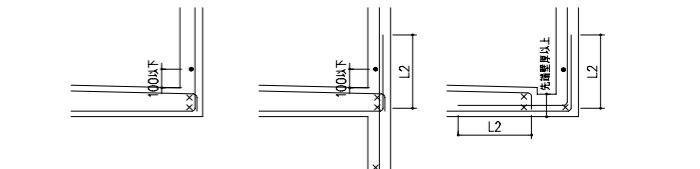
- (3) 定着
- 受け筋は、1-D13以上かつスラブ筋の最大径以上とする。
 - スラブ筋の乱れ防止のため、押え筋1-D10を配筋する。
- (a) 片側スラブの場合



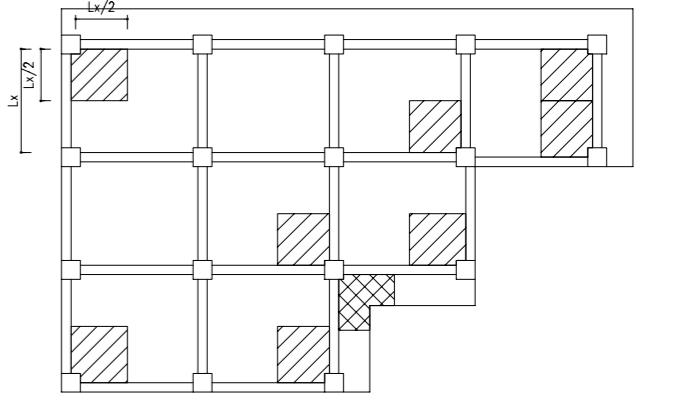
- (4) 片持ちスラブ
- 受け筋は、1-D13以上かつスラブ筋の最大径以上とする。
 - 上端主筋の先端折り曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
 - 隣接スラブと同一レベルの場合



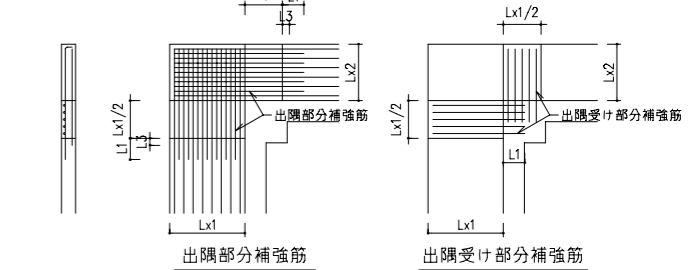
- (e) 先端部に荷重が作用する場合の納まり例



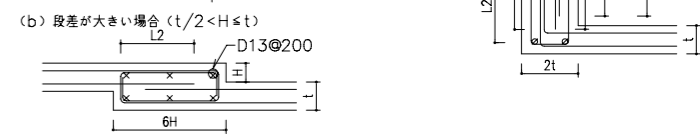
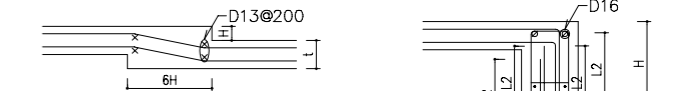
- (5) 屋根スラブの出隅入隅部
- 出隅、入隅部分のスラブは、上端筋の間隔が@100以下となるようにスラブ筋と同径筋により補強する。範囲はLx/2以上(Lx:短辺有効スパン長さ)かつ1500以上とする。
 - 入隅部分の片持ちスラブは、上記と同様に補強する。出隅部分は(6)による。範囲はLx/2以上(Lx:片持ち長さ)とする。
 - 補強筋は、梁内へ所定の定着(定着長さL2)を行う。



- (6) 片持ちスラブの出隅部
- Lx/2とする。
 - 出隅受け部分補強筋の径は、片持ちスラブ主筋の1サイズアップとし、所定の上端筋の間に5本配筋する。



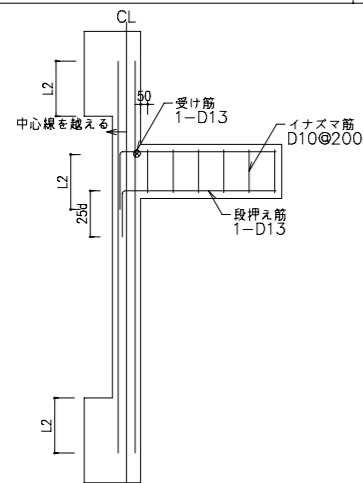
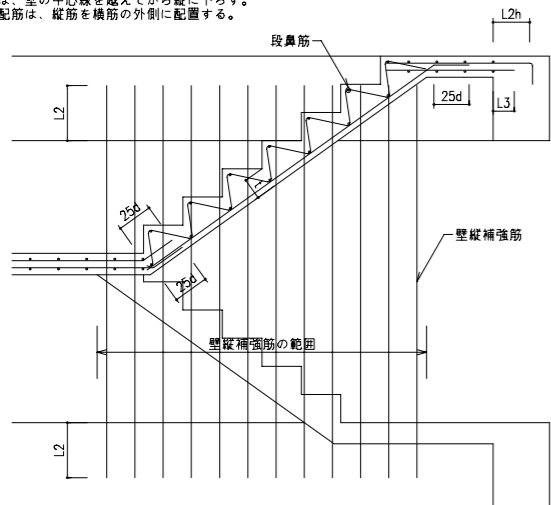
- (7) スラブ段差
- (a) 段差が小さい場合 (H ≤ t/2)



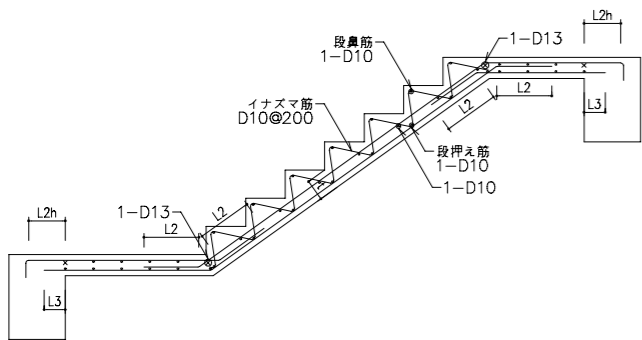
工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事
図面名	RC配筋要領図 (2)
作成日	令和 6年 3月
縮尺	A1 S= - A3 S= -) 図面番号 S-04 / 12
会社名	株式会社JR東日本建築設計
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課

10. 階段

- (1) 片持ち階段と受け壁
 ・スラブ厚さ、階段主筋（段鼻筋）の径、本数は、設計図による。
 ・階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
 ・受け壁の配筋は、縦筋を横筋の外側に配置する。

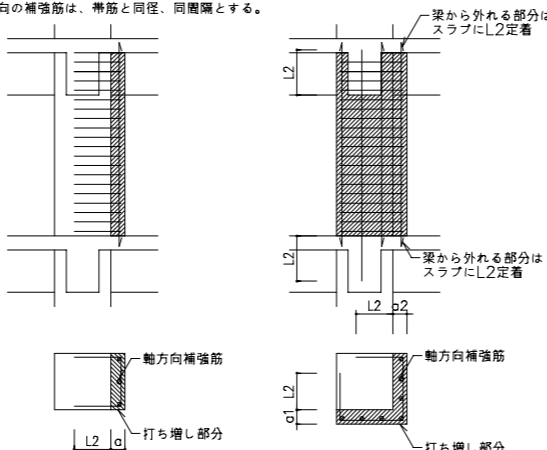


- (2) スラブ階段
 ・スラブ厚さ、階段主筋の径、本数は、設計図による。

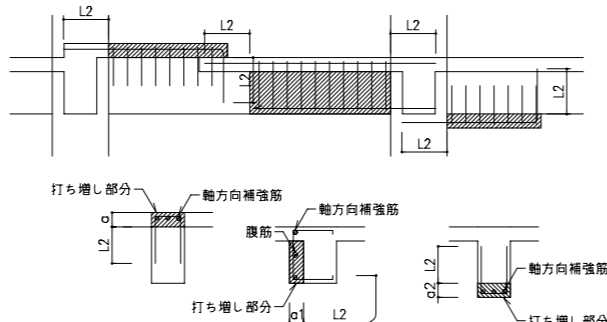


11. 打ち増し補強

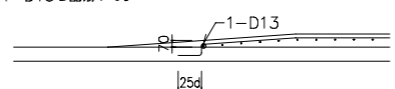
- (1) 柱打ち増し補強
 ・柱の打ち増し幅（a, a1, a2）が70mm以上の場合に適用する。
 ・但し、耐力壁、土圧壁が取り付く場合は、監理者の指示による。
 ・軸方向補強筋は、D16@300程度とし、端部は梁またはスラブにL2定着とする。
 ・帯筋と同一方向の補強筋は、帯筋と同径、同間隔とする。



- (2) 梁打ち増し補強
 ・梁の打ち増し幅（a, a1, a2）が70mm以上の場合に適用する。
 ・但し、耐力壁、土圧壁、前圧スラブ等が取り付く場合は、監理者の指示による。
 ・軸方向補強筋は、D16@200程度とし、端部は柱または梁にL2定着とする。
 ・あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同径、同間隔とする。
 ・梁と同様に帯筋を配筋する。

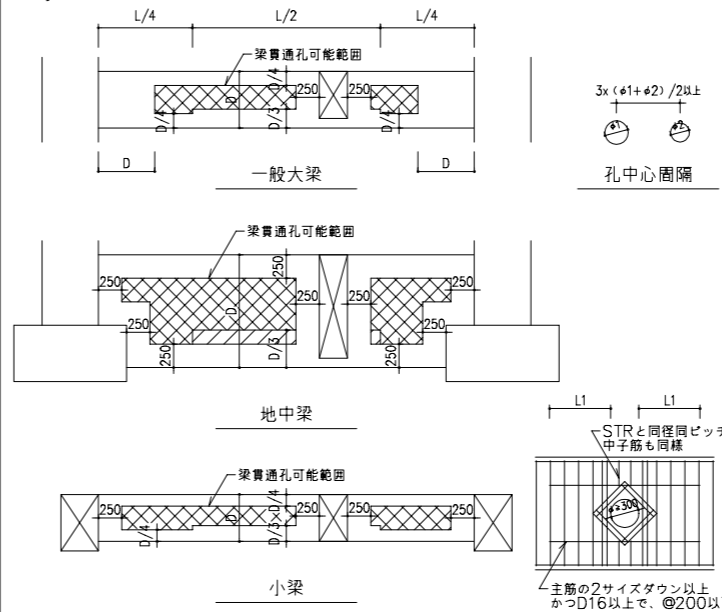


- (3) 壁、スラブの打ち増し補強
 ・壁、スラブの打ち増し厚さが70mm以上の場合に適用する。
 ・打ち増し補強筋は、タテヨコ共D10@200Sとし、端部定着長は25dとする。
 ・折り曲げ部には、1-D13を配筋する。

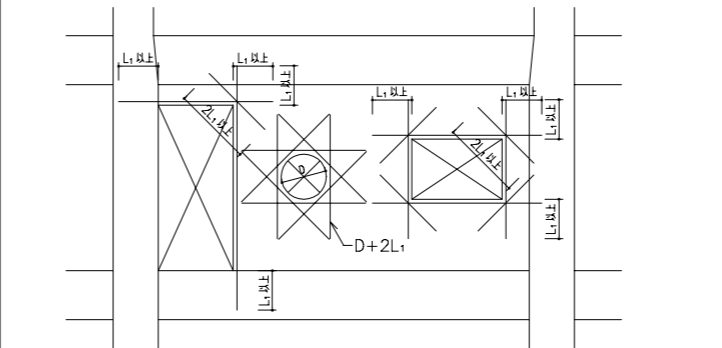


12. 開口補強

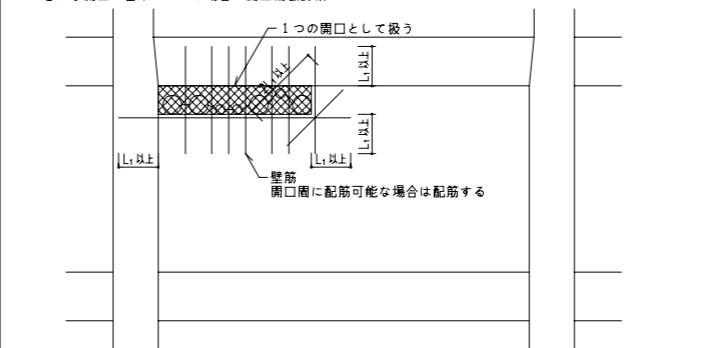
- (1) 梁開口補強
 (a) 梁貫通孔補強には、(財)日本建築センターなどにおいて評価を取得した既製品を使用する。
 例：ダイヤレンS、MAXウェブレン、など
 採用する工法の資料（計算書含む）を監理者に提出し、承諾を得ること。
 (b) 設計条件は以下による。
 無孔梁のせん断耐力式
 ・荒川min式（係数0.053）
 ・荒川mean式（係数0.068）
 ・その他
 ・考慮しない
 ・考慮する
 My計算時スラブ筋の考慮
 (c) 孔径は梁せい（D）の1/3以下かつφ700以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円を孔径とする。孔径はスラブの外径とする。
 (d) 孔の上下方向の位置は、梁せいの中心付近とし、梁中央部下端は、梁下端から1/3Dの範囲に孔を設けてはならない。
 ただし、基礎梁で孔径が梁せいの1/10以下の場合には、この限りではない。
 なお、配筋図等により、鉄筋、鉄骨、梁貫通補強筋のかり厚さが確保できることを確認すること。特に、多段筋に注意すること。
 (e) 孔中心位置は、柱間から梁せい以上離す。
 直交する梁（小梁含む）がある場合は、原則として梁（小梁）面から250以上とする。
 (f) 孔が水平方向に並列する場合の孔中心間隔は、孔径の平均値の3倍以上とする。
 鉛直方向の並列は、苗孔を包絡する外接円を1つの孔径とする。
 (g) 孔径がφ300以上の場合は、孔の上下に補強筋を配筋すること。
 軸方向補強筋：主筋の2サイズダウン以上かつD16以上で、φ200以下
 中子筋の本数も考慮すること。
 せん断補強筋：STRと同径同ピッチ。中子筋も同様。
 (h) 孔径が梁せいの1/10以下、かつ150mm未満のものは、補強を省略できる。
 (i) その他、採用する工法の評価内容によること。
 (j) 梁貫通孔の径および位置は、意匠設計図、設備設計図（電気設備設計図含む）による。



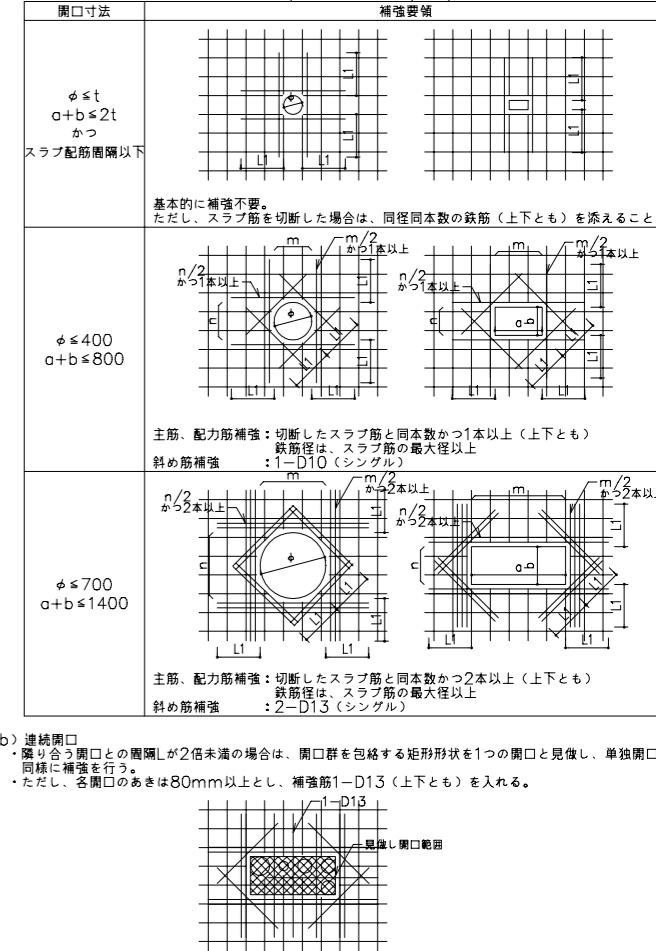
- (2) 壁開口補強要領
 ・非耐力壁には、補強要領に則り開口を設けることができる。
 ・非耐力壁以外（耐力壁（EW）、土圧壁（FW）、階段受け壁（KW）など）には、設計図に記載ある開口以外には設けてはならない。ただし、小開口（開口幅比0.05以下、0.0025H+L）については、監理者と協議の上、開口を設けることができる。
 ・開口補強筋の径、本数は設計図による。
 ・構造スリットがある場合、開口補強筋は構造スリットの手前までとする。
 (a) 単独開口補強要領



- (b) 小開口が密集している場合の開口補強要領

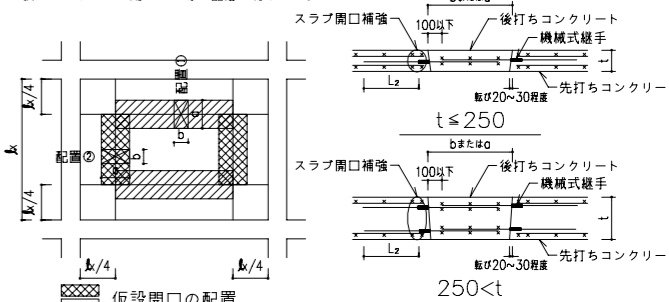


- (3) スラブ開口補強
 (a) 単独開口
 ・単独開口の補強要領は下表による。
 ・φは円形開口の直径、aおよびbは矩形開口の長辺および短辺、tはスラブ厚さを示す。
 ・下表を上回る開口の場合は、監理者と協議の上、小梁等により補強を行うこと。
 ・単独開口とは、隣り合う開口との間隔Lが2倍以上かつ200以上で、補強筋が配筋できる場合とする。
 円形開口：L≧max(2x(φ+φ2)/2, 200)
 矩形開口：L≧max(2x((a1+b1)/2+(a2+b2)/2)/2, 200)



- (b) 連続開口
 ・隣り合う開口との間隔Lが2倍未満の場合は、開口群を包絡する矩形形状を1つの開口と見做し、単独開口と同様に補強を行う。
 ・ただし、各開口のあきは80mm以上とし、補強筋1-D13（上下とも）を入れる。

- (c) デッキ合成スラブの場合
 ・デッキ合成スラブには、原則としてスラブ開口は設けないこと。
 ・天井インサートについてもハンガー金具等を使用し、デッキには原則として孔を設けないこと。
 ・開口が必要な場合は、周囲を小梁で補強し、当該部分をフラットデッキに置き換えた上でスラブ開口を設けることを原則とする。この場合、開口周囲のデッキ合成スラブに耐火補強が必要になることがあるので注意すること。
 (d) 仮設開口
 ・仮設開口を設けることができるのは、1スラブにつき1箇所とする。
 ・ただし、打ち直し仕上げのスラブ、直仕上げのスラブ、重量物を積載するスラブは除く。
 ・仮設開口の大きさは、長辺長さをa、短辺長さをbとしたとき、a+b≦1400とする。
 ・仮設開口の長辺方向を、スラブの短辺長さ（Lx）方向に合わせることを原則とする（配置①）。
 ・止むを得ない場合は、逆方向の配置も可とする（配置②）。
 ・仮設開口の長辺方向の中心（O/2）をlx/4に概ね合わせて配置する。この際、近接する本設スラブ開口と連続開口にならないよう注意すること。
 ・スラブの仕切り型枠には、20~30mm程度の「転び」を設けること。（aおよびbは広口側で測る。）
 ・スラブには開口補強を施す。
 ・先打ちコンクリートとの一体性確保のため、機械式継手（A級評定取得済み工法、例：リレージョイント、FDグリップ等）を用いた配筋を行う。先打ちコンクリート内へはL2定着、後打ちコンクリート内へは先達が対辺から100mm以下になる長さとする。
 ・スラブ厚さが250mm超の場合：スラブ上端筋と同径同ピッチの配筋をスラブ中央付近にシングル配筋
 ・スラブ厚さが250mm以下の場合：スラブ筋と同径同ピッチのダブル配筋



工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事
図面名	RC配筋要領図 (3)
作成日	令和 6年 3月
縮尺	A1 S= - (A3 S= -) 図面番号 S-05 / 12
会社名	株式会社JR東日本建築設計
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課

鉄骨工事共通事項

- 鉄骨製作工場
 - 鉄骨製作工場の加工能力等および施工管理技術者の適用は、特記仕様書による。
 - 日H製作工場とは、日H製作工場は鋼材等の種類に応じた認定工場（S、H、M、R、AAA、AA、A）とする。仮組溶接は、日H製作工場の認定範囲の施工を遵守すること。
 - 海外の鉄骨製作工場を選定する場合、使用鋼材、品質管理、運搬、不具合が日本国内で発生した場合の対応方法、実績等に関する詳細な資料を監理者に提出し、書類審査を受けること。その後視察を行い、採用可否を判断すること。
- 柱脚周りの使用材料
 - 設計図に「建て方用アンカーボルト」と記載されている監理者が認めた場合、あと施工アンカー（モルタル系アンカー）を使用することができる。
 - 柱底均しモルタルは、無収縮モルタルとする。テツガンゴ等を使用の場合は、安全について十分検討し、監理者の承諾を得ること。
 - 無収縮モルタルは、材令28日において45N/mm²以上の強度が得られるプレミックスタイプのもを使用すること。
 - 国土交通大臣認定品や評定工法を使用する場合の材料の組合せ（露出柱脚工法の無収縮モルタル等）は、それぞれの要領に従うこと。
- 試験、検査
 - 材料試験
 - JIS規格品または国土交通大臣認定品の製品証明書（規格品証明書または原品証明書）を添付し、材料試験および溶接性試験は行わない。
 - 技量付加試験、性能確認試験等
 - (イ) 以下に該当する場合、溶接面のすべり係数試験を行う。
 - 発錆促進剤を用いる場合。
 - 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合で、りん酸塩処理またはその他特別な処理とする場合。
 - 上記いずれの場合も、直近5年以内に行ったすべり係数試験の結果があり、その時の条件（鉄骨加工工場、溶融亜鉛めっき処理、使用薬剤、高力ボルトの種類等）と同じ条件で施工する場合は、監理者と協議の上、すべり係数試験を省略することができる。（性能確認試験）
 - (ロ) トルシヤ形高力ボルトの導入張力確認試験を行う。但し、下記に該当する場合は、監理者と協議の上、ミルシートの提出および高力ボルトの保管状況を確認することで、試験を省略することができる。
 - 4号建築物（階数1かつ延べ面積200㎡以下）相当規模の建築物の範囲
 - (三) 完全溶け込み溶接部の溶接技術者および溶接作業者（オペレーター）に対する技量付加試験の要否は特記による。但し、国土交通大臣の認定を受けた溶接方法の範囲を超えて溶接を行う場合、特記によらず技量付加試験を実施すること。
 - なお、特記において技量付加試験が適用の場合でも、下記に該当する場合は試験を免除する。
 - 工場溶接において、鋼製エンドタブを用いた完全溶け込み溶接を行う場合。
 - 工場溶接において、代替エンドタブを用いた完全溶け込み溶接をAW検定（代替エンドタブ）合格者が行う場合。
 - 工事現場溶接において、完全溶け込み溶接をAW検定（溶接条件に合わせて、鋼製エンドタブまたは代替エンドタブ）合格者が行う場合。
 - 工事現場溶接の柱継手で、下記に該当する場合。
 - 4号建築物（階数1かつ延べ面積200㎡以下）相当規模の建築物の範囲
 - (ハ) 行政との施工計画打合せ時、上記についてしり合わせを行うこと。
 - (ニ) 下記に該当する完全溶け込み溶接を行う場合、性能確認試験を行う。
 - 国土交通大臣の認定を受けた溶接方法の範囲を超えて溶接を行う場合。
 - 520N/mm²以上の鋼材を、工事現場溶接する場合。
 - 上記いずれの場合も、直近5年以内に行った試験の結果があり、その時と同条件（鋼材組合せ（板厚、メーカー含む）、溶接材、溶接条件等）で施工する場合は、監理者と協議の上、試験を省略することができる。
 - (ホ) 行政との施工計画打合せ時、上記についてしり合わせを行うこと。
 - (ヘ) テッキプレートを通させてスタッド溶接を行う場合は、事前に引張試験、曲げ試験、マクロ試験を行って溶接部の健全性が確保できる施工条件を定める。
 - ただし、直近5年以内に行った試験の結果があり、その時の条件（鋼材組合せ、テッキプレート板厚、テッキプレートメーカー、施工技術者等）と同じ条件で施工する場合は、監理者と協議の上、試験を省略することができる。
 - (ニ) 溶接組立箱断面柱のサブマージアーク溶接、エレクトロスラグ溶接の試験は、「溶接組立箱断面柱標準要領図」による。
 - (ハ) 施工者（セネコン）の技術系部署が試験計画のバックアップを行い、(三) (ハ) (ニ) (ヘ) (ニ) については試験立会いを行うこと。
 - (ニ) 試験に伴う監理者の費用（書類確認、試験立会い等の人工）は、原則として施工者（セネコン）負担とする。
 - 柱底均しモルタル
 - 無収縮モルタルの試験は、最初の施工時、1m³ごとおよびその積数につき1回以上行う。
 - 品質および試験方法は以下による。
 - ブリーディング 凝縮後2時間後のブリーディング率：2.0%以下
 - 無収縮性 材令3日：収縮しない
 - 強度 材令3日：25N/mm²以上 材令28日：45N/mm²以上
 - 試験方法 日本道路公団規格「JIS 312-1999（無収縮モルタル品質管理試験方法）」による。
 - (社) 公共建築協会「建築材料・設備材料等品質性能評価事業」または(財) ベタリーピング「公共住宅用資機材品質性能評価事業」において評価を取得した無収縮モルタルを使用する場合は、監理者と協議の上、上記試験を省略することができる。
- 製品検査等
 - 方法精度検査
 - 社内検査は、100%実施する。
 - 受入検査は、学会「鉄骨精度測定指針」にある「書類検査1」「対物検査2」とする。
 - 溶接部の表面欠陥および精度の検査
 - 検査対象は、溶接部のすべて（完全溶け込み、部分溶け込み、隅肉溶接、スタッド溶接等）とする。
 - 検査項目および検査の判定は以下による。
 - 告示46号および告示47号（仕様の規定）による。
 - JASS6付則6付表3（告示項目とスタッド溶接を除く）の限界許容値に準拠すること。
 - 検査方法は目視検査とし、目視で基準を逸脱していると思われる箇所に対してのみ適正な器具で測定する。
 - 社内検査は、100%実施する。検査対象には、仮設材、金物等の溶接を含む。
 - 完全溶け込み溶接部については、受入検査（第三者機関）を100%実施すること。
 - その他の溶接部については、受入検査は抜き取り（輪組図に記載されている部材（大梁中央部、小梁、圍柱等含む）の検査数は抜き取り10%）により実施する。ロットの合否判定はJASS6に準じる。仮設材、金物等の溶接は、母材に欠陥（アンダーカット、アークストライク等）が生じていないことを確認すること。実施者は施工者（セネコン）とするが、実施困難な場合は第三者機関に委託すること。
 - 完全溶け込み溶接部の内部欠陥の検査
 - 検査対象は、完全溶け込み溶接部のすべてとする。
 - 検査方法は、超音波探傷検査とする。
 - 工場溶接の場合
 - 社内検査は、100%実施する。
 - 受入検査（第三者機関）は、AOQL4.0%、第6水準とする。但し、特記仕様書の記載を優先する。
 - 工事現場溶接の場合
 - 第三者機関による検査を、100%実施する。
 - スタッド溶接部の検査
 - 打撃曲げ検査は、抜取検査とする。
 - 母材および材輪部のアンダーカットの有無を、全数について確認する。
 - 仕上がり高さおよび傾きの検査は、抜取検査とする。
 - その他
 - 原則として、原寸検査は行わない。
 - 原則として、中間検査を行う。
 - 時期は大組立が終了した段階とするが、詳細は監理者と協議の上決定する。この際、テブ合わせも行う。
 - 原則として、塗装検査以外の検査終了後塗装を行う。
 - 検査に伴う経路が現場から片道100kmを超える場合、その交通費等は原則として施工者（セネコン）負担とする。
- 工作等
 - ダイヤフラム
 - 通しダイヤフラム形式の場合
 - ダイヤフラムの板厚は、接続する梁の最大フランジ厚の2サイズアップ以上かつ柱の板厚以上とする。
 - ダイヤフラムの材質は、接続する柱梁の最大強度以上のC材（t>40の場合はTMCP鋼）とする。
 - ダイヤフラムの出の長さは、接続する柱の板厚が28mm未満の場合25mm、それを超える場合は30mmとする。
 - 内ダイヤフラム形式の場合
 - ダイヤフラムの板厚は、接続する梁の最大フランジ厚の1サイズアップ以上とする。
 - ダイヤフラムの材質は、接続する梁の最大強度以上のB材（t>40の場合はTMCP鋼）とする。
 - 上記は、詳細図に記載がある場合は詳細図を優先する。
 - スカラップ
 - 原則として、ノンスカラップ工法とする。但し、特記仕様書の記載を優先する。
 - 冷間成形角形鋼管（鋼管を含む）
 - 冷間成形角形鋼管の継手は、切断した管同士の手（向きを含む）になるように工作を行うこと。
 - 継手位置、箇所数
 - 柱および梁の継手位置は、監理者と協議の上、変更することができる。
 - 柱の継手箇所数は、監理者と協議の上、変更することができる。
 - ボルトの孔径（d：公称孔径）
 - ボルトの孔径
 - d+0.5mm以下
 - 高力ボルトの孔径
 - d+2.0mm以下（d<27mmの場合）
 - d+3.0mm以下（d≥27mmの場合）
 - アンカーボルトの孔径
 - d+5mm以下 ただし、評定工法の場合は、評定内容による。
- デッキ合流スラブ
 - 合流スラブ工法
 - 合流スラブ工法に所属するメーカーの構法とする。
 - 国土交通大臣の耐火構造認定を取得した構法とする。
 - 合流スラブ構造方法の妥当性について、日本建築センターで評定を取得した構法とする。
 - デッキプレートの小口ふさはぎは、クローザーを用いることを原則とする。

使用鋼材

- 電炉材
 - 電炉材を使用する場合の適用部位は下記による。
 - 鋼管部材（塑性加工及び熱間成形）への適用は不可とする。
 - 大入熱溶接（サブマージアーク溶接、エレクトロスラグ溶接）を用いる溶接組立部材への適用は不可とする。
- | 適用 | 適用部位 |
|----|---|
| ○ | 二次部材（小梁、片持梁、圍柱、二次部材取付材） |
| ○ | 大梁中央材、スプラインプレート、一般形鋼プレース及び取付材 |
| ○ | 完全溶け込み溶接部を有する構造重要部位（大梁端部材、H形柱、ダイヤフラム、H形プレース及び取付材） |
- 電炉材の種類、板厚および板幅は下記による。
- | 鋼材の種類 | 種類の記号 | 板厚 | 板幅 |
|--------|----------------------|-------------------------|-------------------------|
| 電炉広幅平鋼 | SS400 | 40mm以下 | 500mm以下 |
| | SN400A/B
SN490B | | |
| 電炉鋼板 | SS400 | 40mm以下 | 製造者製造可能寸法 |
| | SN400B/C
SN490B/C | | |
| 電炉H形鋼 | SS400 | JIS G 3192
製造者製造可能寸法 | JIS G 3192
製造者製造可能寸法 |
| | SN400A/B
SN490B | | |
- 電炉材を完全溶け込み溶接部を有する構造重要部位に使用する場合にJIS規格（JIS G 3101,3136）に加えて下記に示す適用欄に○がある化学組成および機械的性質を満足すること。
- 構造重要部位に使用する電炉材の化学組成（%）
- | 鋼材の種類 | 種類の記号 | 硫黄 S | 銅 Cu | クロム Cr | スズ Sn |
|--------|--------|----------|-------|--------|--------|
| 電炉広幅平鋼 | SS400 | ○ ≤0.015 | - | - | - |
| | SN400B | - | ≤0.40 | ≤0.25 | ≤0.040 |
| 電炉鋼板 | SN400C | - | ≤0.40 | ≤0.25 | ≤0.040 |
| | SN490C | ○ ≤0.013 | ≤0.40 | ≤0.25 | ≤0.040 |
| 電炉H形鋼 | SN490C | ○ ≤0.013 | ≤0.40 | ≤0.25 | ≤0.040 |
| | SN490C | ○ ≤0.013 | ≤0.40 | ≤0.25 | ≤0.040 |
- 構造重要部位に使用する電炉材機械的性質
- | 機械的性質 | SN400B | SN400C | SN490B | SN490C |
|------------------------------------|--------|--------|--------|--------|
| 適用 | | | ○ | ○ |
| シャルピー吸収エネルギー E ₀ (J/cm) | ≥70 | ≥70 | ≥70 | ≥70 |
- 海外鋼材（溶接材料、ファスナーを含む）
 - 海外鋼材を使用する場合は、品質、実績等に関する資料を監理者に提出し、承諾を得ること。
 - その他
 - 指定された鋼材より上位材で監理者が認めた場合は、その材料を使用することができる。
 - 例 SS400を、SN400A、SN400B、SN400Cに変更することは可能。
 - SM490Aを、SN490B、SN490Cに変更することは可能。
 - 監理者が認めた場合は、ロールH形鋼をビルトアップH形鋼に変更することができる。
 - 国土交通大臣認定品や評定工法を使用する場合の材料の組合せ（鋼材と溶接材料等）は、それぞれの要領に従うこと。

溶融亜鉛めっき工法

- 溶融亜鉛めっき
 - 溶融亜鉛めっき作業は、原則として、JIS H 8641（溶融亜鉛めっき）によるJISマーク表示認証工場で行う。
 - 形鋼および鋼板類の亜鉛めっき付着量は、HDZ55（550g/m²±めっき膜厚76μm）とする。ただし、最小板厚が6mm未満の鋼材については、HDZ45（板厚3.2mm以上）またはHDZ35（板厚1.6mm以上）とする。
 - 高力六角ボルトはHDZ55とする。普通ボルト、ナット類およびアンカーボルト類はHDZ35とする。
- 部材の形状
 - 閉鎖形断面部材のダイヤフラムやエンドプレートには開口を設ける。開口部面積の合計は、閉鎖形断面の断面積に対して1/3以上確保する。開口はφ35以上を標準とする。
 - フランジ ウェブ、リブ、ステフナなどで三面が囲まれる隅角部には、リブ、ステフナなどにスカラップ加工または孔明け加工を施す。スカラップはR40以上、孔はφ35以上を標準とする。
 - せいがD>600mmとなる溶接組立H形断面部材には、ウェブの変形を防止するステフナを設ける。ステフナはPL-9とし、ピッチは1.0D~1.5D程度とする。
- 溶接要領
 - 完全溶け込み溶接は、裏取りを併用した両面溶接とし、柱梁接合部にはスカラップを設けず、円形孔を梁ウェブに加工する。
 - すみ肉溶接は、全周溶接とする。
 - めっきを施す部材の溶接は、めっき前に行うことを原則とする。
 - めっき後に溶接を行う場合、めっき前に開先から100mm程度の範囲に耐熱耐蝕性塗料を塗布する方法によるめっき処置を施し、めっき後に開先面を十分に清掃して溶接し、溶接後に防錆塗装または亜鉛溶射を行う。
 - めっき前に溶接部の超音波探傷検査を行うことを原則とする。止むを得ずめっき後に超音波検査を行う場合は、対比試験片などを用いて適切な探傷条件を選定すること。
 - めっきを施す部材のカスシールドアーク溶接では、フラックス入りワイヤーを使用すること。

鉄骨工事補足

- 既存現場溶接部は、塗装・さび等の不純物を除去して行うこと。
- 既存部材切断箇所等の溶接面は、溶接に悪影響を及ぼさない程度にサンダーかけ仕上げを行う。
- 上記施工後、溶接部をグラインダー等により突起部を無くし、さび止め塗装・仕上げ塗装を行う。さび止め塗料はA種JIS K-5625等による。
- 現場既存取合い箇所は、現況を実測等の確認の上、作図・製作すること。
- 現況調査の結果、図面と異なる場合は監督者に報告し対策を協議すること。

普通ボルト・高力ボルトの孔径、縁端距離、間隔

呼び	普通ボルト		高力ボルト		縁端距離 e			間隔 p	
	記号	孔径φ	一般φ	めつφ	(1)	(2)	(3)	標準	最小
M12	*	12.5	*	14	30	22	18	40	30
M16	*	16.5	*	18	40	28	22	40	30
M20	*	20.5	*	22	50	34	26	40	30
M22	*	22.5	*	24	55	38	28	40	30
M24	*	24.5	*	26	60	44	32	45	30

- 引張材の接合部において、応力方向にボルトが3本以上並ばない場合。
- せん断縁、自動ガス切断縁、のこ引き縁、機械仕上げ縁。
- 庄延縁、自動ガス切断縁、のこ引き縁、機械仕上げ縁。
* 母座、鋼縁類の取付用ボルトの場合は、ボルト径+1.0mmとすることができる。

普通ボルト・高力ボルトの形鋼ゲージ

AorB	g1	g2	最大孔径	B	g1	g2	最大孔径	B	g3	最大孔径
40	22	10	100	100	56	16	40	24	10	
45	25	12	125	125	75	16	50	30	12	
50	28	16	150	150	90	22	65	35	20	
60	35	16	175	105	105	22	70	40	20	
65	35	20	200	120		24	75	40	22	
70	40	20	250	150		24	80	45	22	
75	40	22	300	150	40	24	90	50	24	
80	45	22	350	140	70	24	100	55	24	
90	50	24	400	140	90	24				
100	55									
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

* B=300は千鳥打ちとする。

普通ボルト・高力ボルトの千鳥打ちのゲージと間隔

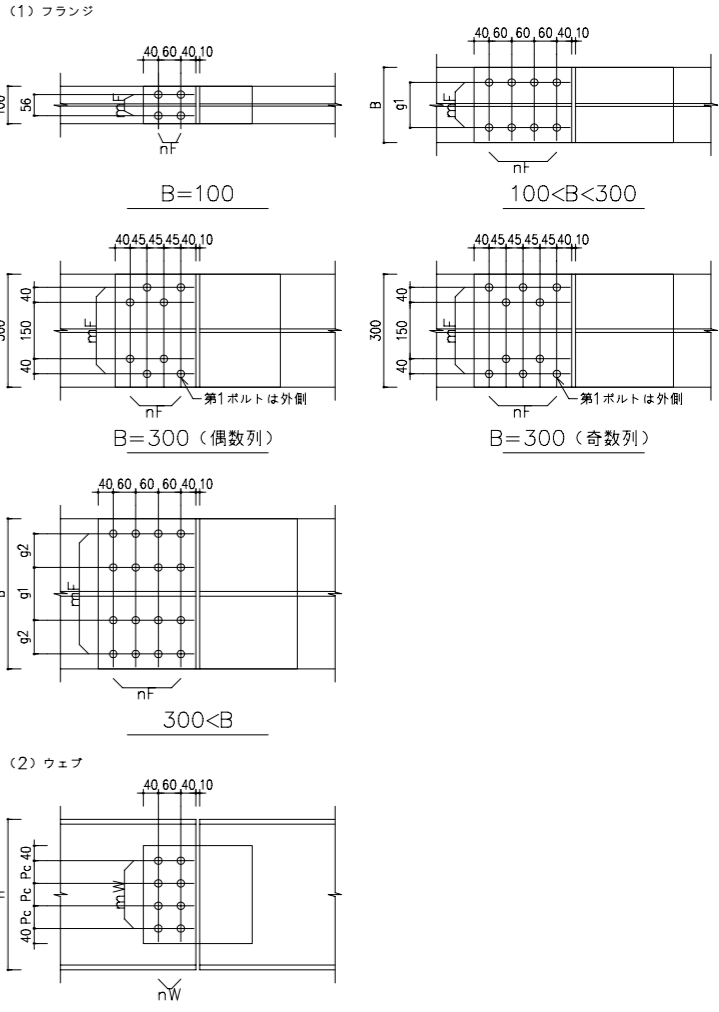
ゲージ	b
g	M12,M16,M20,M22
5	M24
35	65
40	60
45	55
50	50
55	45
60	40
65	35
70	30

普通ボルトおよびナットの材料等

規格番号（規格名称）	ボルト		ナット	
	JIS B 1180（六角ボルト）	JIS B 1181（六角ナット）	JIS B 1180（六角ボルト）	JIS B 1181（六角ナット）
種類	並形六角ボルト		並形六角ナット	
材料区分	鋼製		鋼製	
強度区分	4.6 または 4.8		5T	
ねじの公差域クラスおよび適用の規格	6g		6H	
仕上げの程度	中		中	

- ボルトには、有効な戻り止めを行う。

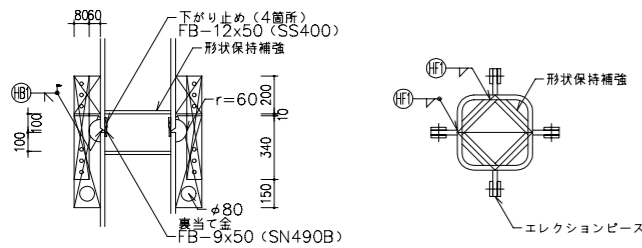
H形鋼継手の高力ボルト配置図



工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事
図面名	S要領図 (1)
作成日	令和 6年 3月
縮尺	A1 S= - / (A3 S= -) 図面番号 S-06 / 12
会社名	株式会社JR東日本建築設計
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課

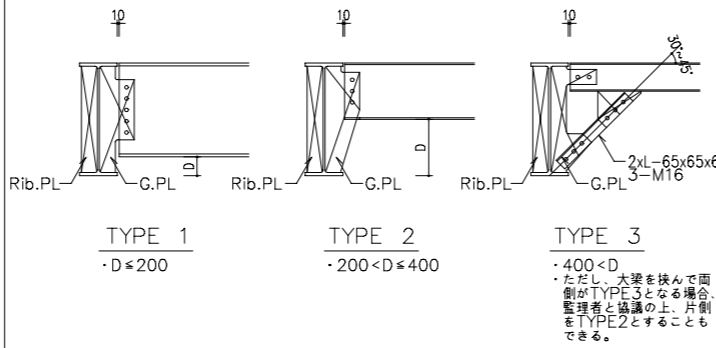
柱現場継手要領

- ・形状保持補強：FBをダイヤ形状に組み立てる。
 板厚：柱板厚の1/2以上かつ6mm以上。
 板幅：柱板厚の2倍以上かつ40mm以上。
 材質：SS400
- ・エレクションピースは、施工者にて検討のこと（下記は参考値）。
 G.PL：板厚は柱板厚と同厚以上、幅は140mm。
 S.PL：板厚は柱板厚の1/2以上、幅は80mm。
 材質：SS400
 H.T.B：3-M20、F10T
- ・エレクションピースは、現場溶接完了後切断の上、グラインダー仕上げを基本とする。
 ・溶接先防錆剤は、クリンワルドH相当品とする。



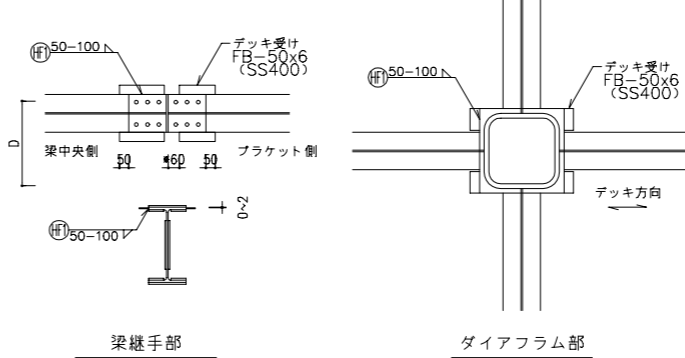
小梁仕口要領

- ・リブプレートは、ガセットプレートの1サイズダウンかつ6mm以上、同材質とする。



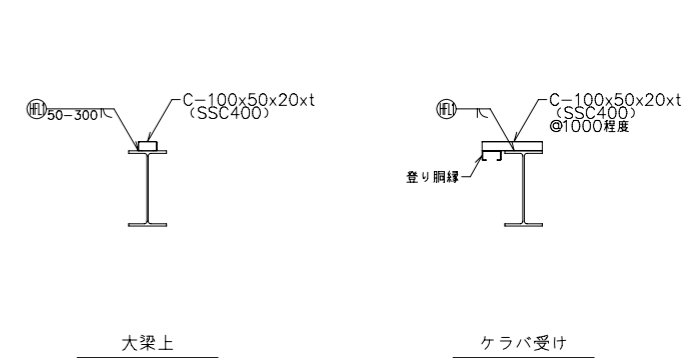
デッキスラブ納まり要領

- ・デッキ合成スラブの場合は、デッキ受けをFB-65x6 (SS400) とする。
 この場合、■寸法は75mmとする。

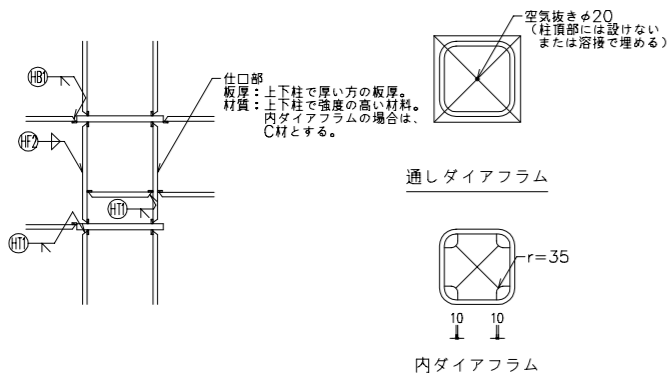


タイトフレーム受け要領

- タイトフレーム受けの板厚tは、2.3mm以上かつタイトフレームの板厚以上とする。

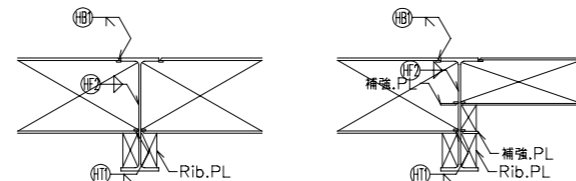


柱梁仕口要領

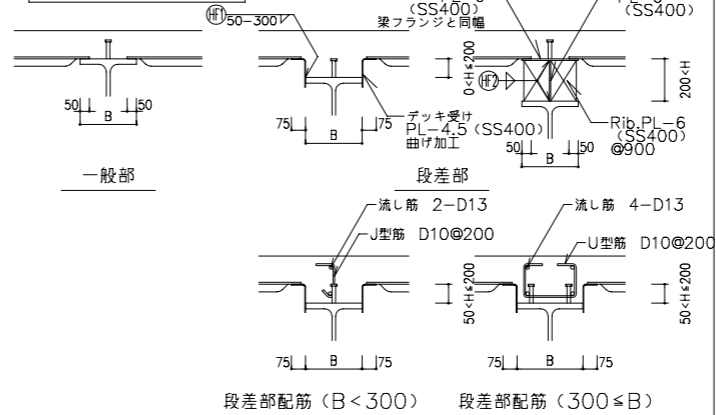


大梁（小梁）-小梁剛接合要領

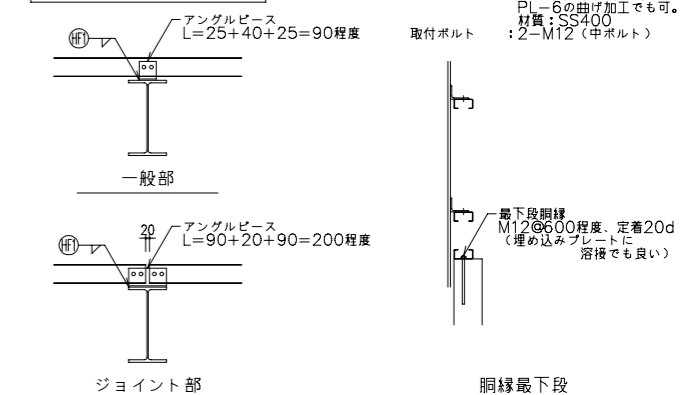
- ・Rib.PLは、接合する小梁ウェブ厚以上、同材質とする。
- ・補強.PLは、接合する小梁フランジ厚以上、同材質とし、完全溶け込み溶接とする。
 ウェブ側はすみ肉溶接とする。



スラブ納まり要領

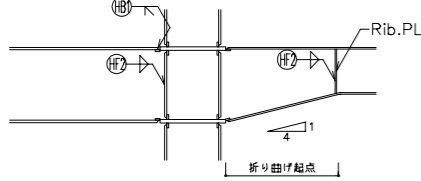


母屋・胴縁取付要領

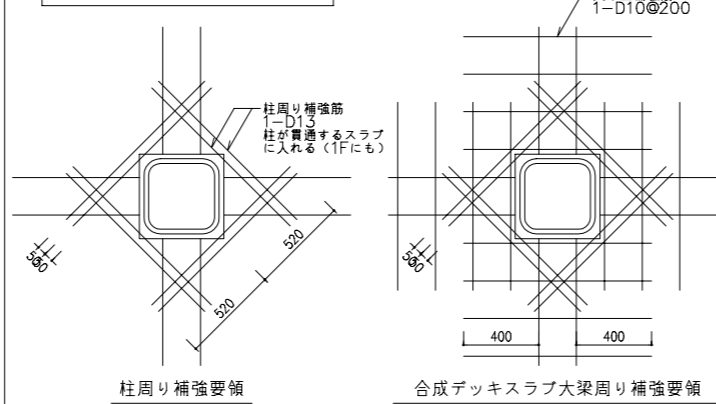


梁鉛直ハンチ要領

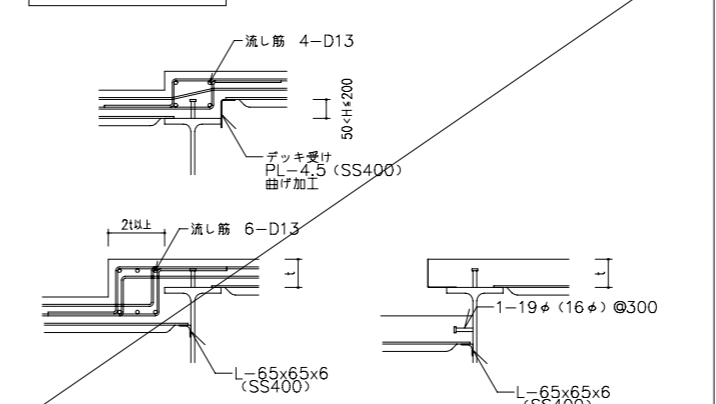
- ・ハンチの勾配は、1/4程度以上とする。
- ・梁フランジの曲げ加工は、外曲げ半径10t以上とする。
- ・Rib.PLは、ウェブと同厚以上、同材質とする。
- ・Rib.PLの位置は曲げ加工部を避け、柱側に設ける。



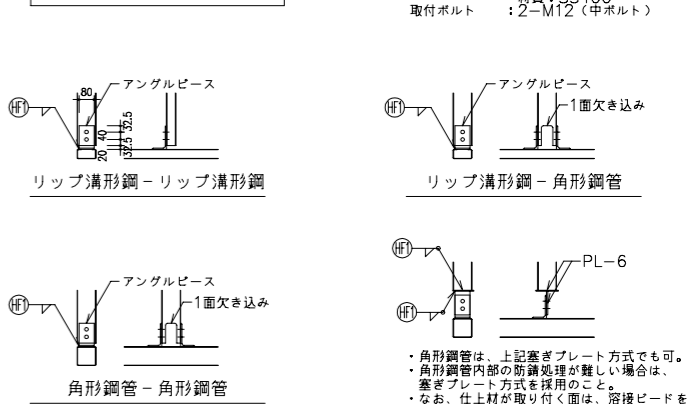
鉄骨柱・大梁周リ補強要領



スラブ段差要領

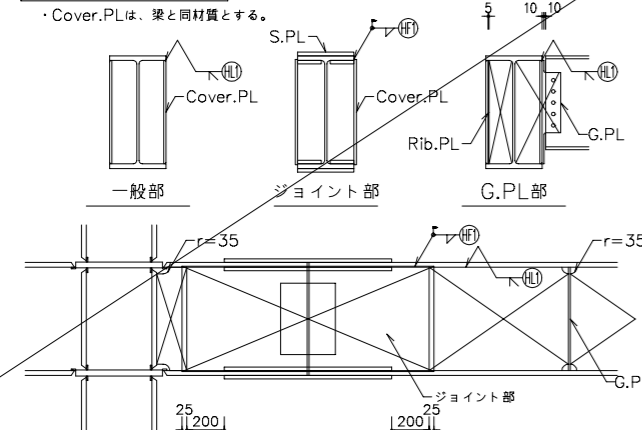


母屋・胴縁交差部要領



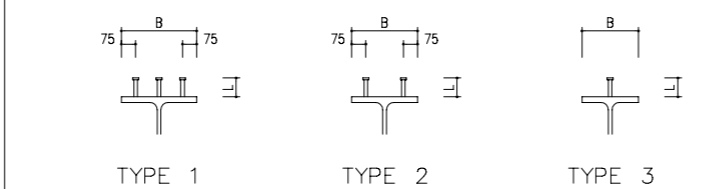
Cover.PL要領

- ・Cover.PLは、梁と同材質とする。



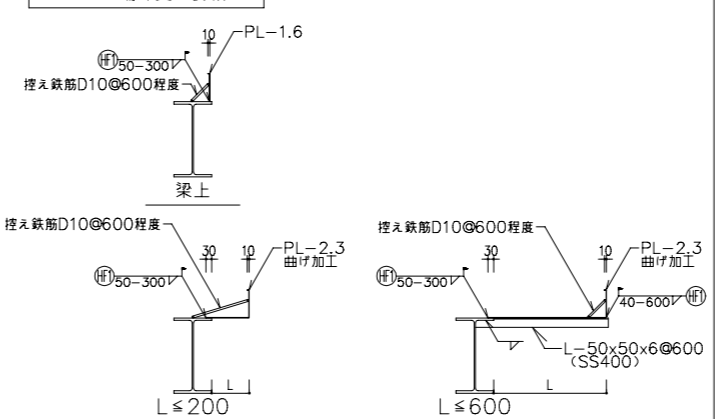
スタッド要領

- ・使用スタッドはJIS B 1198（頭付スタッド）に規定するものとし、スタッド協会会員の製品とする。
 溶接姿勢が横向きになる場合は、横向き姿勢に適合したフェールを使用すること。
- ・溶接技能者は、スタッド協会の有資格者（基本級；A級）とする。ただし、下向き以外の姿勢で溶接を行う場合は、溶接姿勢に合わせた有資格者（専門級；B級）とする。
- ・スタッドの取付範囲は、鉄骨梁で床スラブが取り付く梁とする。
- ・原則として、大梁上はデッキプレートを切断し、スタッドがデッキプレートを貫通しないこと。



TYPE	梁フランジ幅 (B)	スタッド径 (小梁)	スタッドピッチ (P)	スタッド長さ (L)
1	B ≥ 400	19φ (16φ)	300	t ≤ 160 ; L=100
2	400 > B ≥ 300	19φ (16φ)	300	160 < t ; L=130
3	B < 300	19φ (16φ)	300	(tはスラブ厚)

スラブ端部受け要領



工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事
図面名	S要領図 (2)
作成日	令和 6年 3月
縮尺	A1 S= - (A3 S= -) 図面番号 S-07 / 12
会社名	株式会社JR東日本建築設計
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課

構造関係共通図(溶接基準図)

1 溶接記号

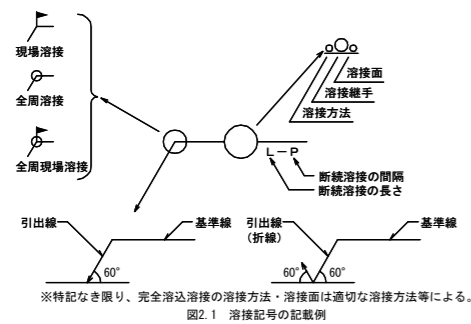
設計図中で使用する記号は、表2.1、表2.2、図2.1を標準とする。

表2.1 溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類記号

溶接方法	分類	記号	
溶接方法	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接	H	
	サブマージアーク自動溶接	A	
	エレクトロスラッグ溶接	E	
溶接継手	完全溶込み溶接	突合せ継手	B
			T
		T型継手	L
		かど継手	L
	隅肉溶接	F	
	部分溶込み溶接	P	
溶接面	フラア溶接	FL	
	片面溶接	1	
	両面溶接	2	

表2.2 溶接の補助記号

区分	補助記号
現場溶接	▲
全周溶接	○
全周現場溶接	⊙
断続溶接の長さ及び間隔	L-P



2 溶接継手の種類別開先標準

突合せ継手の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40	

隅肉溶接の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40	

隅肉溶接のサイズ (単位: mm)

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	13	15	17	19	21	24	

T型継手の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40	

部材が直交しない場合の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
6 < t ≤ 40		6 < t ≤ 19	
6 < t ≤ 19		19 < t ≤ 40	

かど継手の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 19	
19 < t ≤ 40		19 < t ≤ 40	

隅肉溶接の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	

隅肉溶接のサイズ (単位: mm)

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	13	15	17	19	21	24	

部分溶込み溶接の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
12 ≤ t ≤ 40	
16 ≤ t ≤ 40	

フラア溶接の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)			
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼レ形溶接)
t ≤ 3のとき S=t			
t < 3のとき S=3			

フラア溶接の開先標準

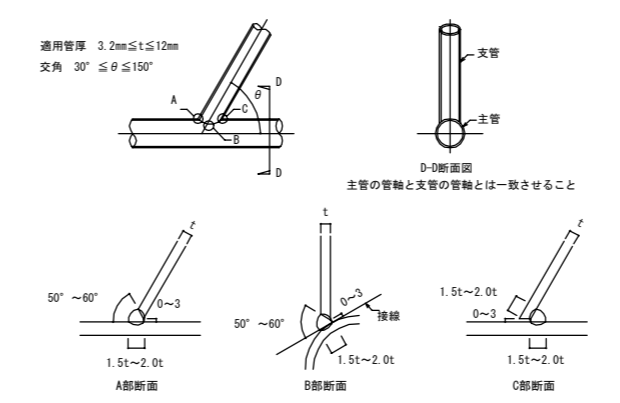
スニップカットの寸法 (単位: mm)

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

※ただし、既製形鋼のスニップカットについては、Sc=r+2により求めるものとする。

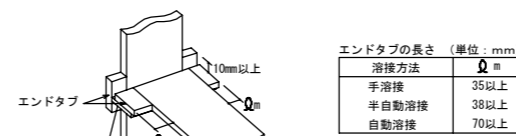
3 鋼管分岐継手

自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。



4 鉄骨溶接施工

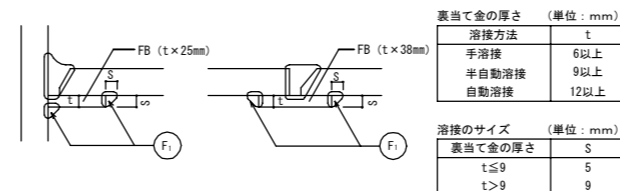
(1) エンドタブ等
①エンドタブの形状は母材と同厚・同開先のものとする。



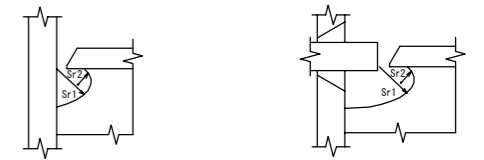
②エンドタブの鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。
③スプラインプレートの材質、鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。
④フィラープレートの材質は、SS400とする。

(2) 裏当て金

裏当て金の溶接
①裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置に行ってはならない。
②完全溶込み位置溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内部に設置する。
裏当て金の鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。



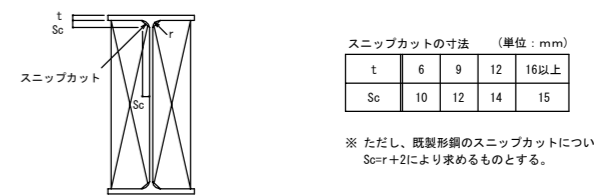
(3) スクラップ
改良型スクラップ
①スクラップ半径Sr1は35mmとする。Sr2は10mmとする。
②スクラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



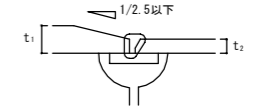
従来型スクラップ
①スクラップ半径Srは35mmとする。



(4) スニップカット
①スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



(5) 溶接部分の段差
①完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合

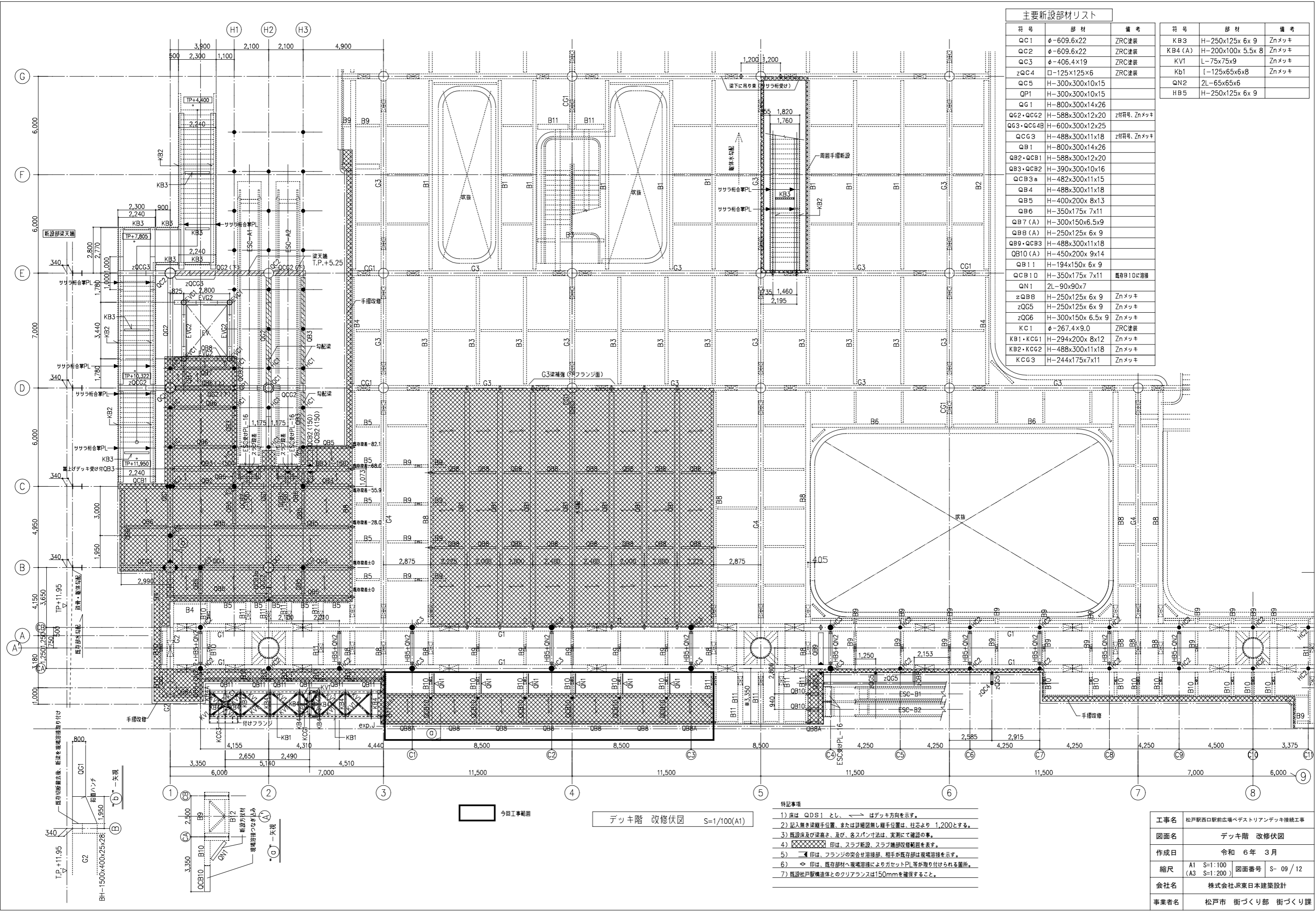


(7) 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	バス間温度 (°C)
400N級鋼	JIS Z 3211	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	JIS Z 3214		
	YGA-50W, 50P		
490N級鋼	JIS Z 3211	40以下	350以下
	YGW-11, 15	30以下	250以下
	YGA-50W, 50P	40以下	350以下
520N級鋼	YGW-18, 19	30以下	250以下
400N級STKR、BCR及びBCP	YGW-11, 15	30以下	250以下
	YGW-18, 19	40以下	350以下
490N級STKR、及びBCP	YGW-18, 19	30以下	250以下

注) 材質・強度の異なる鋼材の溶接部については、高い強度の種類とする。

工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事
図面名	溶接基準図
作成日	令和 6年 3月
縮尺	A1 S= - (A3 S= -) 図面番号 S-08 / 12
会社名	株式会社JR東日本建築設計
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課

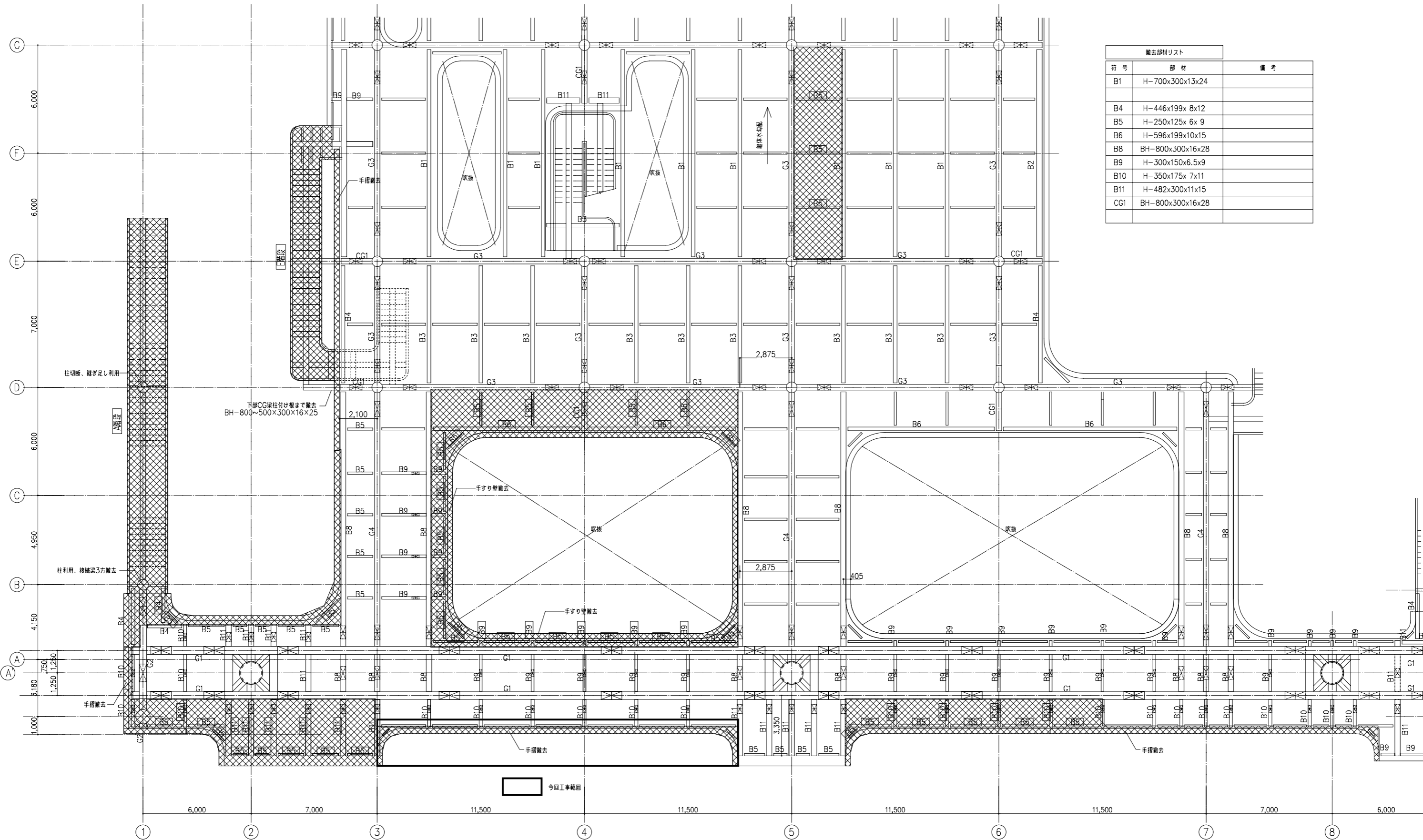


主要新設部材リスト			
符号	部材	備考	
QC1	φ-609.6x22	ZRC塗装	
QC2	φ-609.6x22	ZRC塗装	
QC3	φ-406.4x19	ZRC塗装	
zQC4	□-125x125x6	ZRC塗装	
QC5	H-300x300x10x15		
QP1	H-300x300x10x15		
QG1	H-800x300x14x26		
QG2・QC2	H-588x300x12x20	z付符号、Znメッキ	
QG3・QC64B	H-600x300x12x25		
QC63	H-488x300x11x18	z付符号、Znメッキ	
QB1	H-800x300x14x26		
QB2・QCB1	H-588x300x12x20		
QB3・QCB2	H-390x300x10x16		
QCB3a	H-482x300x11x15		
QB4	H-488x300x11x18		
QB5	H-400x200x8x13		
QB6	H-350x175x7x11		
QB7(A)	H-300x150x6.5x9		
QBB(A)	H-250x125x6x9		
QB9・QCB3	H-488x300x11x18		
QB10(A)	H-450x200x9x14		
QB11	H-194x150x6x9		
QCB10	H-350x175x7x11	既存B10に溶接	
QN1	2L-90x90x7		
zQB8	H-250x125x6x9	Znメッキ	
zQG5	H-250x125x6x9	Znメッキ	
zQG6	H-300x150x6.5x9	Znメッキ	
KC1	φ-267.4x9.0	ZRC塗装	
KB1・KCG1	H-294x200x8x12	Znメッキ	
KB2・KCG2	H-488x300x11x18	Znメッキ	
KCG3	H-244x175x7x11	Znメッキ	

符号	部材	備考
KB3	H-250x125x6x9	Znメッキ
KB4(A)	H-200x100x5.5x8	Znメッキ
KV1	L-75x75x9	Znメッキ
Kb1	L-125x65x6x8	Znメッキ
QN2	2L-65x65x6	
HB5	H-250x125x6x9	

- 特記事項
- 床は QDS1 とし、 ← はデッキ方向を示す。
 - 記入無き梁継手位置、または詳細図無し継手位置は、柱より 1,200とする。
 - 既設床及び梁高さ、及び、各スパン寸法は、実測にて確認の事。
 - 印は、スラブ断設、スラブ無断設改修範囲を表す。
 - 印は、フランジの完全溶接部、相手が既存部は現場溶接を示す。
 - 印は、既存部材へ現場溶接によりカセットPL等が取り付けられる箇所。
 - 既設松戸駅構内とのクリアランスは150mmを確保すること。

工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事		
図面名	デッキ階 改修伏図		
作成日	令和 6年 3月		
縮尺	A1 S=1:100 A3 S=1:200	図面番号	S-09/12
会社名	株式会社 東日本建築設計		
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課		



撤去部材リスト		
符号	部材	備考
B1	H-700x300x13x24	
B4	H-446x199x 8x12	
B5	H-250x125x 6x 9	
B6	H-596x199x10x15	
B8	BH-800x300x16x28	
B9	H-300x150x6.5x9	
B10	H-350x175x 7x11	
B11	H-482x300x11x15	
CG1	BH-800x300x16x28	

工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTロアンデッキ接続工事		
図面名	デッキ階 撤去伏図		
作成日	令和 6年 3月		
縮尺	A1 S=1:100 (A3 S=1:200)	図面番号	S- 10 / 12
会社名	株式会社JR東日本建築設計		
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課		

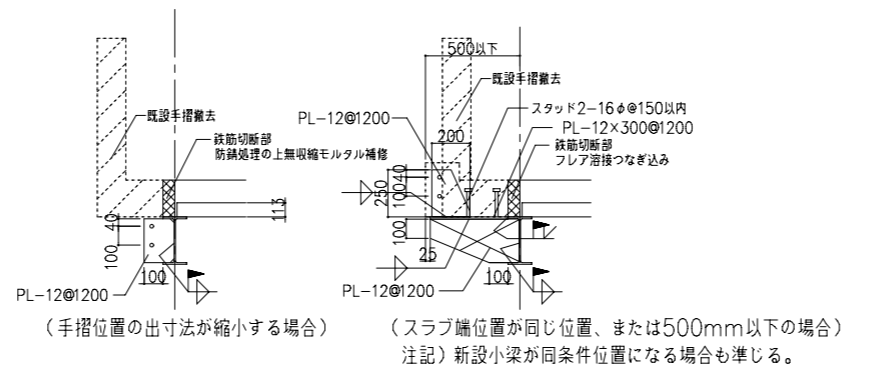
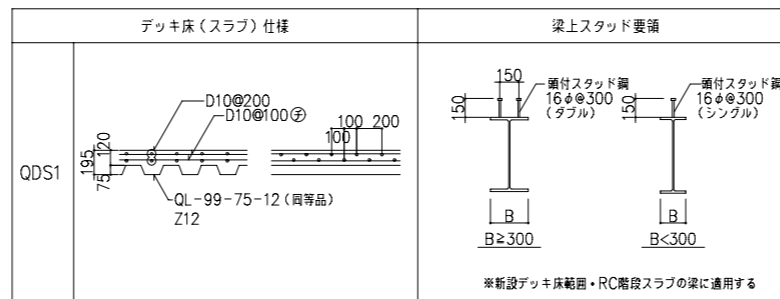
新設部材リスト

特記事項

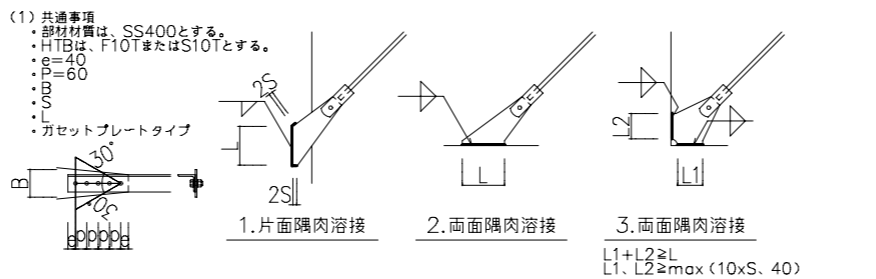
1. 鋼材種記入無き部材はSN400A材とする。
2. ボルトは高力ボルトS10Tとし、機械締め付けが出来ない所はF10Tとして良い。
3. 「Znメッキ」は溶融亜鉛メッキ処理を示し、止め付けは高力ボルトF8Tとする。本数は表記と同じ。
4. 「Znメッキ」部材を現場溶接する場合は溶接対象部は非メッキ処理とし、溶接後にZRC塗装を行う。

符号	部材	鋼材種	継手
【デッキ増設】			
QC1	○-609.6φx22.0 (ZRC塗装同等処理)	STKN490B	
QC2	○-609.6φx22.0 (ZRC塗装同等処理)	STKN490B	
QC3	○-406.4φx19.0 (ZRC塗装同等処理)	STKN490B	
ZQC4	□-125x125x6 (ZRC塗装同等処理)	STKR400	
QC5	H-300x300x10x15	SN400B	
QP1	H-300x300x10x15	SN400B	
QG1	H-800x300x14x26	SN400B	
QG2-QCG2	H-588x300x12x20	SN400B	
QG3-QCG4	H-600x300x12x25	SN400B	
QCG3	H-488x300x11x18	SN400B	
QC4	H-400x400x13x21	SN400B	
QB1	H-800x300x14x26	SN400B	G.PL-16, 2S.PL-12x620x170, 2x10-M22φ60
QB2-QCB1	H-588x300x12x20	SN400B	G.PL-16, 2S.PL-9x440x170, 2x7-M22φ60
QB3-QCB2	H-390x300x10x16	SN400B	G.PL-12, 2S.PL-9x260x170, 2x3-M22φ90
QB4	H-488x300x11x18	SN400B	G.PL-16, 2S.PL-9x320x170, 2x5-M22φ60
QB5	H-400x200x8x13	SN400B	G.PL-9, 4-M20
QB6	H-350x175x7x11	SN400B	G.PL-9, 3-M20φ80
QB7	H-300x150x6.5x9	SN400B	G.PL-9, 3-M20φ80
QB7A	H-300x150x6.5x9	SS400	G.PL-16, 2S.PL-9, 3-M20φ80
QB8	H-250x125x6x9	SN400B	G.PL-9, 3-M16 片フランジ切断
QB8A	H-250x125x6x9	SN400B	既存側、既存(B5)合わせゲージ等、G.PL-9, 2S.PL-6, 2-M20新設側、G.PL-9, 3-M16 片フランジ切断
QB9-QCB3	H-488x300x11x18	SN400B	G.PL-12, 2S.PL-12x320x170, 2x5-M22φ60
QCB3a	H-482x300x11x15	SS400	またはB, 片材(SN400B)とする(既設梁への接続部)。継手はQB9に同じ
QB10	H-450x200x9x14	SN400B	G.PL-9, 2S.PL-9x320x170, 2x5-M20
QB11	H-194x150x6x9	SS400	G.PL-9, 2S.PL-9x140x170, 2-M20
QB12	H-200x100x5.5x8	SS400	G.PL-12, 2-M20 片フランジ切断
QCB10	H-350x175x7x11	SN400B	既存B10(H-350x175)に溶接 既存G1(BH-1500x400)に溶接
QN1	2L-90x90x7	SS400	G.PL-9, 4-M20 ・はさみ板PL-9, 1-M20φ800内
QN2	2L-65x65x6	SS400	G.PL-9, 3-M16 ・はさみ板PL-9, 1-M16φ630内
QT1	2L-90x90x7	SS400	G.PL-12, 3-M20 ・はさみ板PL-12, 1-M20φ800内
ZQG5	H-250x125x6x9 (Znメッキ)	SN400B	ピン継手 G.PL-9 2SPL-6,3-M16 (F8T) 剛接継手側 ウェブ 2S.PL-6x160x170, 2x2-M16 (F8T) フランジ 外1S.PL-9x125x410 2x6-M16 (F8T) 内2S.PL-9x50x410
ZQG6	H-300x150x6.5x9 (Znメッキ)	SN400B	溶接止め、(溶接部メッキ処理)
ZQB8	H-250x125x6x9 (Znメッキ)	SS400	G.PL-9, 3-M16 (F8T)
【庇増設】			
HC1	○-216.3φx8.2 (ZRC塗装)	STKN490B	
HC2	○-267.4φx9.3 (ZRC塗装)	STKN490B	
HC3	○-318.5φx9.0 (ZRC塗装)	STKN490B	
HG1	H-244x175x7x11	SN400B	
HG1A	HA端: BH-294~244x175x9x12 他端,中央: H-244x175x7x11	SN400B	
HG2	H-294x200x8x12	SN400B	
HG3	H-450x200x9x14	SN400B	
HG4	BH-244x200x9x19	SN400B	フランジ、斜形状
HB1	H-244x175x7x11	SN400B	G.PL-9, 3-M20
HB2	H-294x200x8x12	SN400B	G.PL-9, 3-M20
HB3	□-150x150x6	STKR400	G.PL-9, 2-M16 端部、CT-125x175x7x11 取付
HB4 (A)	H-194x150x6x9 (構保イ)	SN400B	G.PL-9, 2-M20 A符号付きの片端部納まりは詳細図による。
HB5	H-250x125x6x9	SN400B	G.PL-9, 2S.PL-9x160x170, 2-M20φ80
HB6	H-150x150x7x10	SN400B	G.PL-9, 2-M20
HB7	H-175x175x7.5x11	SN400B	G.PL-9, 2-M20
HCG1/HCB1	H-294x200x8x12	SN400B	

符号	部材	鋼材種	継手
【階段 新設】			
KC1	○-267.4φx9.0 (ZRC塗装同等処理)	STKN400B	
KC2	□-350x350x12 (ZRC塗装同等処理)	BCR295	
KB1-KCG1	H-294x200x8x12 (Znメッキ処理)	SN400B	G.PL-9, HTB 3-M20
KB2-KCG2	H-488x300x11x18 (Znメッキ処理)	SN400B	G.PL-12, 2S.PL-9x320x170, HTB 2x5-M22φ60
KCG3	H-244x175x7x11 (Znメッキ処理)	SN400B	G.PL-9, HTB 3-M20
KB3	H-250x125x6x9 (Znメッキ処理)	SN400B	G.PL-9, HTB 2-M20φ100 片フランジ切断
KB4,KB4A	H-200x100x5.5x8 (Znメッキ処理)	SS400	G.PL-9, HTB 2-M16φ60
Kb1	[-125x65x6x8 (Znメッキ処理)	SS400	KB1上フランジに現場溶接
KV1	L-75x75x9 (Znメッキ処理)	SS400	G.PL-9, HTB 3-M20φ60
【EV 新設】			
EVC1	○-267.4φx9.3	STKN490B	
EVP1	□-200x200x6	STKR400	
EVG1	H-294x200x8x12	SN400B	
EVG2	H-250x250x9x14	SN400B	
EVB1	H-175x175x7.5x11	SN400B	G.PL-9, 2-M20
EVB2	H-125x125x6.5x9	SN400B	G.PL-6, 2-M16 F.Bolt 2-M16
EH1	1-M16 (JISブレース)	SS400	G.PL-9, 1-M16 羽子板FB-6x50x200



既設手摺改修要領 S=1/20 共通事項) 配筋要領は部分詳細図(1)参照



部材 (SS400)	ボルト (S10T,F10T,F8T)	ガセットプレート (SS400)		
		プレート (mm)	B (mm)	S (mm)
L-75x75x9	3-M20	PL-9	118	7
			317	173
			187	

ブレース取付要領 S=1/20

梁 継手リスト

特記事項

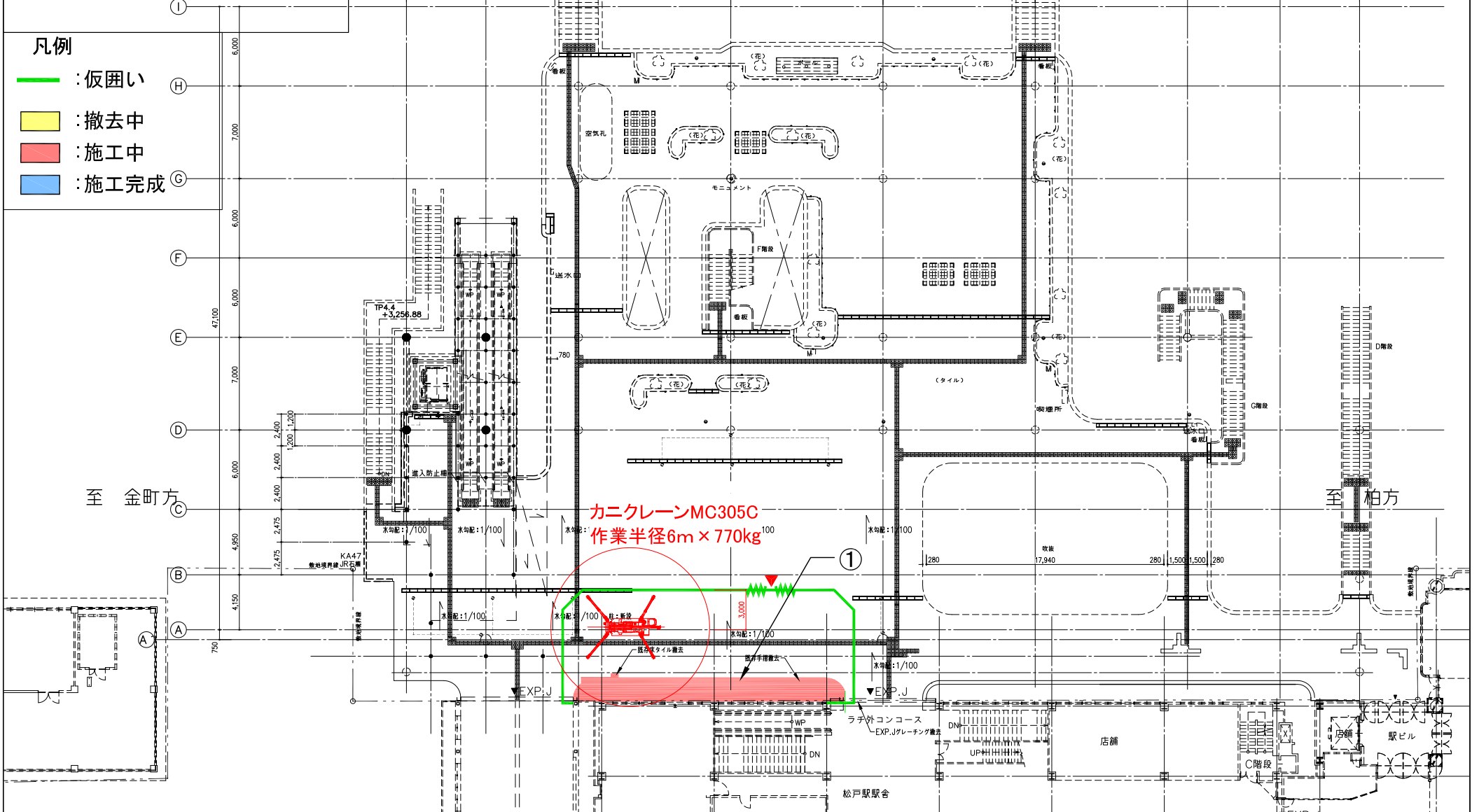
1. 添え板強度は母材に合わせる。材質はSS400でも可とする。
2. ボルトは高力ボルトS10Tとし、機械締め付けが出来ない所はF10Tとして良い。
2. 溶融亜鉛メッキ処理部材の止め付けは、高力ボルトF8Tとし、本数は記述に同じ。

部材	H-244x175x 7x11					H-250x250x 9x14				
継手										
フランジ	2x2	4-M20	PL-9x175x290	g1	105	4x2	6-M20	PL-9x250x410	g1	150
ウェブ	2x1	2-M20	2PL-9x70x290	g2	-	2x1	2-M20	2PL-12x100x410	g2	-
部材	H-294x200x 8x12					H-450x200x 9x14				
継手										
フランジ	3x2	6-M20	PL-9x200x410	g1	120	3x2	6-M20	PL-12x200x410	g1	120
ウェブ	3x1	3-M20	2PL-9x80x410	g2	-	3x1	3-M20	2PL-12x80x410	g2	-
部材	BH-244x200x 9x19					H-390x300x10x16				
継手										
フランジ	2x2	4-M20	PL-12x200x290	g1	120	3x2	6-M22	PL-12x300x350	g1	150
ウェブ	2x1	2-M20	2PL-12x80x290	g2	-	3x1	3-M22	2PL-12x110x350	g2	40
部材	H-488x300x11x18					H-588x300x12x20				
継手										
フランジ	4x2	8-M22	PL-12x300x440	g1	150	4x2	8-M22	PL-16x300x440	g1	150
ウェブ	5x1	5-M22	2PL-16x110x440	g2	40	7x1	7-M22	2PL-16x110x440	g2	40
部材	H-600x300x12x25					H-800x300x14x26				
継手										
フランジ	5x2	10-M22	PL-19x300x530	g1	150	5x2	12-M22	PL-22x300x620	g1	150
ウェブ	7x1	7-M22	2PL-19x110x530	g2	40	10x1	10-M22	2PL-22x110x620	g2	40
部材	H-244x175x 7x11					H-250x250x 9x14				
継手										
フランジ	5x2	10-M22	PL-19x300x530	g1	150	5x2	12-M22	PL-22x300x620	g1	150
ウェブ	7x1	7-M22	2PL-19x110x530	g2	40	10x1	10-M22	2PL-22x110x620	g2	40

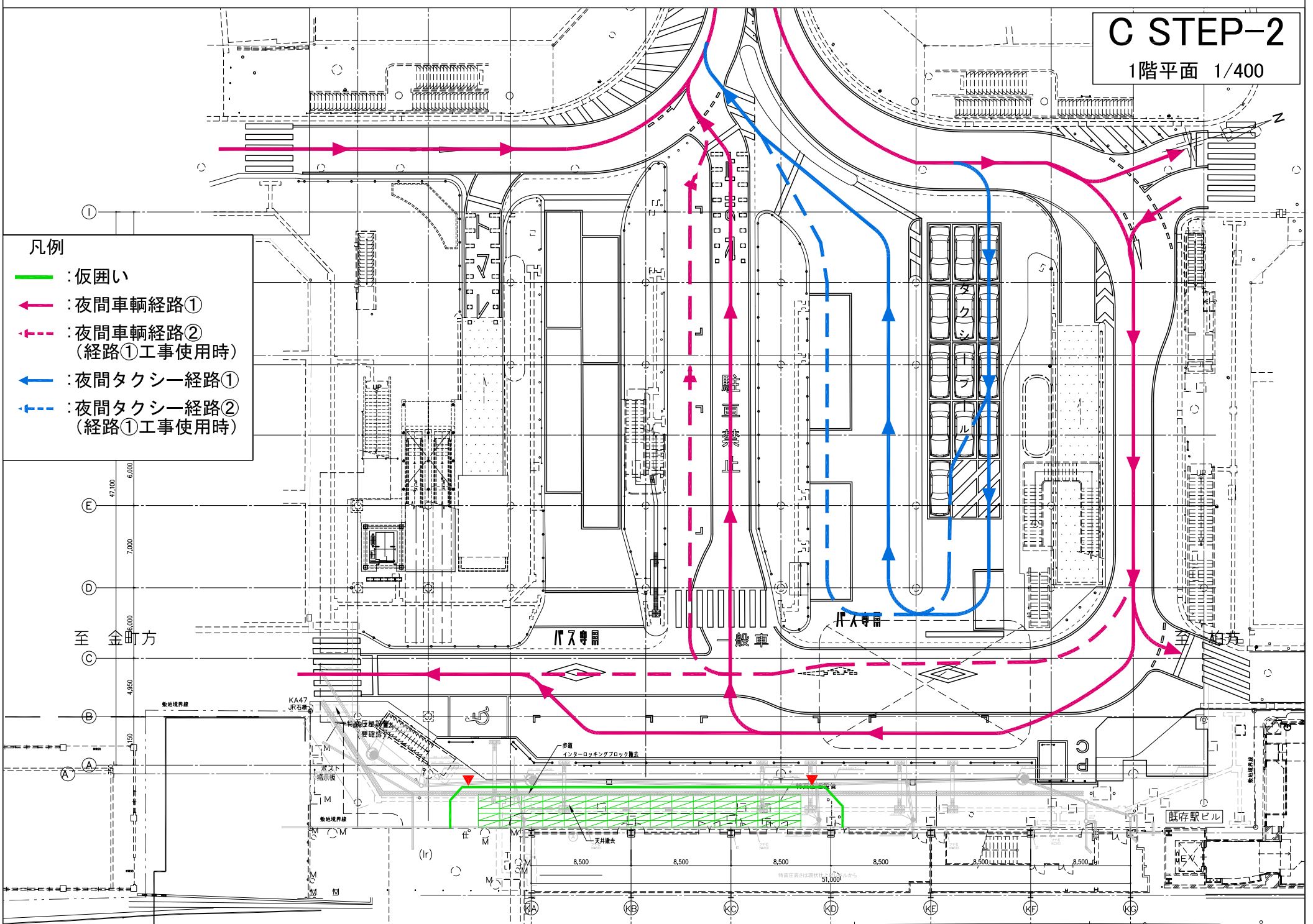
工事名	松戸駅西口駅前広場ペDESTリアンデッキ接続工事		
図面名	部材リスト		
作成日	令和 6年 3月		
縮尺	A1 S=1:30-20 A3 S=1:60-40	図面番号	S- 12 / 12
会社名	株式会社JR東日本建築設計		
事業者名	松戸市 街づくり部 街づくり課		

①RC床新設(躯体・仕上・EXP)
(昼)

C STEP-2
デッキ階平面 1/400

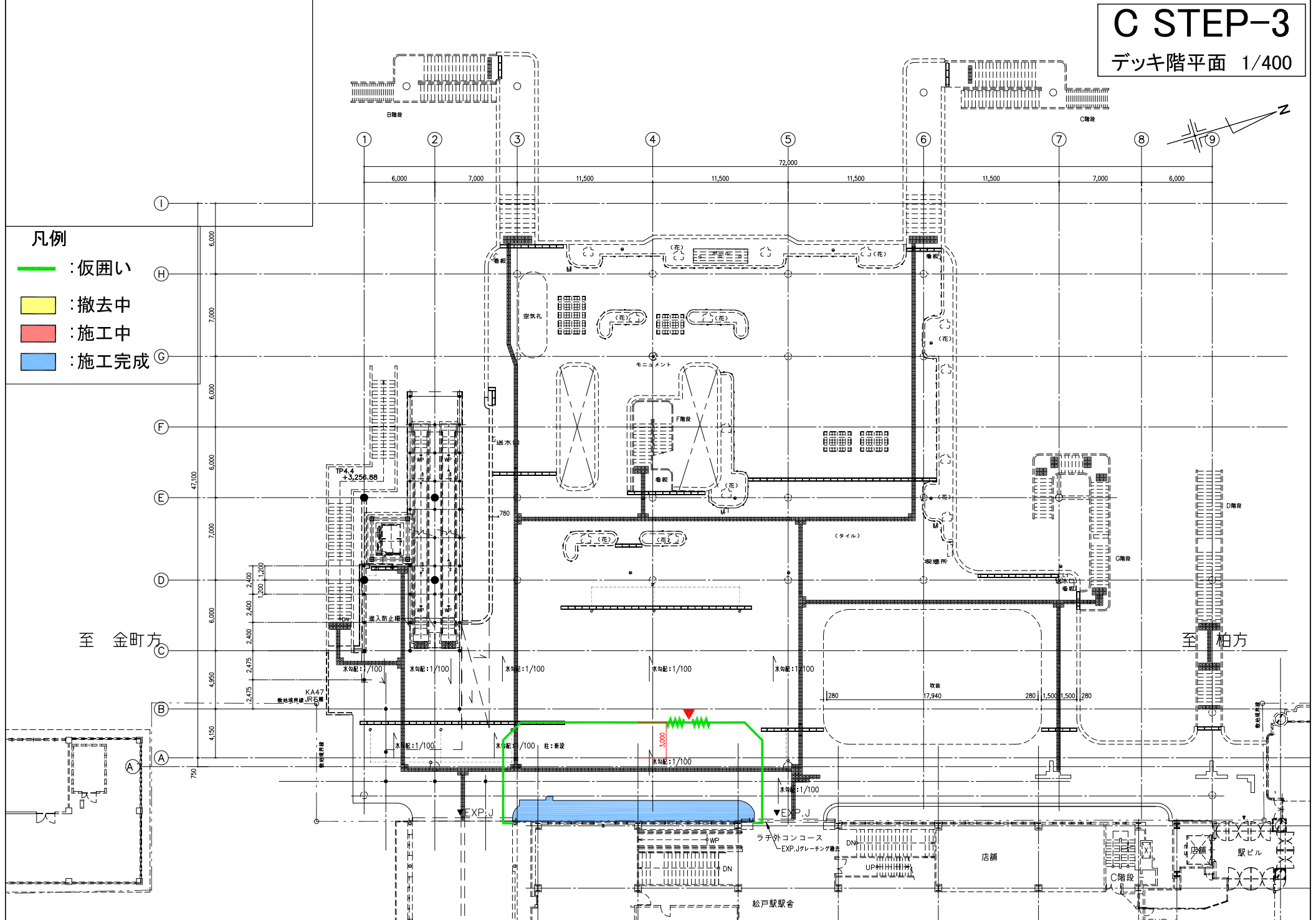


C STEP-2
1階平面 1/400



C STEP-3

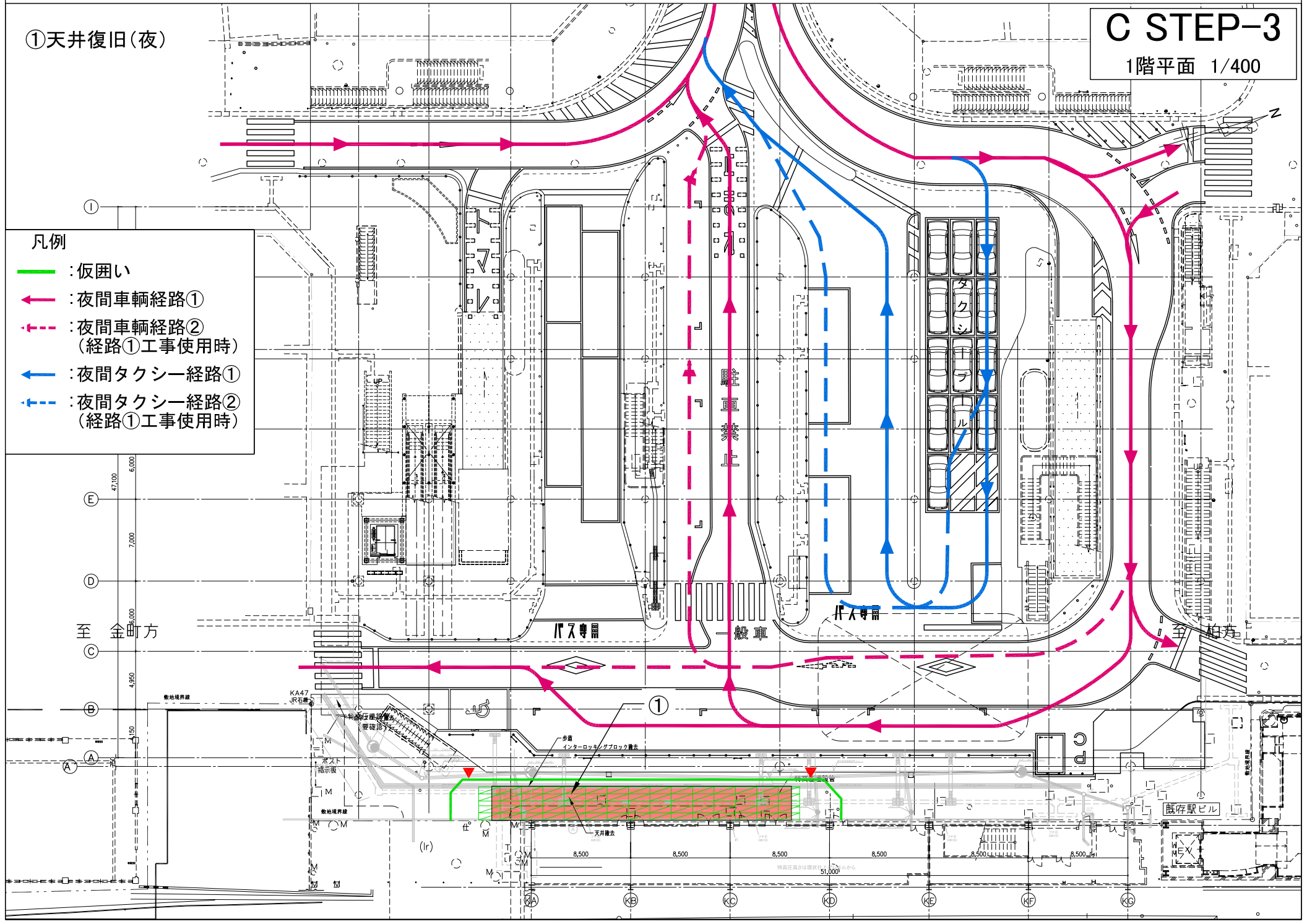
デッキ階平面 1/400



①天井復旧(夜)

C STEP-3

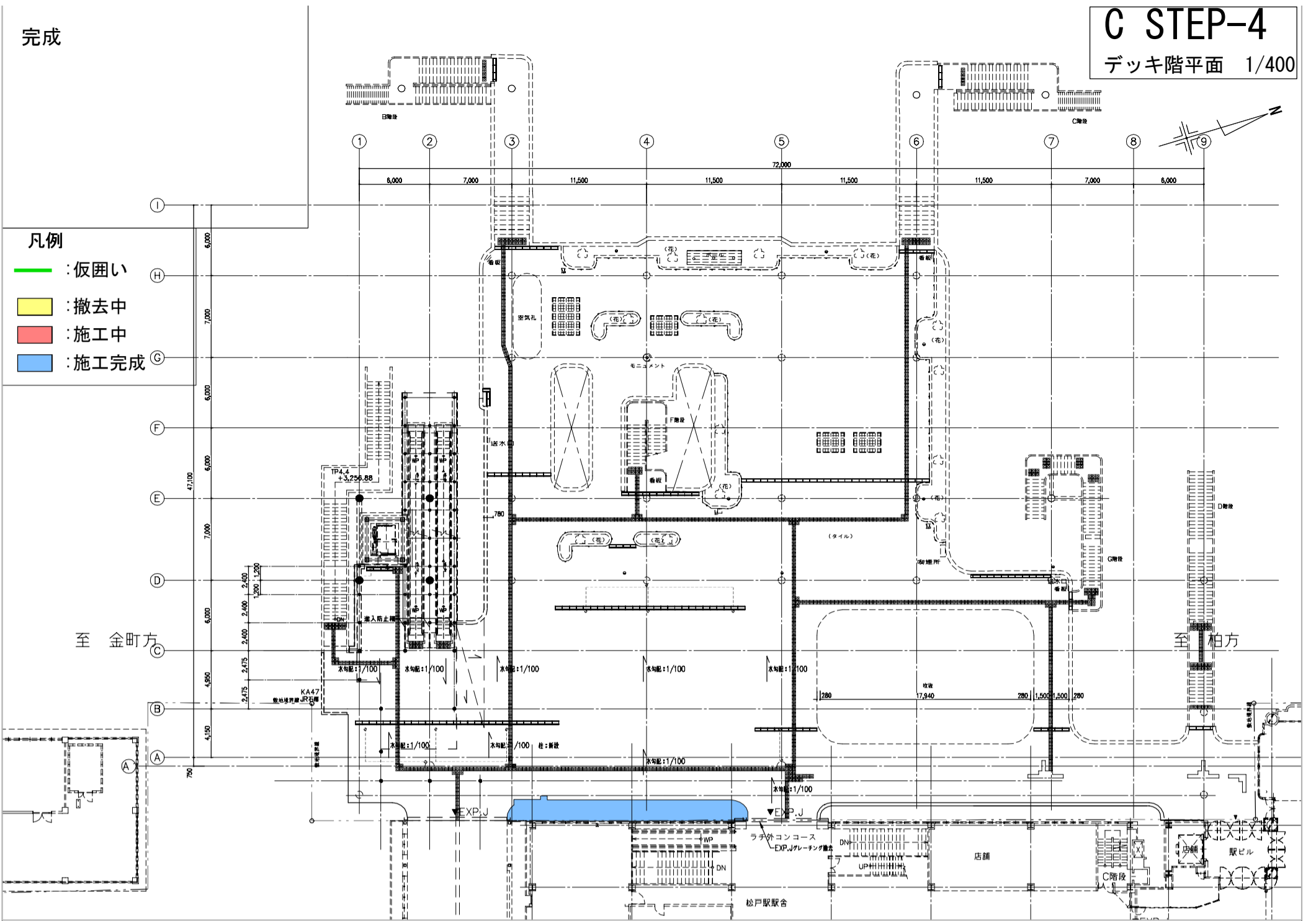
1階平面 1/400



完成

C STEP-4

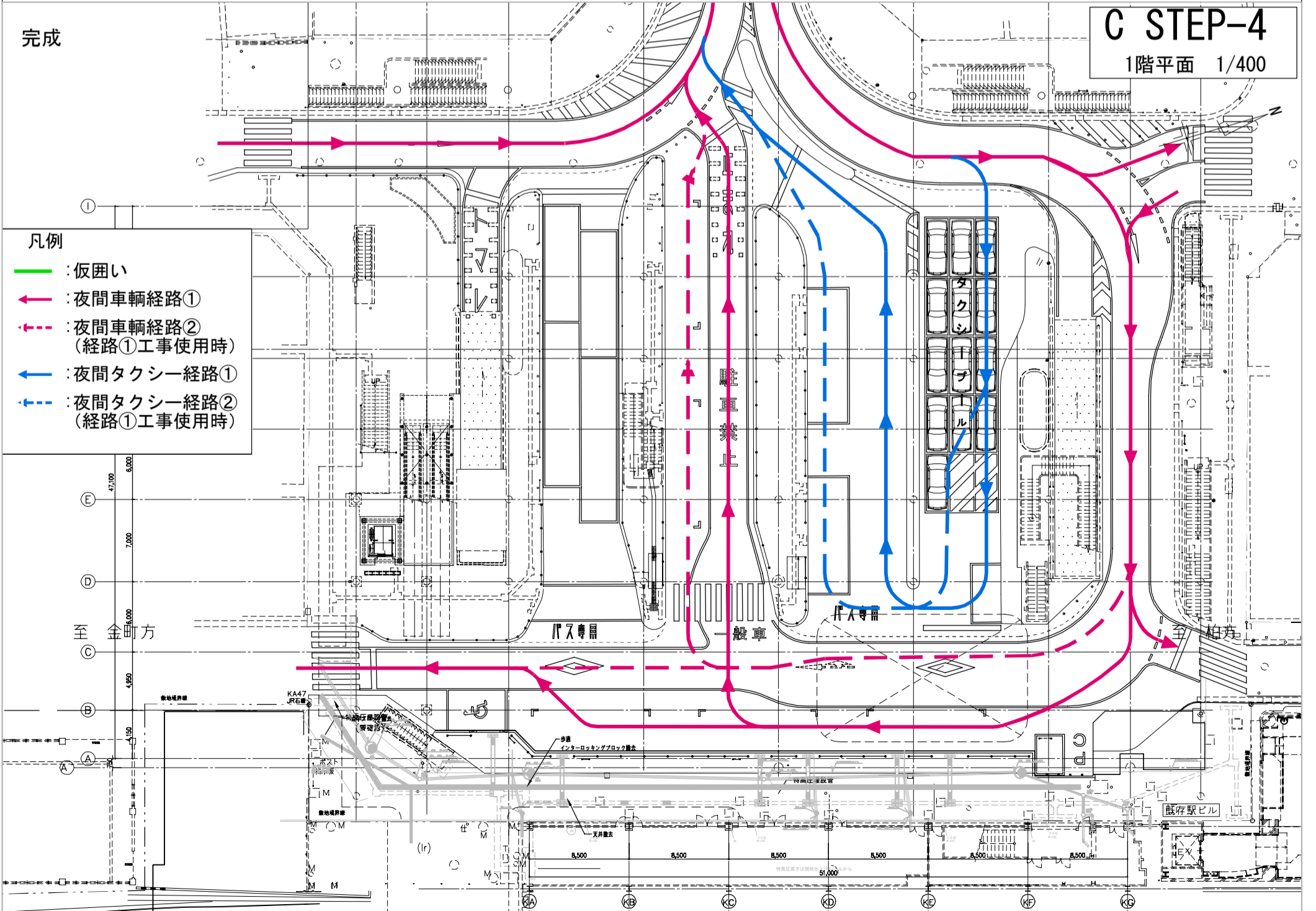
デッキ階平面 1/400



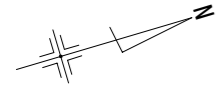
完成

C STEP-4

1階平面 1/400

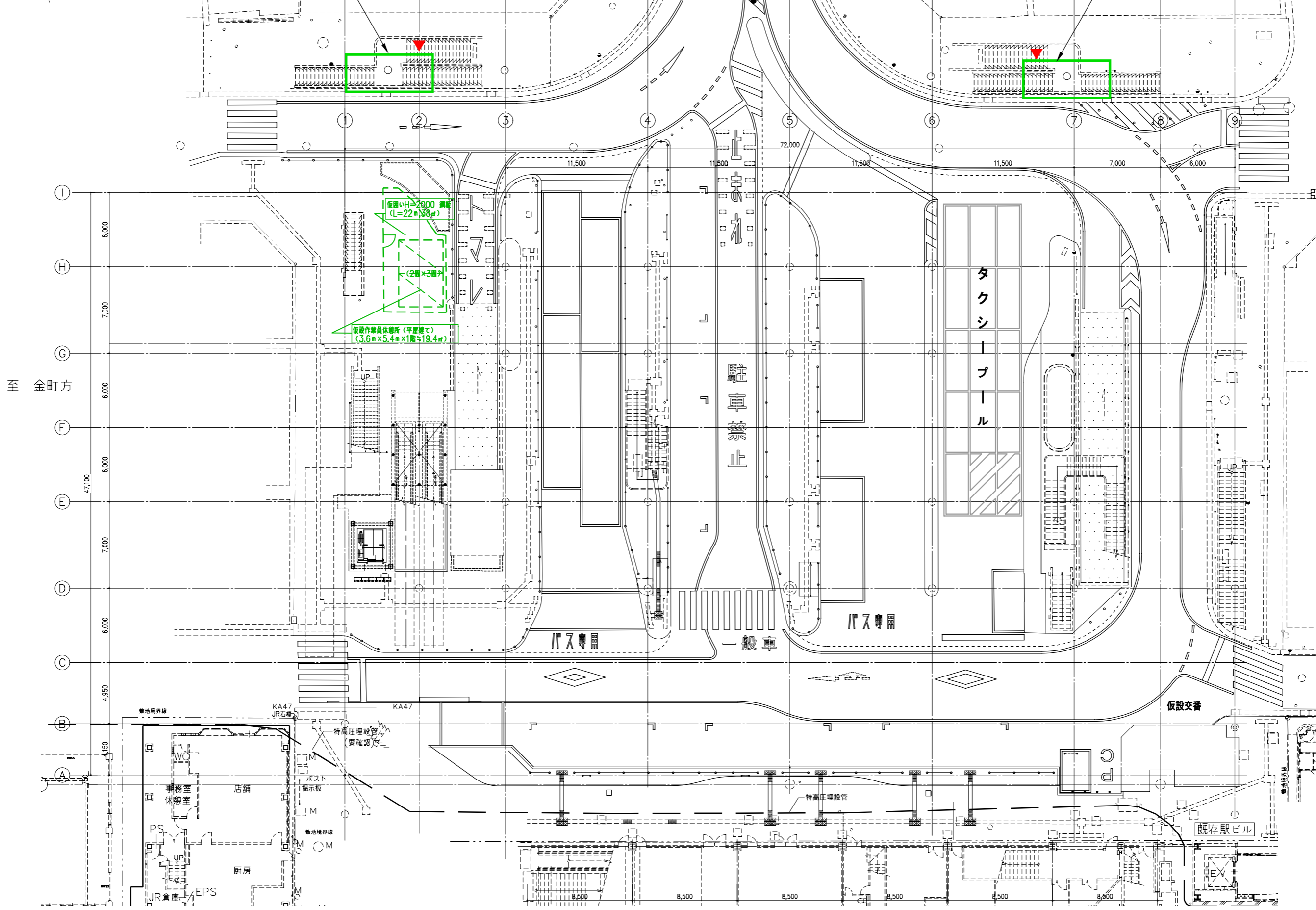


(参考図)



踊場下 (1階) に仮囲

踊場下 (1階) に仮囲



凡例
 ———— : 仮囲い

至 金町方

至 柏方

バス専用

一般車

バス専用

仮設交番

既存駅ビル

敷地境界線
 KA47
 JR石橋
 特高圧埋設管 (要確認)
 ポスト
 掲示板
 敷地境界線
 事務所
 休憩室
 PS
 厨房
 JR倉庫
 EPS

タクシープール

駐車禁止

仮囲いH=2000 鋼板
 (L=22m x 38m)
 (2層 x 3層分)
 仮設作業員休憩所 (平屋建て)
 (3.6m x 5.4m x 1階 ±19.4m)